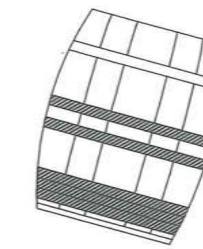




# 立ち湯温泉

# 『ゆっ蔵』～日本最深の立ち湯温泉～



家族構成 趣味	
父	(39) アウトドア
母	(37) 料理
息子	(16) サウナ

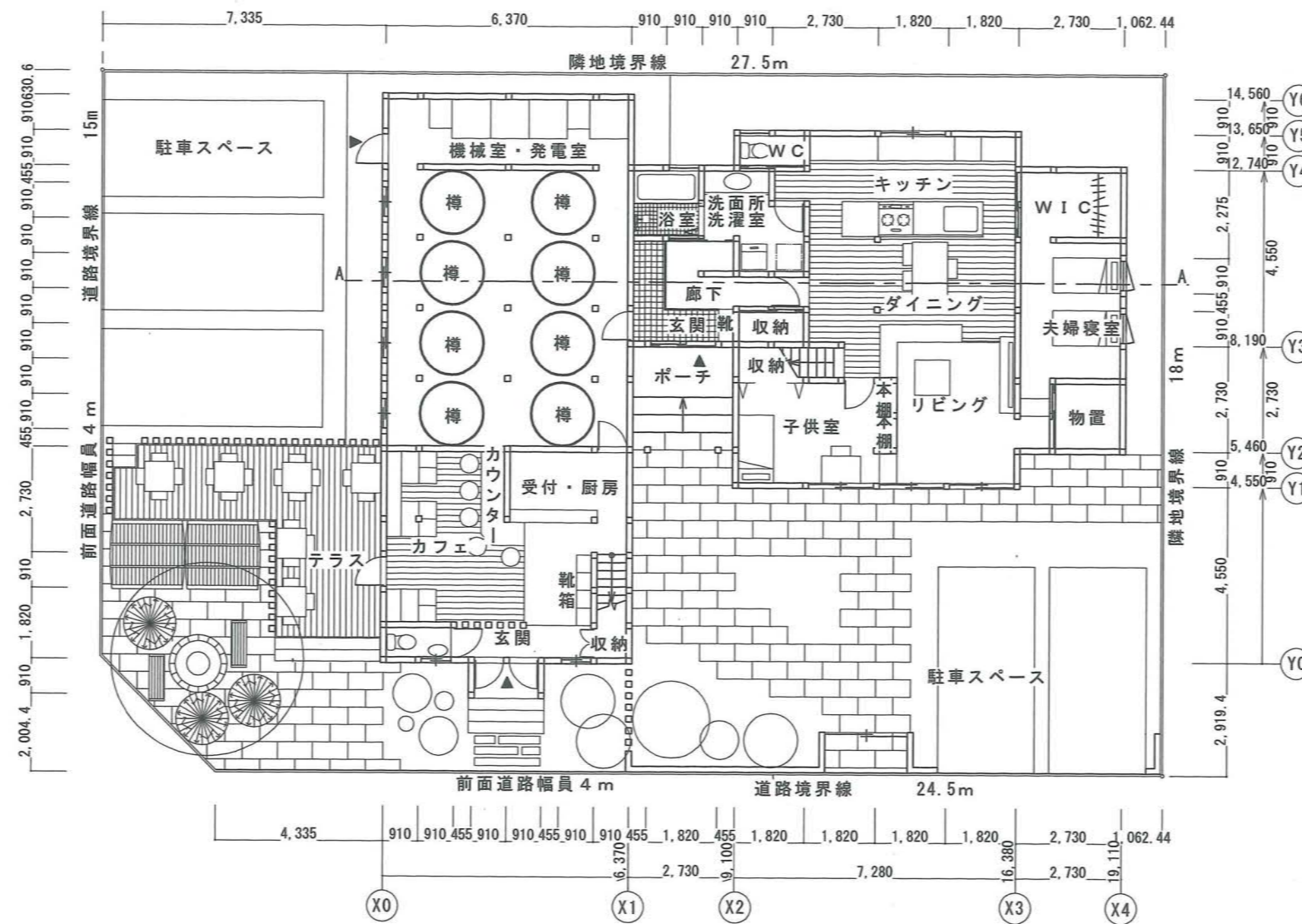
## 設計主旨

「深いお風呂に入りたい」人生で一度は思うのではないか。この「ゆっ蔵」は、立ち湯の公衆浴場である。内子の街並みの入口にあり、地元住民や観光客の疲れを癒してくれる。

「ゆっ蔵」は、酒蔵をリノベーションした。また、残されていた酒樽を再利用している。浴場は2階にある。酒樽は10あり、立ち湯(6)、水風呂(2)、サウナ(2)となっている。定員があり、男女ともに9人となっている。

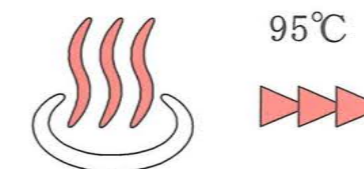
一階には、カフェがある。樽テラスからも利用できる。樽テラスにより、街道の賑わいや親しみのある景観を創出する。また、日本は古くから温泉熱を活用してきた。機械室には、発電装置を設置し、住宅の空調・床暖房に活用する。

住宅は、サーキュレーションプランとした。様々な動線を生むとともに、自然に家族間のコミュニケーションを押し広げ、暮らしを楽しむことにつながる。

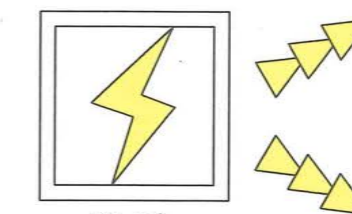


配置図兼一階平面図1/150

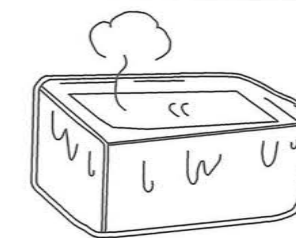
## 再生可能エネルギー



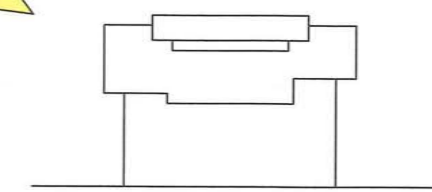
95°C



発電



45°Cの湯



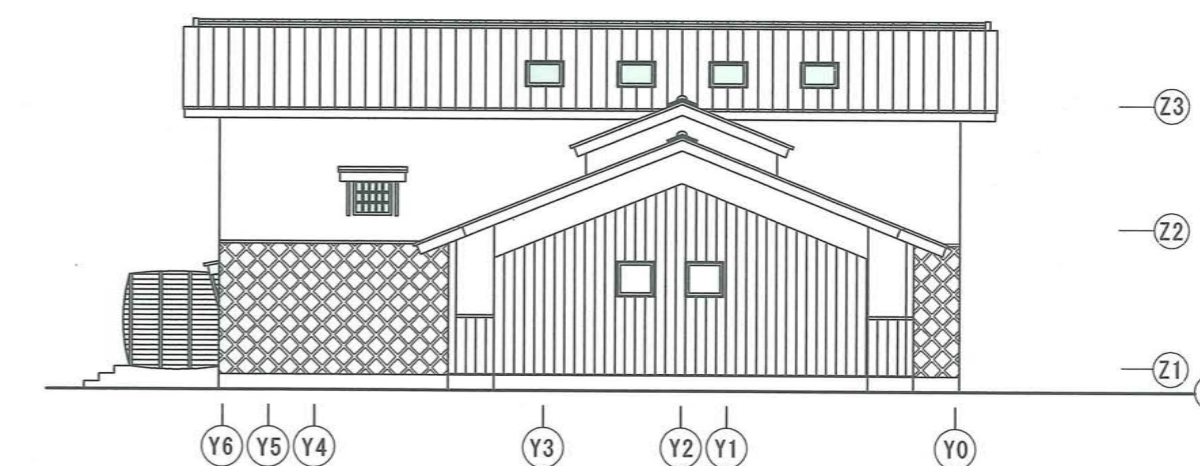
空調・床暖房

源泉

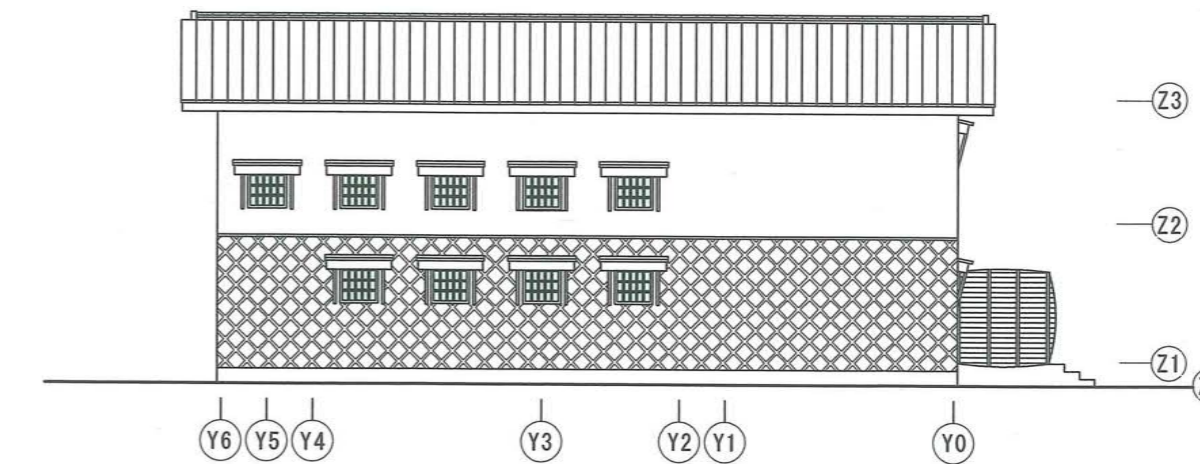
温泉を有効活用するために温泉温度差発電の技術を用いている。発電する時に源泉の温度を下げられるので、源泉を冷ますために使われているエネルギーを削減できる。



## 外観デザイン



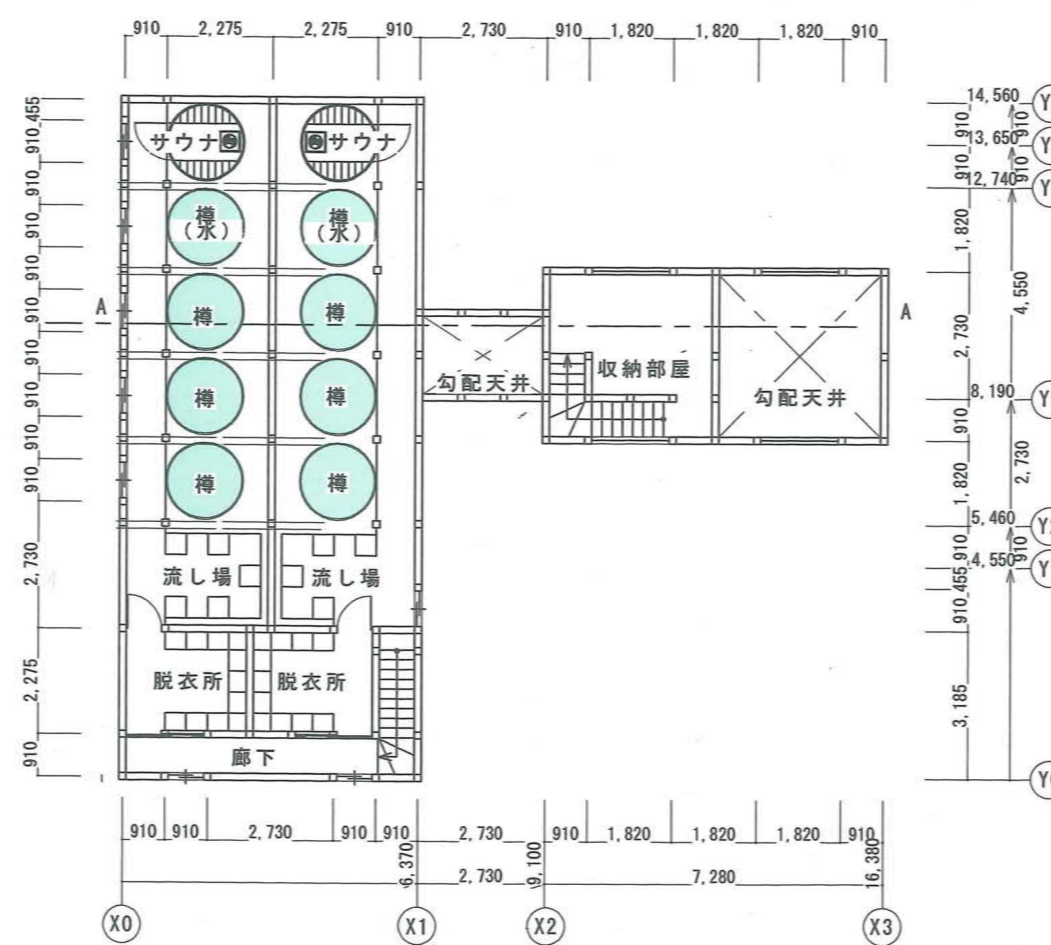
東立面図1/150



西立面図1/150



南立面図1/150

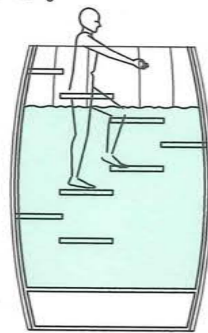
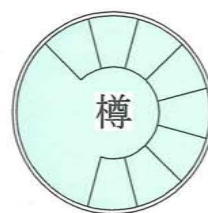


二階平面図1/150

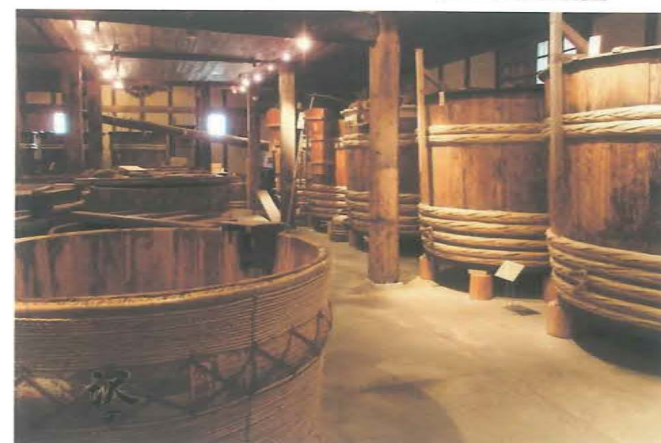


A-A断面図1/150

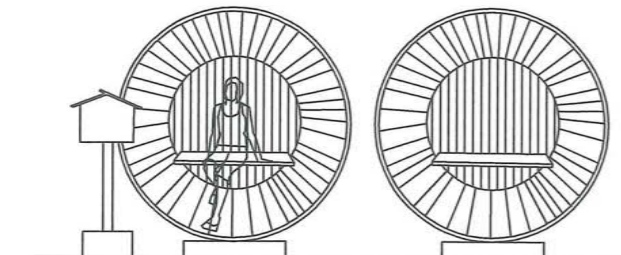
## 樽湯の構造



この立ち湯の魅力は最深約2.0mの樽である。樽湯の構造は螺旋階段が付いている。使用者の高さに合わせて自分で調節することができる。階段を椅子代わりにできる。採光や景色を楽しんでもらうために窓、天窗を配置した。



## 樽テラス



内子の賑わいを保ち、さらに集客効果を上昇させるために樽テラスを設けた。壁に囲まれていないことで風や気温などを肌で感じ、内子の魅力をより知ってもらえる。また、このテラスには樽を横に向けたベンチが置いてある。座ると長年使用されていた歴史ある雰囲気味わえる。

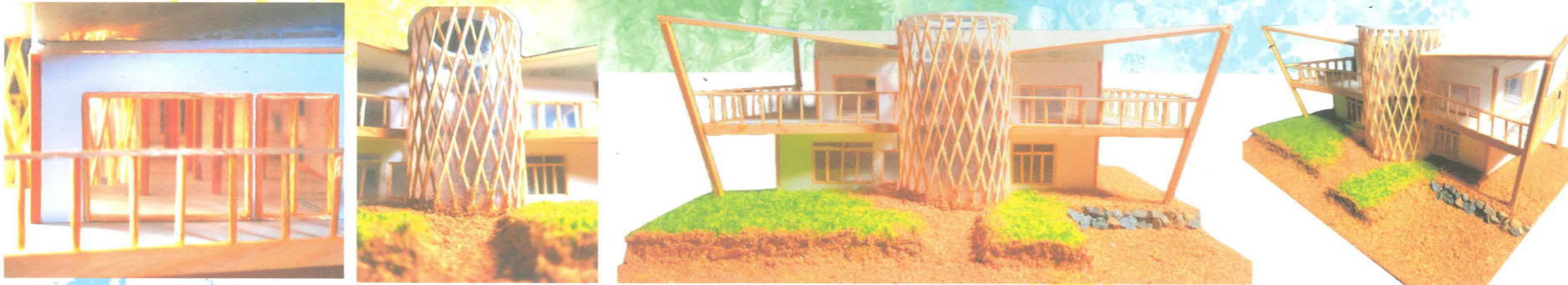
# アートカフェ 「ファスケス」



## 「設計主旨」

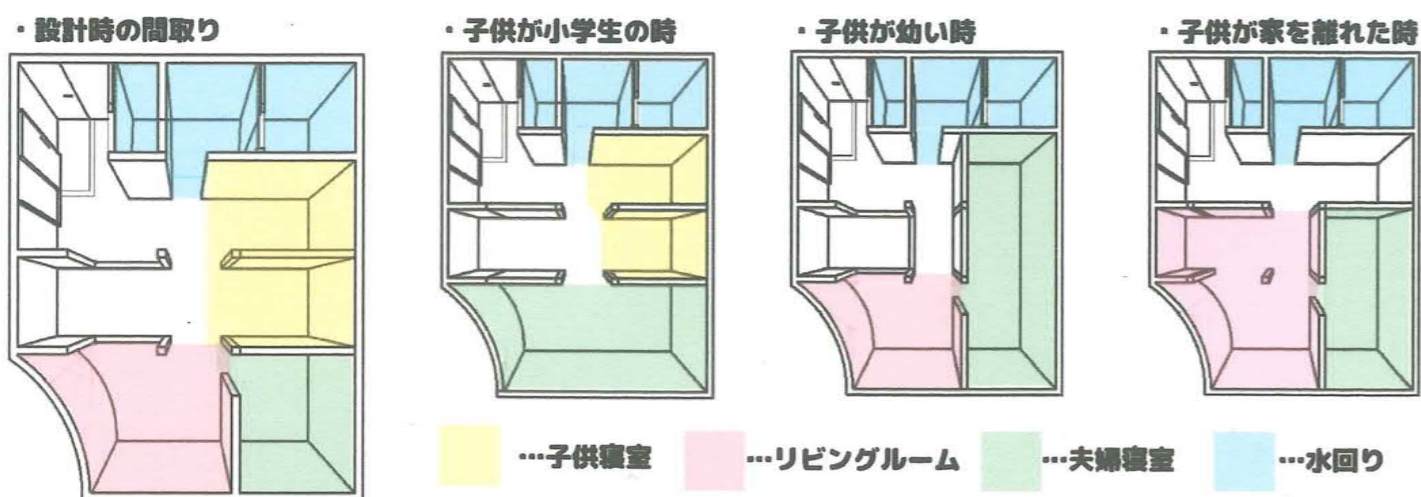
街の喧騒から離れ、カフェやギャラリーでゆったりすることで心身共にリラックスできる場合は『ファスケス』日常から離れ、ぜひ『ファスケス』で非日常の時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

- ・私は、古民家カフェに行き、過ごす時間が大好きだ。
- ・特に店主と仲良くなりコミュニケーションをとることが楽しく、距離感も近くアットホームな場で日常から離れ、非日常的な時間を過ごせるからだ。
- ・そこでしか味わえない時の流れがとて心地いい。そこで、自分もお客さんが来てゆったりと過ごせるカフェを作りたいと考えた。できる限り開放的な店舗にすれば自然を感じられる店舗にできる。
- ・そして、ギャラリーを併設することで絵画を鑑賞し、感性を豊かにできる。ギャラリーも、ゆったりしたときが流れる場であり、カフェと相まって、よりゆったりとした時間を過ごすことができる。
- ・立地としては、田園地域の緑に囲まれた自然豊かな土地だ。外観としては自然に馴染む『木』を家全体に巡らせて暖かい印象をもたせている。屋根材は、銅板葺きにし、家が時と共に変化していく様子を見ることができる。これもまた、「アート」である。
- ・建物中央部に設けた格子状の筒は、エントランスの役割を果たすと同時に、二階へ上がる移動空間である。中央部には屋根もなく、天候の変化に触れることで、現代社会から遠ざかっている自然を感じることができる。この格子状の筒は店舗のシンボルであり、店舗の目印となる。建物全体の屋根を中央に向けて流すことにより、これをより引き立たせている。



## 住居スペース

・住居は、壁によって間取りを決めるのではなく、家族のライフバランスに応じて変更できる可動式の壁とした。そして、家族が自由に間取りを決めていける。その、例をいくつか紹介しよう。



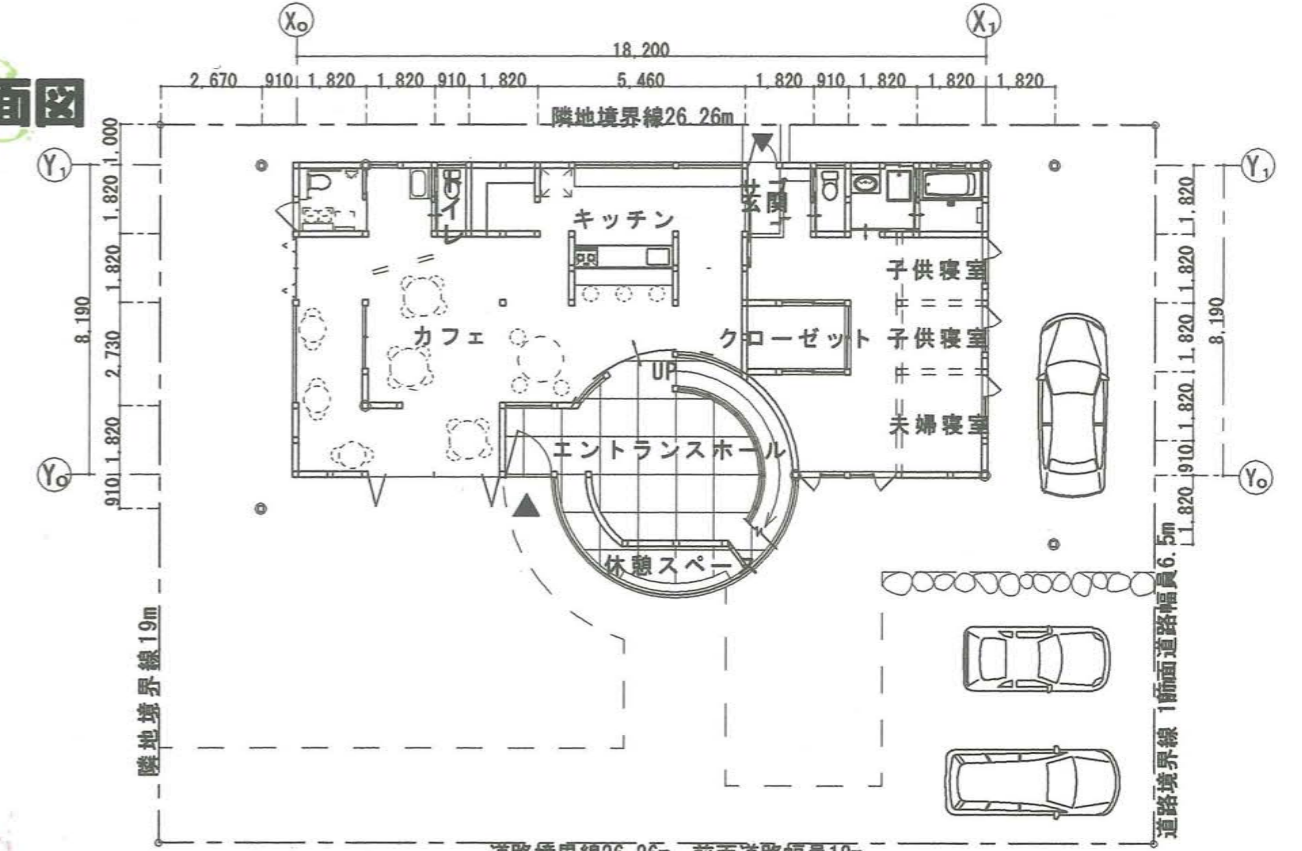
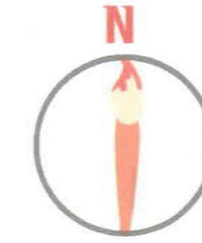
## ギャラリー

- ・気に入った絵画を購入することもできる。そのため、絵画は常に入れ替わりギャラリーに訪れるお客さんは飽きることなく、また来ようと思えるギャラリーとなる。
- ・定期的に絵画教室を開催しており、教室で制作した作品をギャラリーで展示して多くの方に鑑賞していただく。
- ・ギャラリースペースでも、壁を可動式にすることで展示物に応じてギャラリーのレイアウトを変更できるようにした。壁を全部取り払うことで、大きな空間にすることができる。

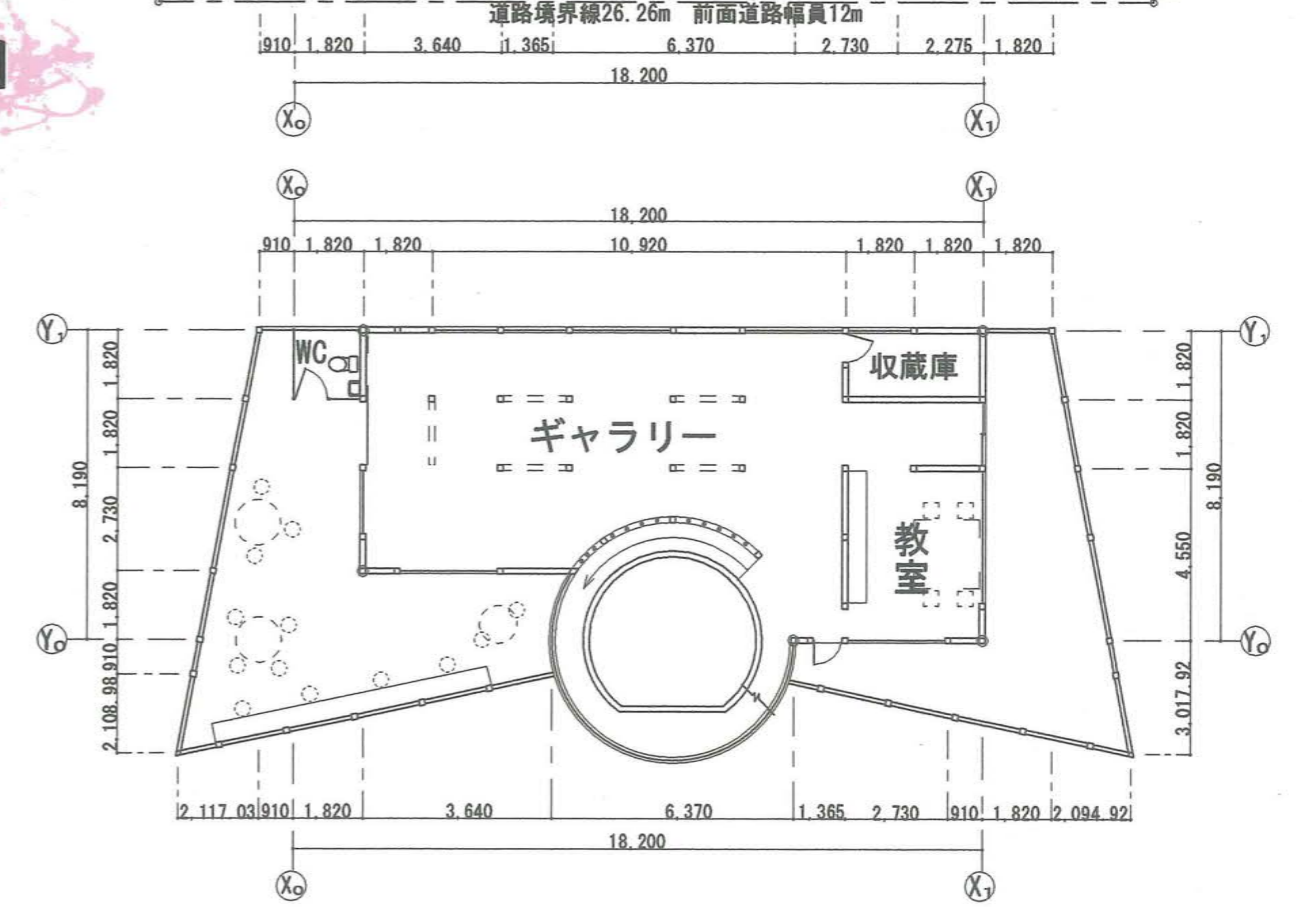
## カフェ

- ・カフェで買った飲み物を飲みながら、2階のギャラリーで絵画を鑑賞することができる。
- ・カフェでは、飲み物やお菓子を販売するだけでなく、小物や雑貨なども販売している。
- ・カフェのキッチンは、家族が使うキッチンと同じにし建物全体で最小限にした。

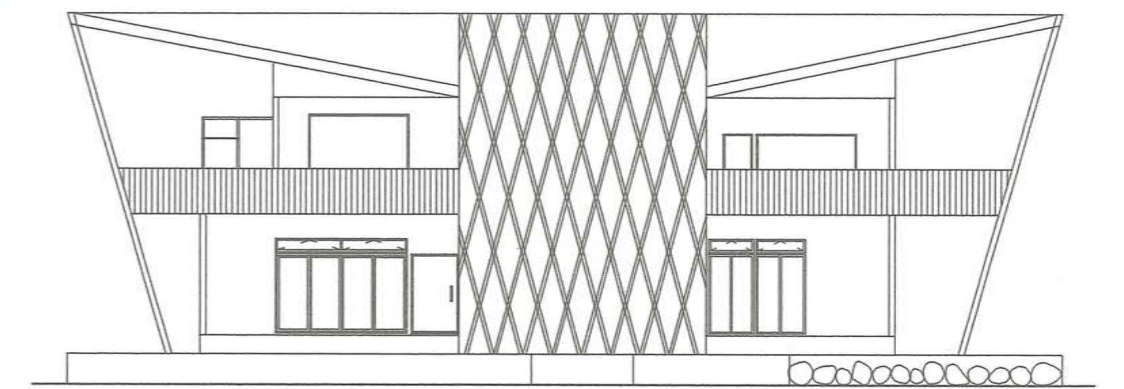
## 配置図兼1階平面図



## 2階平面図

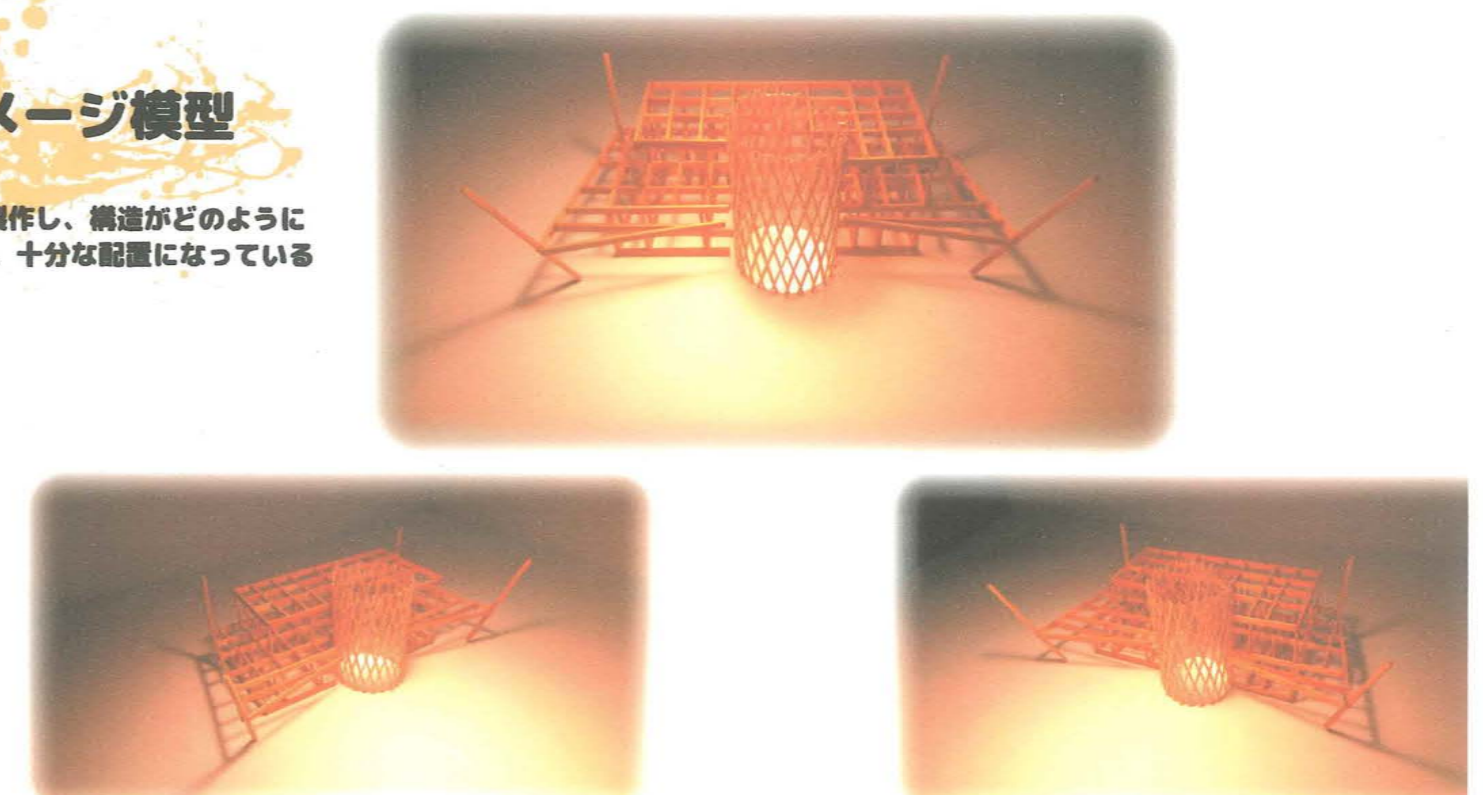


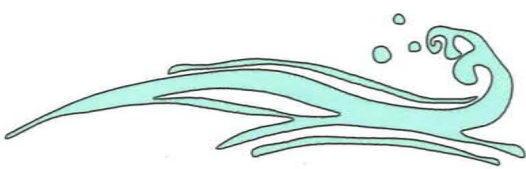
## 立面図



## 軸組イメージ模型

・軸組み模型を制作し、構造がどのようなかを考え、十分な配置になっているか確認した。





# ～陸を動く船～

釣具売ります！貸します！

## 設計主旨

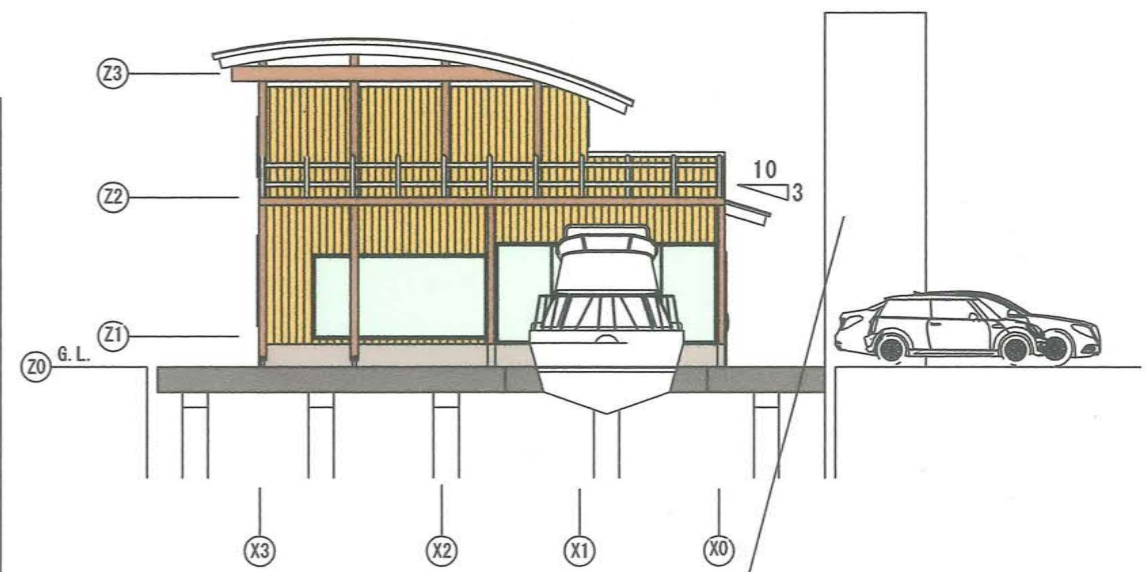
大三島には、たくさんの自然がある。文化がある。  
 海も山もあり、食べ物もおいしい。  
 風景もきれい。人の温もりも感じられる島。  
 そんな大三島の海を舞台に  
 地域活性化を目的とした「陸を動く船」という建物を建設した。  
 この建物は、釣具の販売・貸出や遊漁船の経営を行っている。  
 そして、建物最大の魅力はタイトルの通り、陸を動くということだ。  
 潮の満ち引きが大きい瀬戸内海で家の中を船が  
 出入りするのを実現するため、建物が昇降するシステムを考えた。  
 このシステムは、津波対策にもなり、  
 G.L. から最大で約5m上昇することが可能である。  
 さらには、「陸を動く船」という建物が島の中心となり、  
 地域活性化の手助けになるだろう。

## 家族構成

父 42歳 釣りが趣味  
 母 40歳 料理が得意  
 兄 18歳 釣りが趣味  
 妹 12歳 料理が趣味



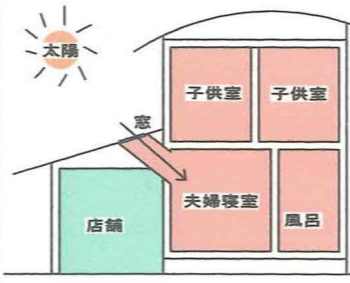
東立面図 1/150



北立面図 1/150

## 窓のない夫婦寝室

(イメージ図)



四方を壁に囲まれ、平面図では、  
 窓がないように思われる夫婦寝室。  
 実はそうではなく、天窗を設けて、  
 図のように斜めから光を取り入れることができる。  
 また、東側に天窗を設けたので、朝日が入り、  
 日差しのきつい西日は入ってくることはない。

## 広いテラス

このベランダは地域の人が集まれる大空間である。  
 食事をしたり、世間話をしたり、BBQをしたりできる。  
 訪れる人によって、活用の仕方は無限大。

気軽に誰もが立ち寄れる場になっている。

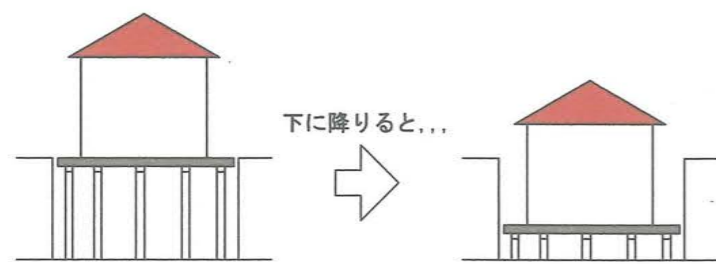


家に入るためにエレベーターを使用  
 エレベーターも移動する地面を  
 AIが判断し、細かい調整により降ろしてくれる。



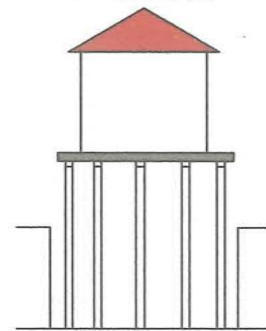
## 家を動かすシステム

(イメージ図)



下に降りると...

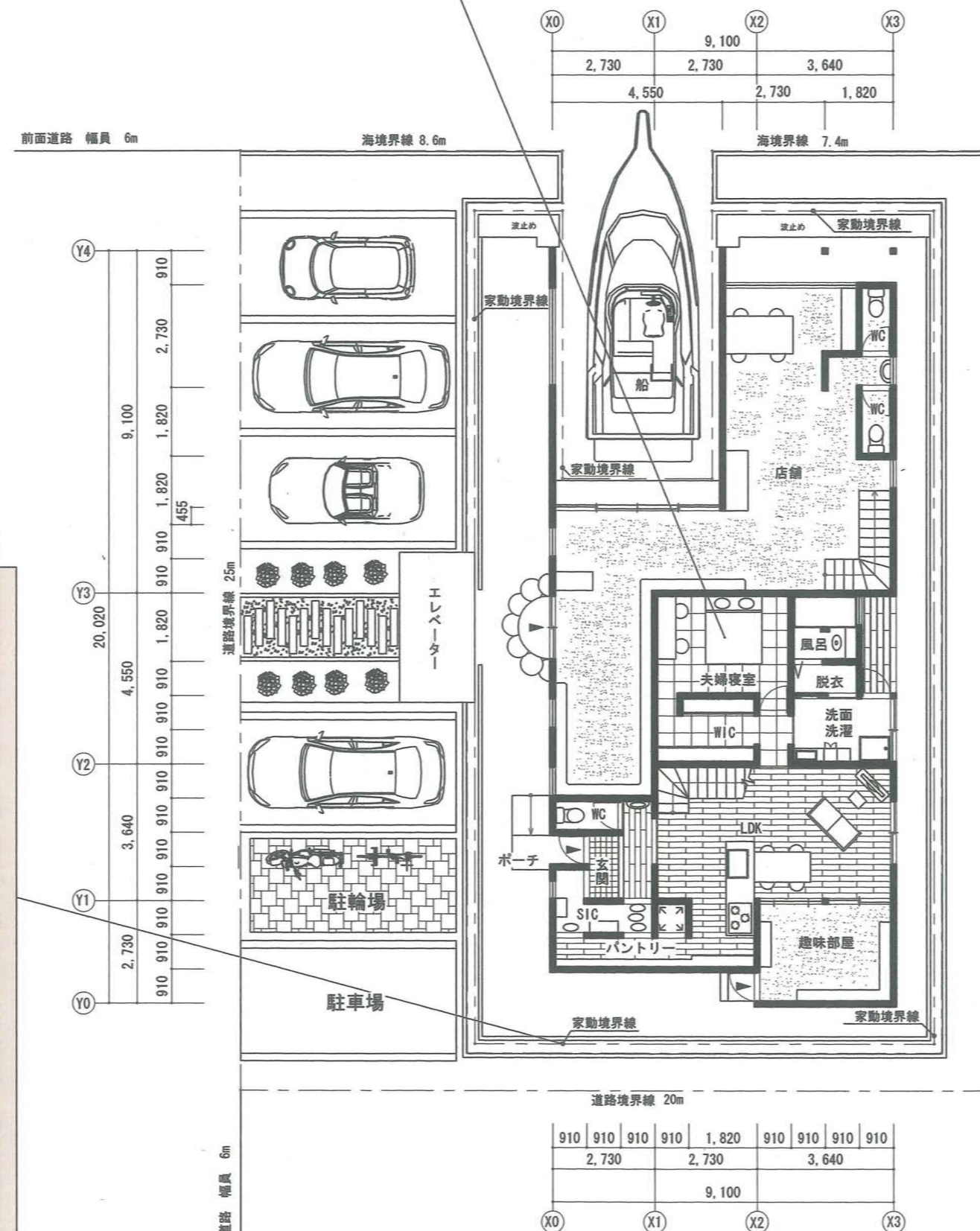
上に昇ると...



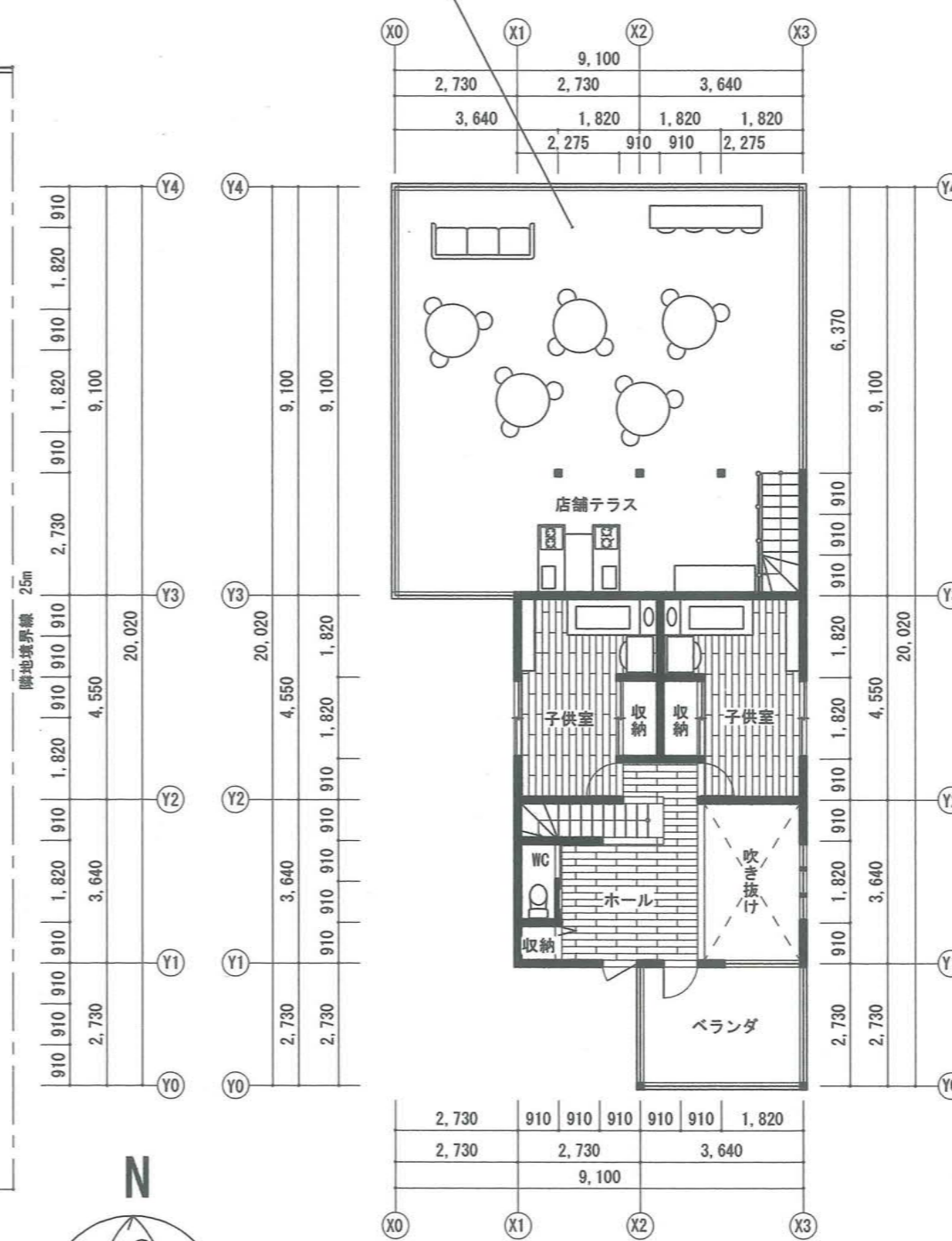
G.L. から上にも下にも約5m程度の可動域を持つ。

昇降する高さは海面の位置をAIが判断し、  
 それに合わせて建物の高さを自動調整してくれる。  
 また、景色を高いところから眺めたいときや  
 津波対策として上にも上昇することができる。

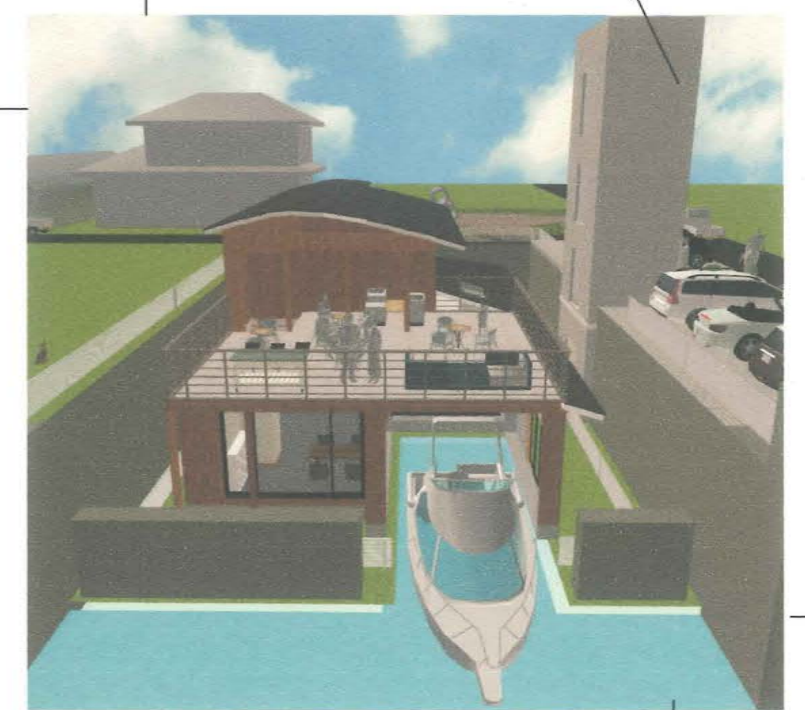
停電時には、補助電源から電力を  
 引っ張ってきて可動することが可能。



配置図兼一階平面図 1/150



二階平面図 1/150



## 周辺地図



# グリーンドーム

～自然と共生～

## 家族構成

母 40歳  
父 45歳  
長女 17歳  
次女 10歳



## 設計主旨

松山市・権現・円福寺池の隣、堀江の美しい海や山並みが眺望できます。そこで「自然と共生」をコンセプトに掲げ、若い世代の方々がこの自然豊かな権現に興味を持ってくれたらいいな。そのような思いから、自然を通して栄える町おこしを目的としています。まずは南側にある大きなドーム。これがこの建物のチャームポイントです。2つのドームの間には半屋外空間を作り解放感をだしました。建物はすべて2階建てにしています。探索しながら植物を見たり購入したりすることができるような遊びごころがあり子供たちや若い世代の方、高齢者まで楽しめる空間作り、順路づくりを行いました。次のフロアは何があるかなと興味を持ちながら過ごすことができると思います。さらにこの施設には雨水循環システムがあり、スプリンクラー、川の水、レクリエーションなどに利用してSDGsにも取り組むことができます。この植物園を通して自然と共存することに興味を持つ人が増え、権現に足を踏み入れる人も増えたらいいなと思います。



住宅の玄関から中庭が見れる。照明の光だけでなく、自然光も取り入れる。

## バリアフリー

体が悪い方も利用できるように、階段昇降機、スロープでバリアフリーへ配慮。

## 駐車場

ゆったりとしたスペースを確保し、車いすやベビーカーなどの出し入れをスムーズに。

## 駐車場Q&A

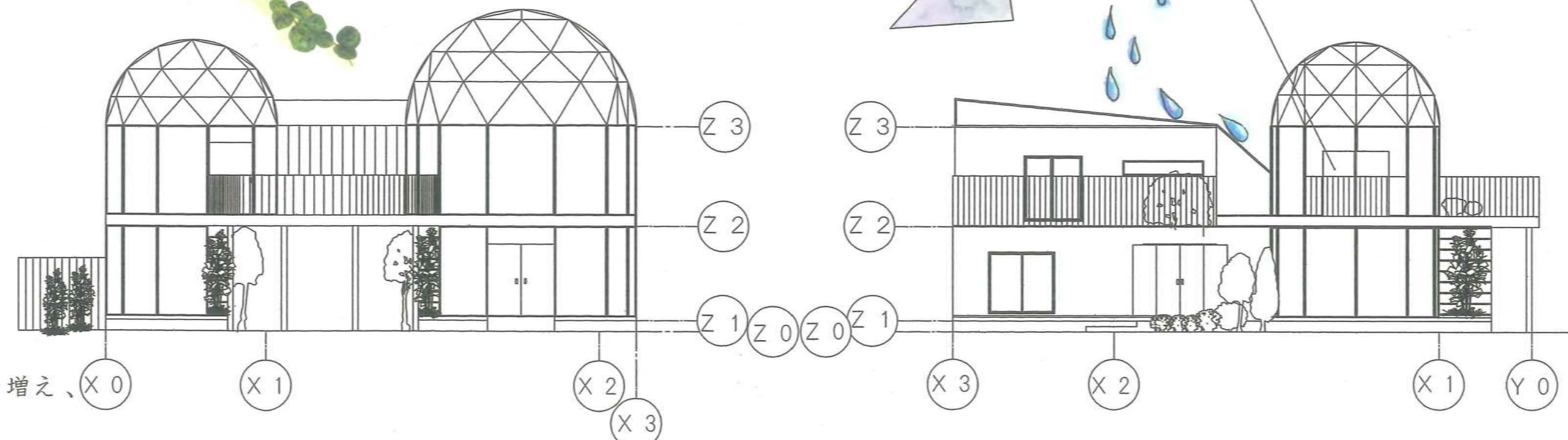
Q 車が建物を見えにくくしていませんか？  
A 建物に近づくにつれ土地が高くなっていて車が建物の邪魔をすることはありません。

## 住宅屋根 店舗屋根

屋根の勾配を利用して半屋外空間にある吹き抜けに 二滝の演出  
池に落ちた雨水は  
「雨水循環システム」を利用して  
・ドームを囲む川・スプリンクラー  
・週に1度行われるレクリエーション  
(マリモ作りや、生け花など)

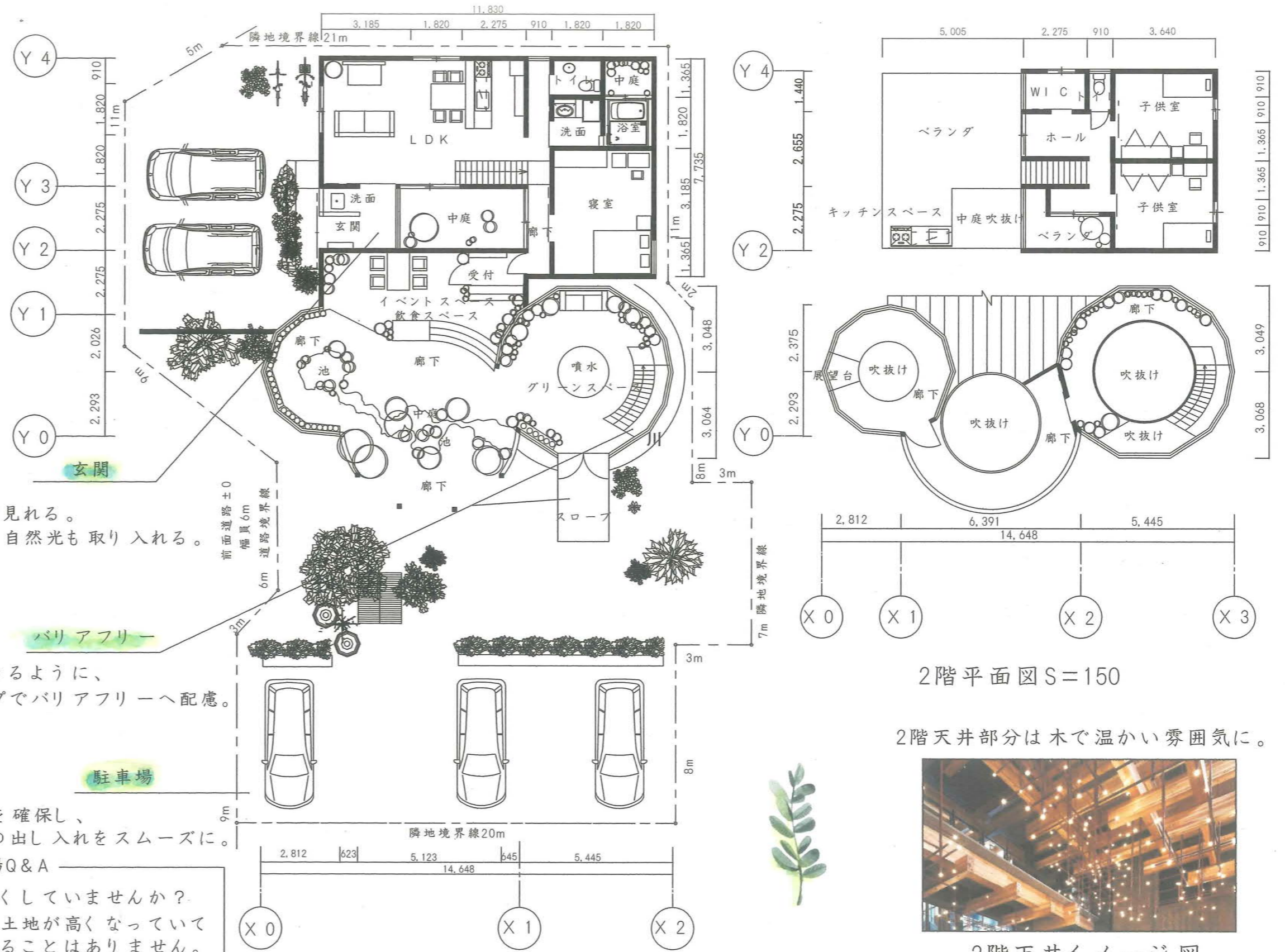
## 展望スペース

堀江の景色を高いところから一望できる。西側のため海に向かって沈む夕日も楽しめる。



南立面図 S=150

西立面図 S=150

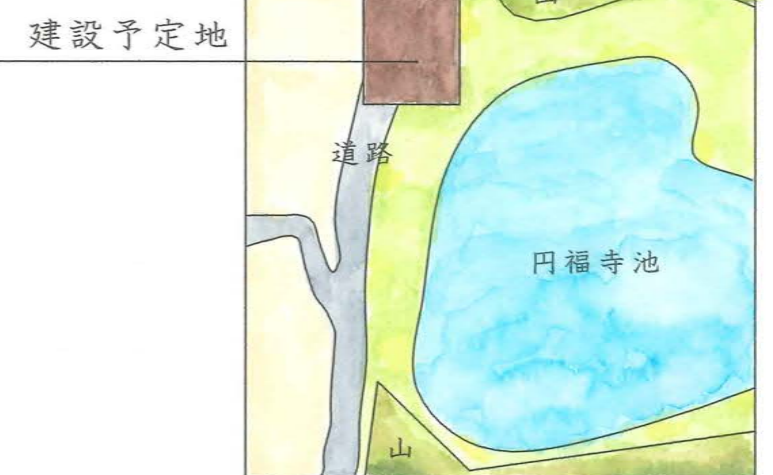


2階平面図 S=150

2階天井部分は木で温かい雰囲気。



2階天井イメージ図



周辺地図



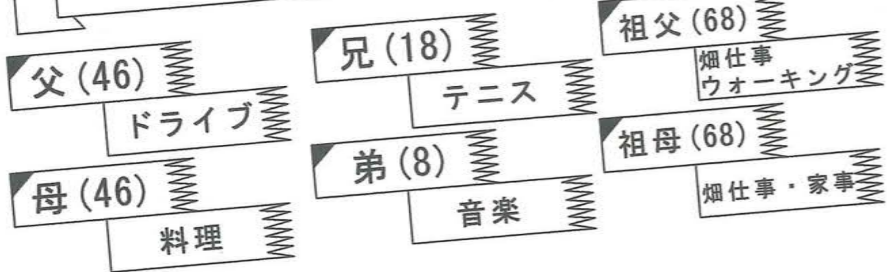
展望台からの景色

# Step And Step

～日々の歩みを段差とともに～

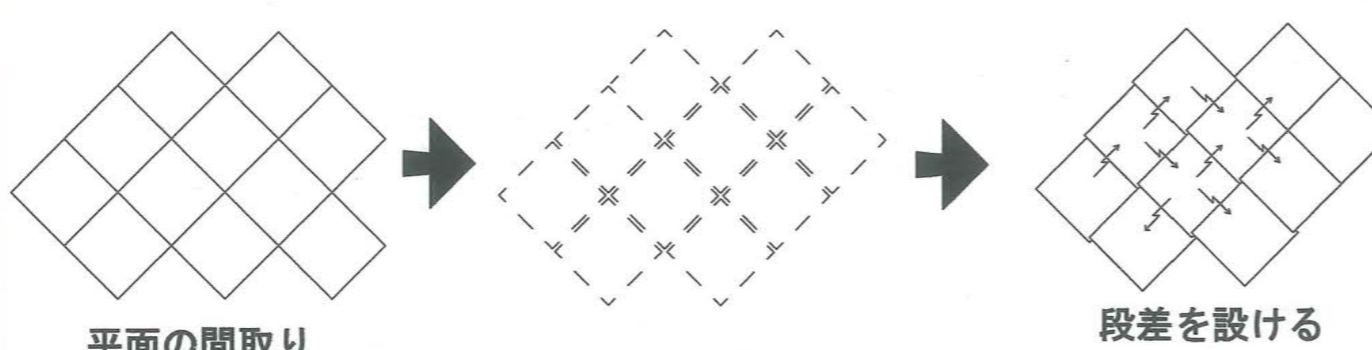
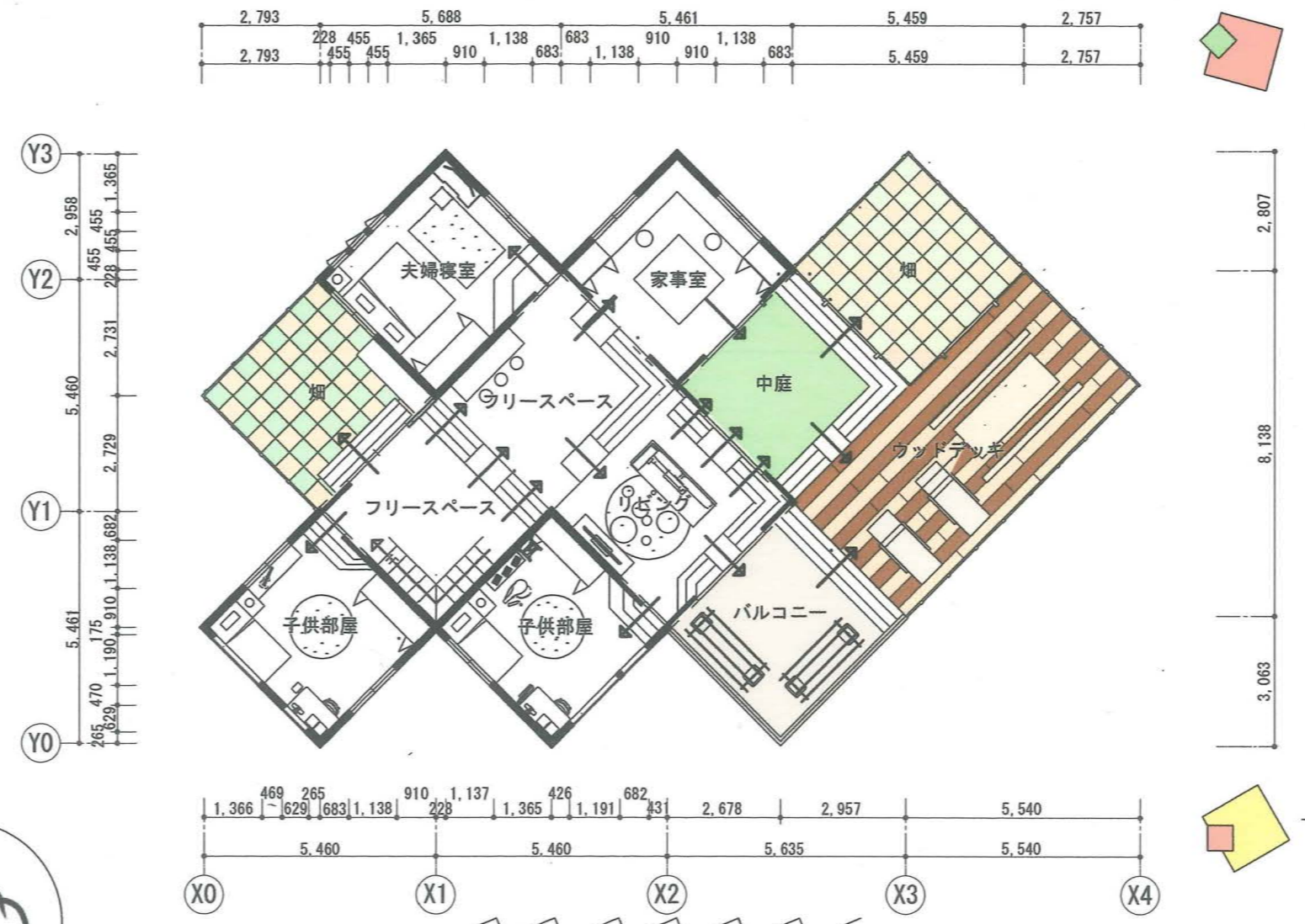
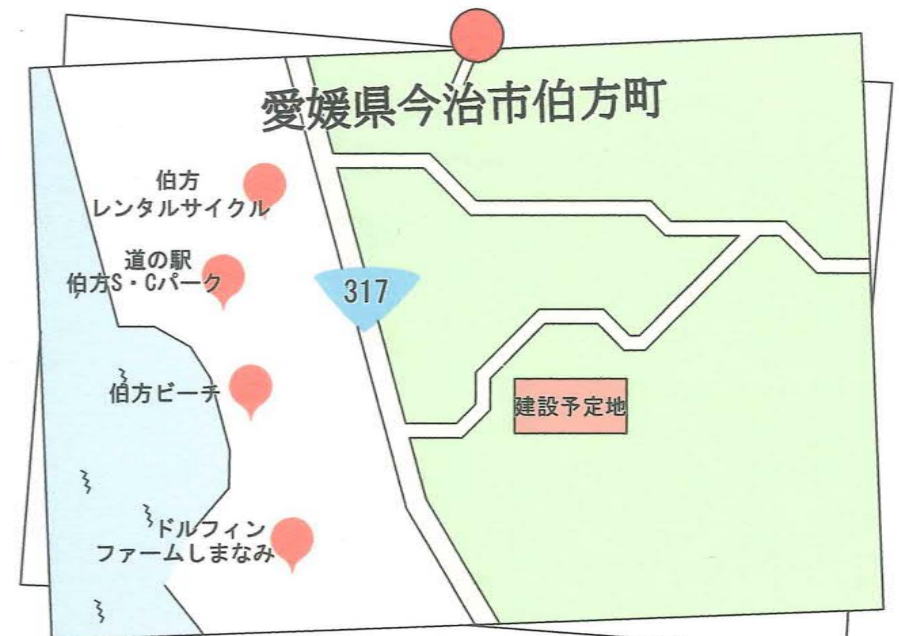
## 家族構成

趣味・好きなこと



## 設計主旨

ここは山を背景に海沿いの独創性豊かな外観の二世帯住宅。そんな一目惹かれる二世帯住宅に、通りすがりの人は思わず驚くでしょう。家族全員がストレスフリーで暮らせ、今までにない二世帯住宅の新たな生活様式を生み出そうと思い設計しました。家をひし形に繋ぎ合わせた形にしたこの住宅では、中は開放的で奥行きのある空間となっています。そして、この住宅の最大の特徴は、「段差」と「二世帯住宅」を掛け合わせたことです。今回のプランの「段差」というのは、1つの部屋ごとに少しだけ高さを設けることとなります。壁や扉のような仕切りがなくても空間を仕切ることができ、風通しがよくなったり、また収納スペースを増やせたりと、メリットはたくさんあります。しかし、なぜ祖父、祖母と住むこの「二世帯住宅」と「段差」という要素を組み合わせたのでしょうか。それは、「運動不足の解消」に繋がるからです。そもそも段差の上り下りというのは、ジョギングと同程度のカロリー消費量と言われており、日々の生活が積み重なることによってかなりの運動量になります。また、手早く基礎代謝を上げるのに効果的であり、家族みんなが少しでも健康に繋がることになるでしょう。ただ、安全さを第一に優先するために転倒防止の滑り止めマットを段差ごとに敷いたり、もし祖父、祖母の体が不自由になってしまったときのために1階にはスロープを設け、階段には自動昇降機を設置したりと、バリアフリーの二世帯住宅に仕上がっています。これだけではなく、この二世帯住宅にはまだまだ作り込んだ要素がたくさんあります。遊び心に溢れ、ストレスフリーでバリアフリーな二世帯住宅をぜひご覧ください。



部屋から部屋へ上がる段差(3段)の高さは、1段150mm×3段で計450mm上がる設計となっています。部屋によって段差の色を分けた仕上げにしました。



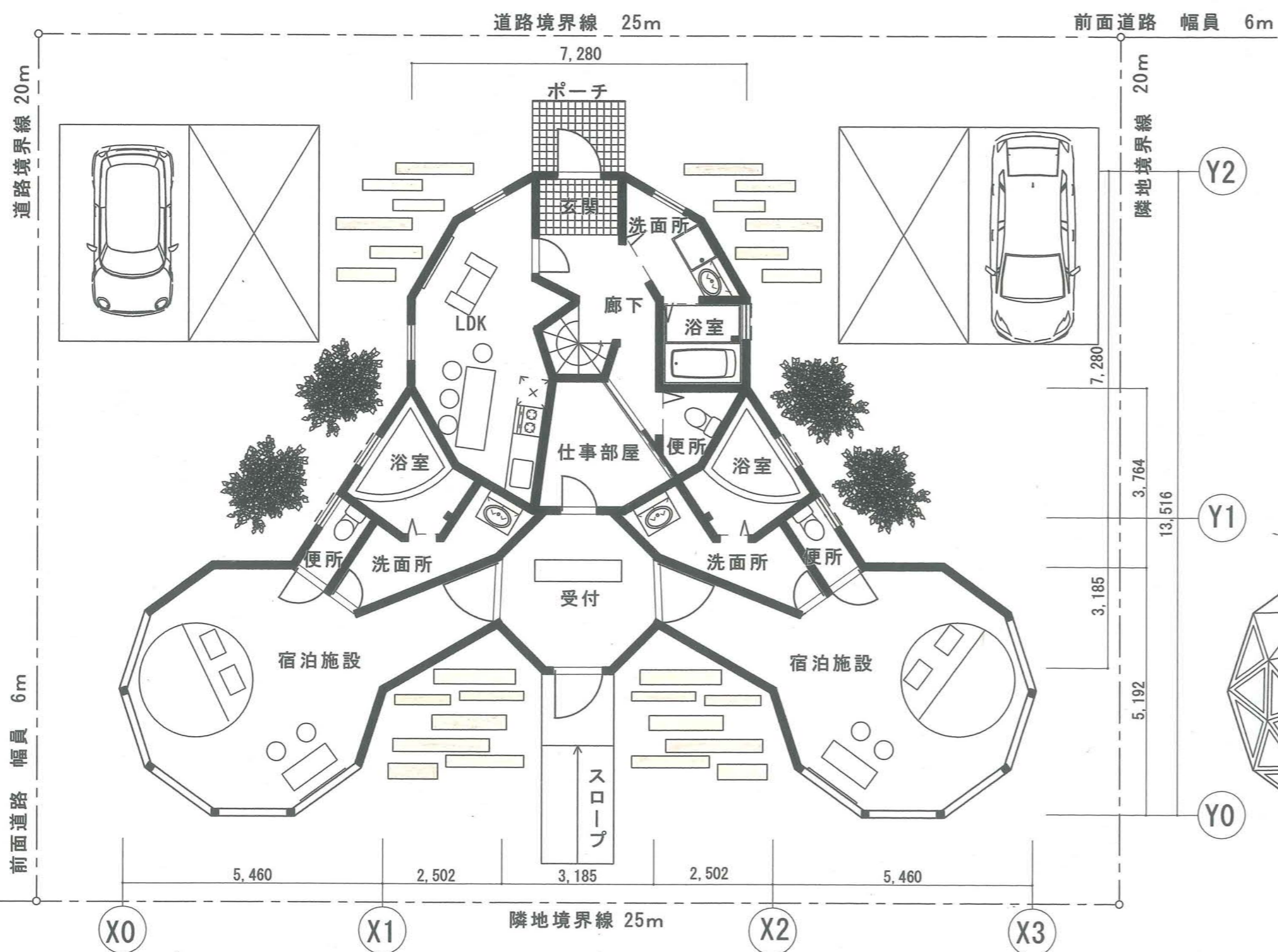
# hotel 「ウッド・クリアドーム」

～久万高原の自然に囲まれて～

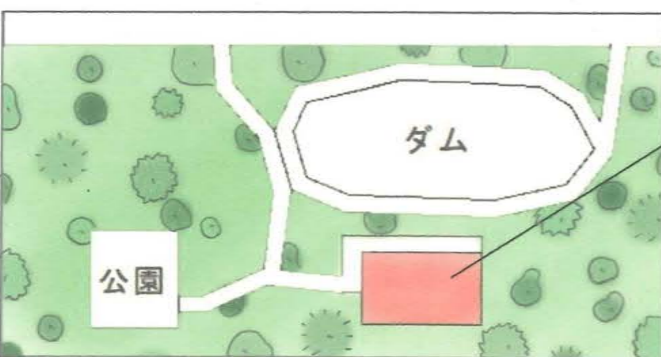
ここは愛媛県、久万高原町。

四国の軽井沢と言われる久万高原は平均標高800mの冷涼な気候です。豊かな自然、きれいな空気と景色、おいしい作物、あたたかい地域の人々に恵まれたとても素敵な町です。しかし、面積は県内で最大にもかかわらず、人口減少・少子高齢化などの問題を抱えています。

この久万高原に住む夫婦が取材に応じてくれました。ここで生まれ育った夫は、久万高原の素敵なところをたくさんの人に知ってもらうにはどうしたらよいか悩んでいました。そんな時、松山から引っ越してきた妻から久万高原の自然の豊かさについて話を聞きました。特に、星のきれいさについてです。そう、久万高原は、街灯やお店の光が少ないので星がはっきりと見えるのです。そして、夫婦は、久万高原の木を使った、木造宿泊施設を建て経営することにしました。ドーム型の天井をガラスにすることで満天の星空を見ながら過ごすことができます。また、宿泊施設にすることで町外の人にも久万高原を知ってもらえます。たくさんの方がこの施設を通して久万高原を知るきっかけとなり、笑顔あふれる町をつくりたいという思いから、この、「ウッド・クリアドーム」をつくったそうです。



配置図兼一階平面図 1/100

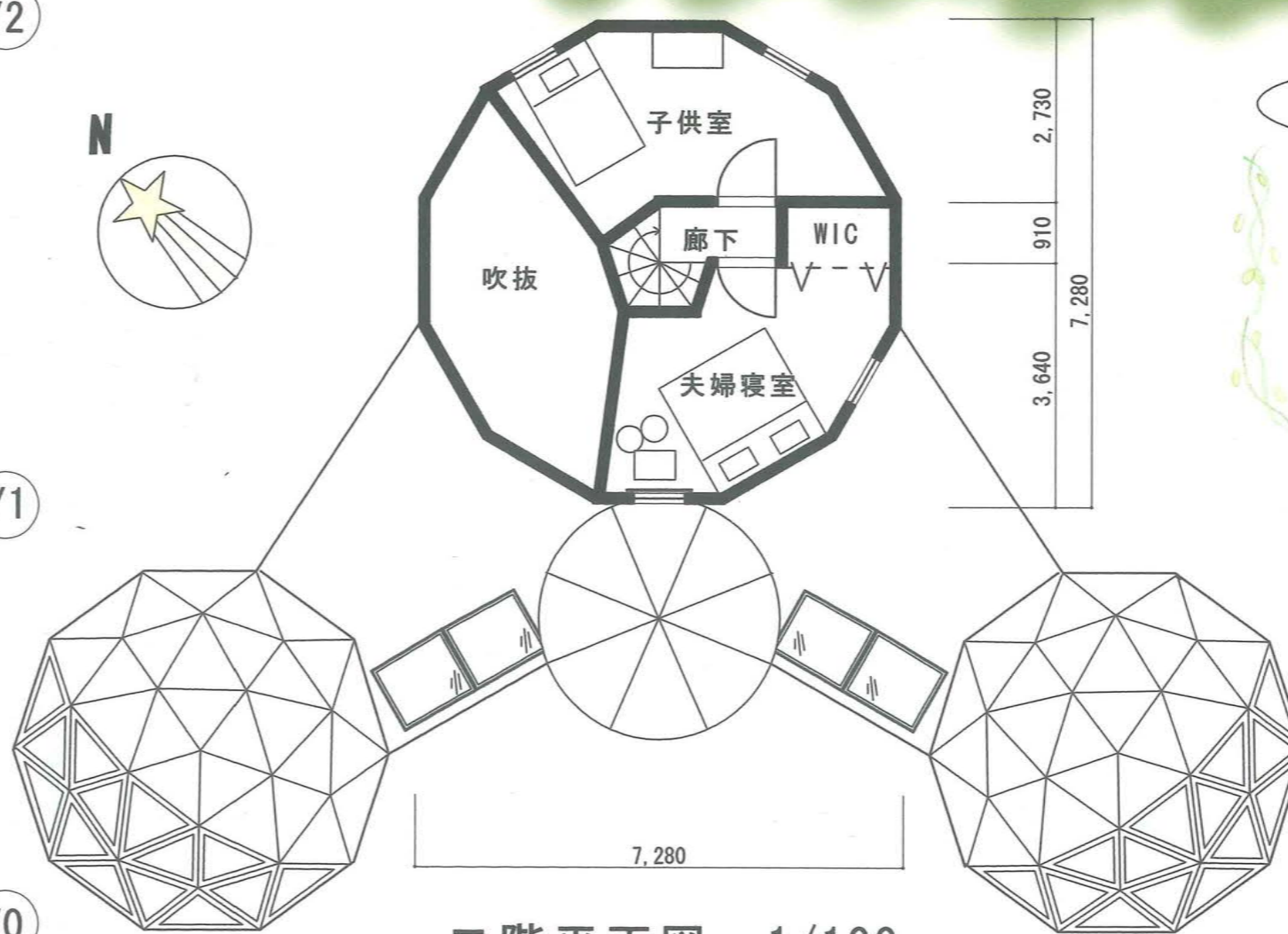


### 建設予定地

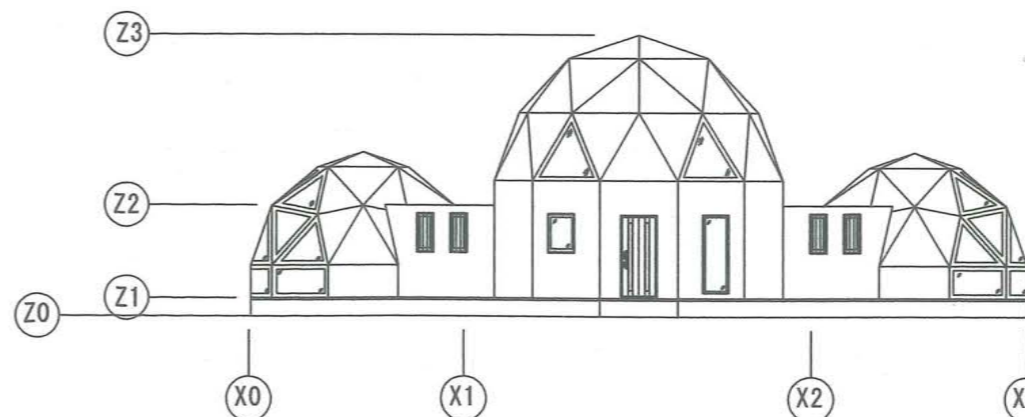
ドームの半分がガラスなので、まわりの目を気にすることなく過ごせるように木で囲まれている場所にしました。

### 家族構成

夫(40) 林業家・自然が好き  
妻(38) ホテルの経営・星が好き  
子(14) 中学生・アウトドア



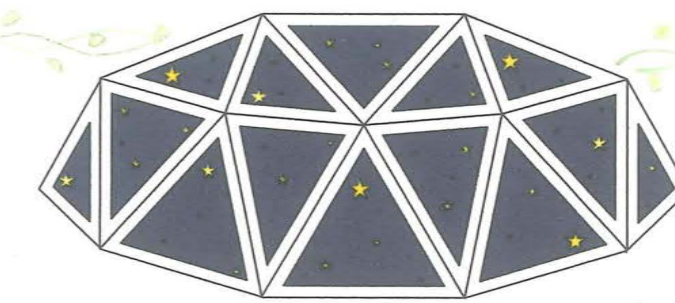
二階平面図 1/100



北東立面図 1/150

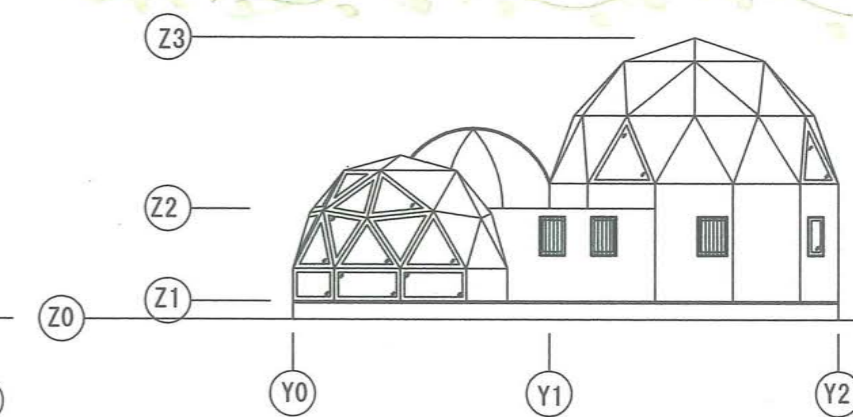
### こだわりポイント

空を1日中見れるように天井をガラスにしました。ベッドに転がると、白い雲に青い空、雨の日の曇り空、ふわふわと舞い降りる雪の様子、満天の星空など空の喜怒哀楽を見ることができます。家にいると見ることの難しい空と触れ合えるホテルです。

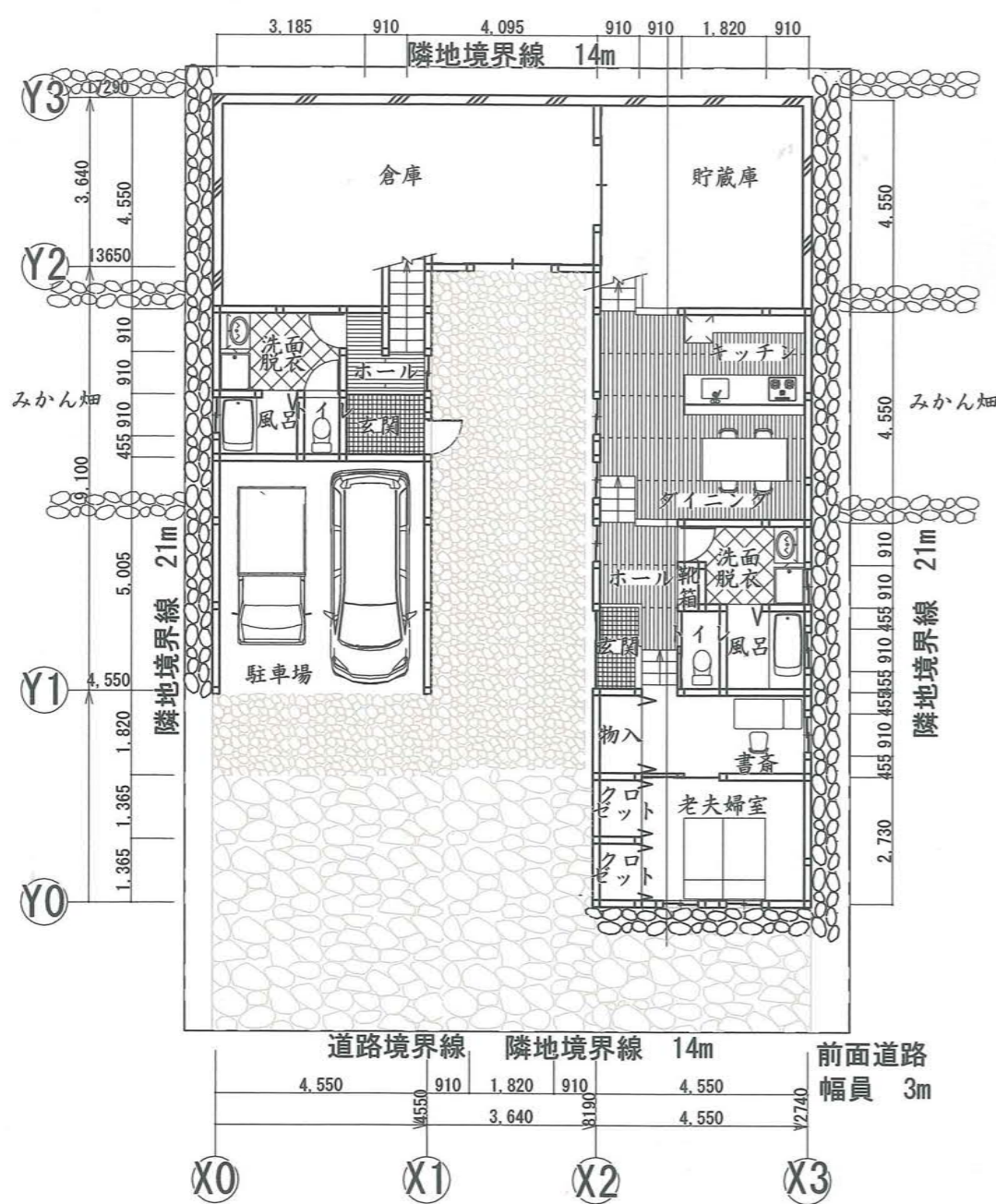


### 木でつくるメリット

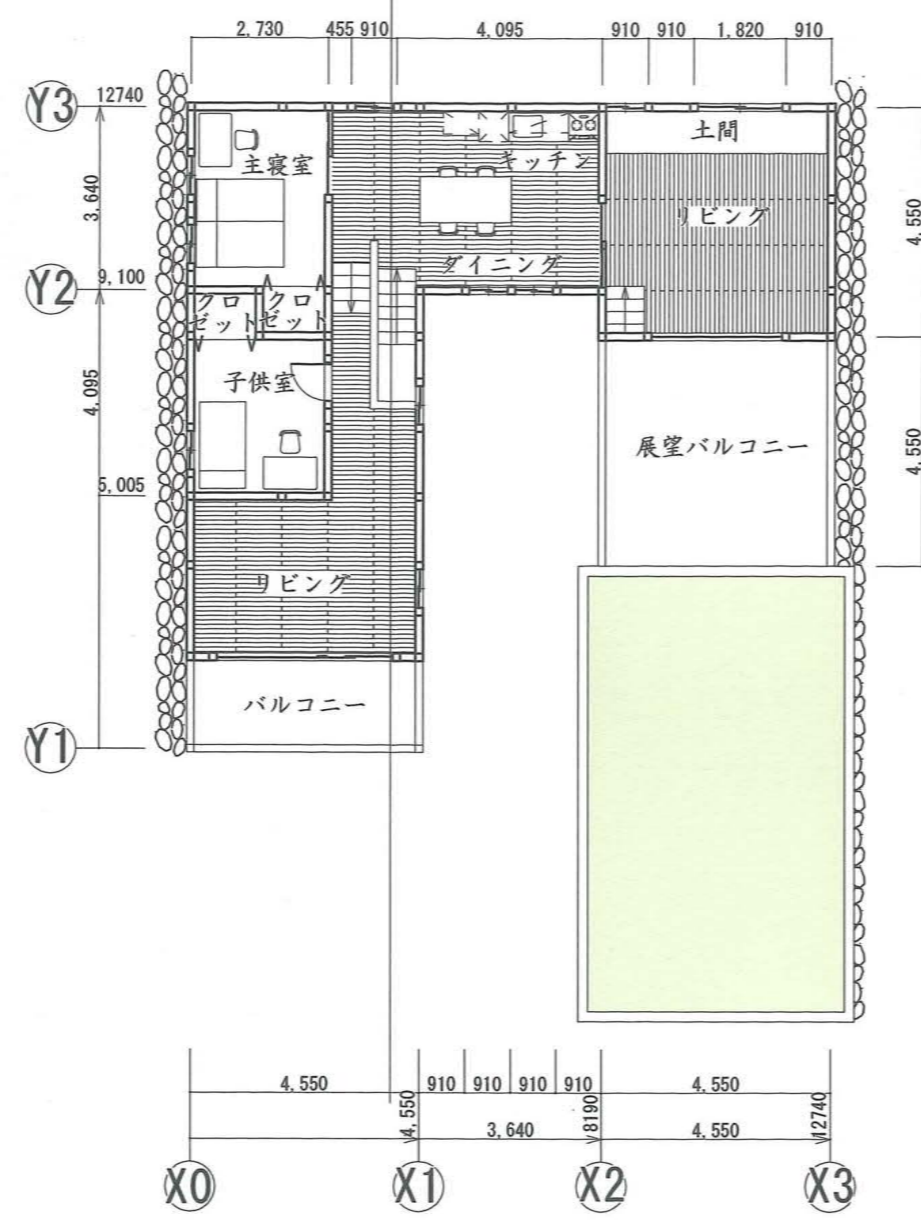
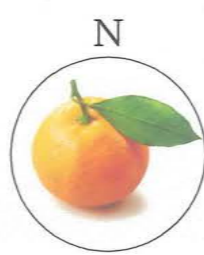
1. 温かみのある家になる
2. 疲れを癒すことができる(リラックス効果)
3. 木のいい香り(ストレス解消・安眠効果)
4. 自然を身近で感じることができる



南東立面図 1/150



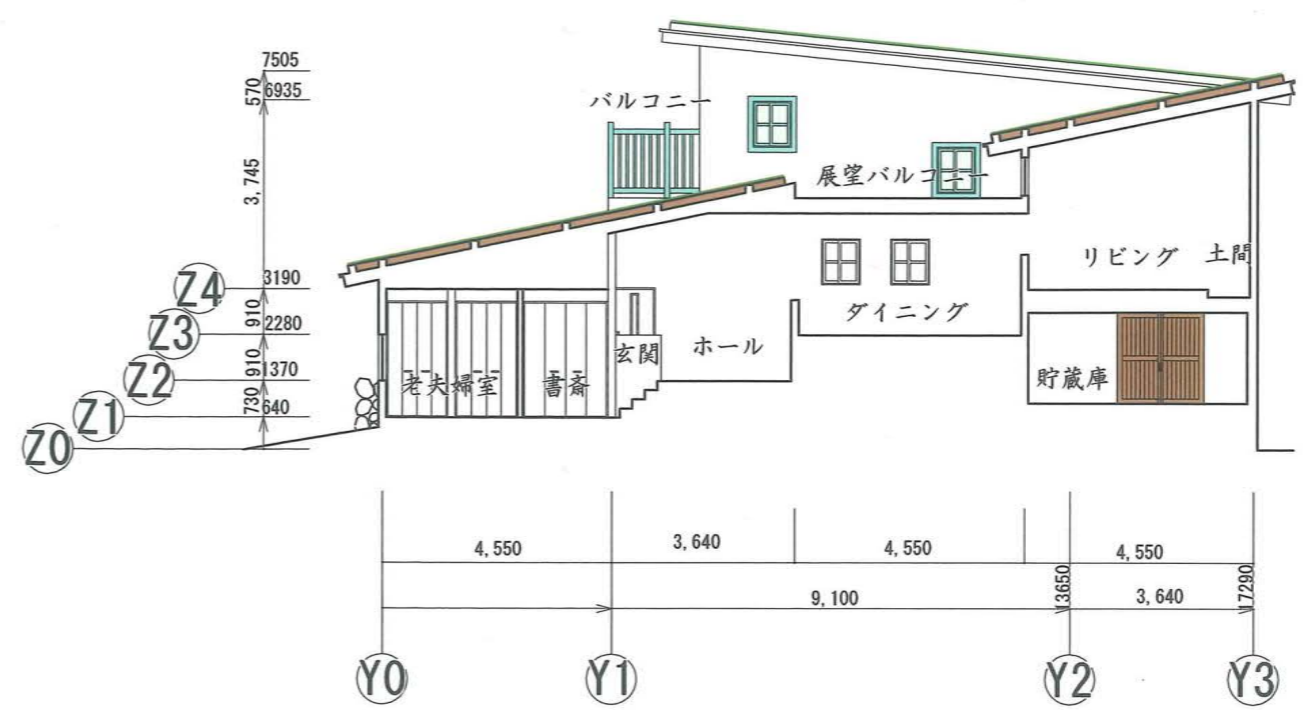
配置図兼一階平面図 1/150



二階平面図 1/150

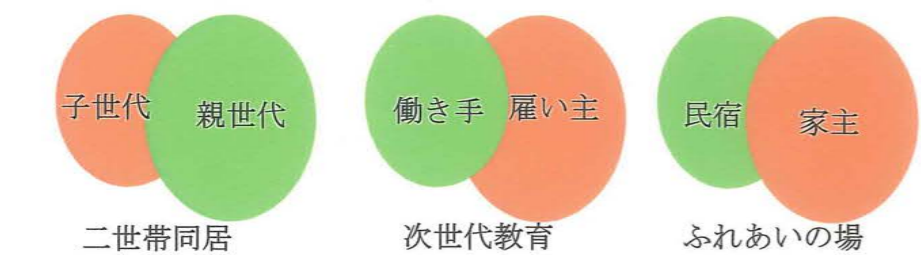
家族構成

祖父	58歳	趣味	ツーリング
祖母	53歳	趣味	料理
父親	34歳	趣味	読書
母親	32歳	趣味	菓子作り
息子	11歳	趣味	バレーボール



断面図 1/150

二世帯住宅の機能の多様化



甘くまろやかなみかんにするための貯蔵庫

- 1) 予措 10日程、風に当てて乾かす。実痛みを減らして、貯蔵の準備を行う。
- 2) 木箱詰め 痛んだ実を選別しながら木箱に詰める。
- 3) 貯蔵 気温、湿度に気を付けながら専用の倉庫で貯蔵する。



屋外とリビングを土間で繋ぐことで外への解放感と一体感を感じられる。土間にある掃き出し窓からみかん山に出ることができる。



南予のみかん山の多くでは石灰岩の石垣を用いられている。石灰岩からはミカン栽培に必要なカルシウムを捕うことができるだけでなく、日光を反射して下方のみかんまで満遍なく光を当てている。

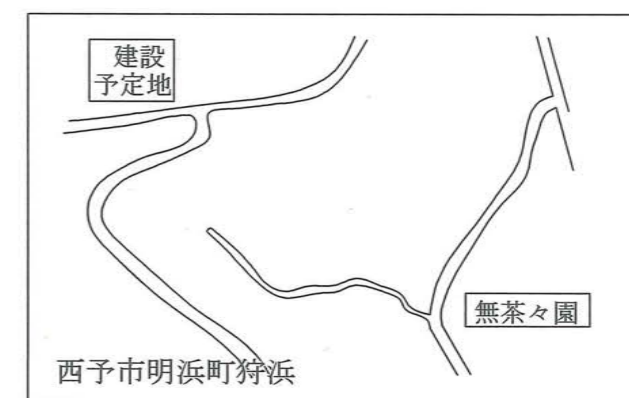


草屋根のメリットはガーデニングができるだけでなく夏冬と高い断熱性が発揮され、節電対策ができ、環境にも良い。

明浜町狩浜の街並みと宇和海を一望でき、草屋根にも乗れて、横になれば瀬戸内の燦とした日光と山に吹く風を全身で感じることができる。自然と一体化した展望バルコニーは家族の憩いの場とも言える。

設計主旨

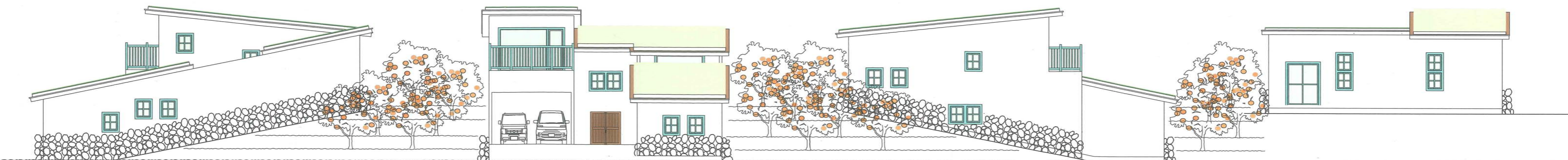
僕たちの暮らす愛媛県はミカン県と言われるほどにミカンが有名だが、近年では農家の高齢化と後継ぎなどの担い手不足が課題となっている。僕は、知り合いのミカン農家の方からここ数年で3つほどの農地を手放したと聞いた。そこで僕は、若者が二拠点生活によって地方の魅力を実際に体験して発信し、全国各地から働き手を集めることで課題解決とさらなる活性化、そして日本の都市部集中に対しても一つの解決策になると考える。コンセプトとしては、愛媛の魅力である自然を身近に感じ、二世帯住宅の機能を多様化することだ。そのため、山の斜面に建設し、みかん山の温かくのどかな自然に溶け込み、肌で感じられるように草屋根そして石垣として用いられる石灰岩を使用した。二つ目のコンセプトである「二世帯住宅の機能の多様化」について最近注目された子世代の二拠点生活によって適度な距離を確保したり、世代交代をしてから働き手のための貸家として活用できるようにしたりした。親子の二世帯同居はリビングを共有する部分共有型で繋がりを重視し、世代交代をしてからの働き手との同居では、親子で共有していたリビングに壁を設けて完全分離型にすることができる。山の斜面を利用して、間取りの空間分けを段々のスキップフロアによって壁を減らし、空間の繋がりを表現したつくりとなっている。



同じ温帯で柑橘類などの果物で有名なギリシャのサントリーニ島の街並みをイメージし、青と白を基調としたデザインとした。サントリーニ島の建物の白壁は強い日差しによって建物内が高温になるのを防ぐために「石灰」が塗られているからだ。

# 二世帯住宅で二拠点生活 **ポン** 住宅

## ～段々畑と共生する～



# Moribus

## アウトドアショップ&カフェ



### 設計主旨

私は、このコロナ禍でも屋外スペースを確保しながら楽しむことができる『アウトドア』の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい。今回は、アウトドア好きの夫婦が営むアウトドアショップ&カフェ『Moribus』〔モーリボス〕を設計した。キャンプやハイキングなどは元々冒険者たちが旅しながら行っていたものが気軽に楽しめるアウトドアとして定着した。ラテン語で冒険者は『Moribus』と言い店名になった。一般的なお店ではなく、家に遊びにくるような感覚で来れるアットホームな雰囲気のお店を目指した。

ショップの中にはカウンターがあり、コーヒーを飲みながらゆったり過ごしたり、店主やお店で出会った人たちが意見交換したりすることができる。

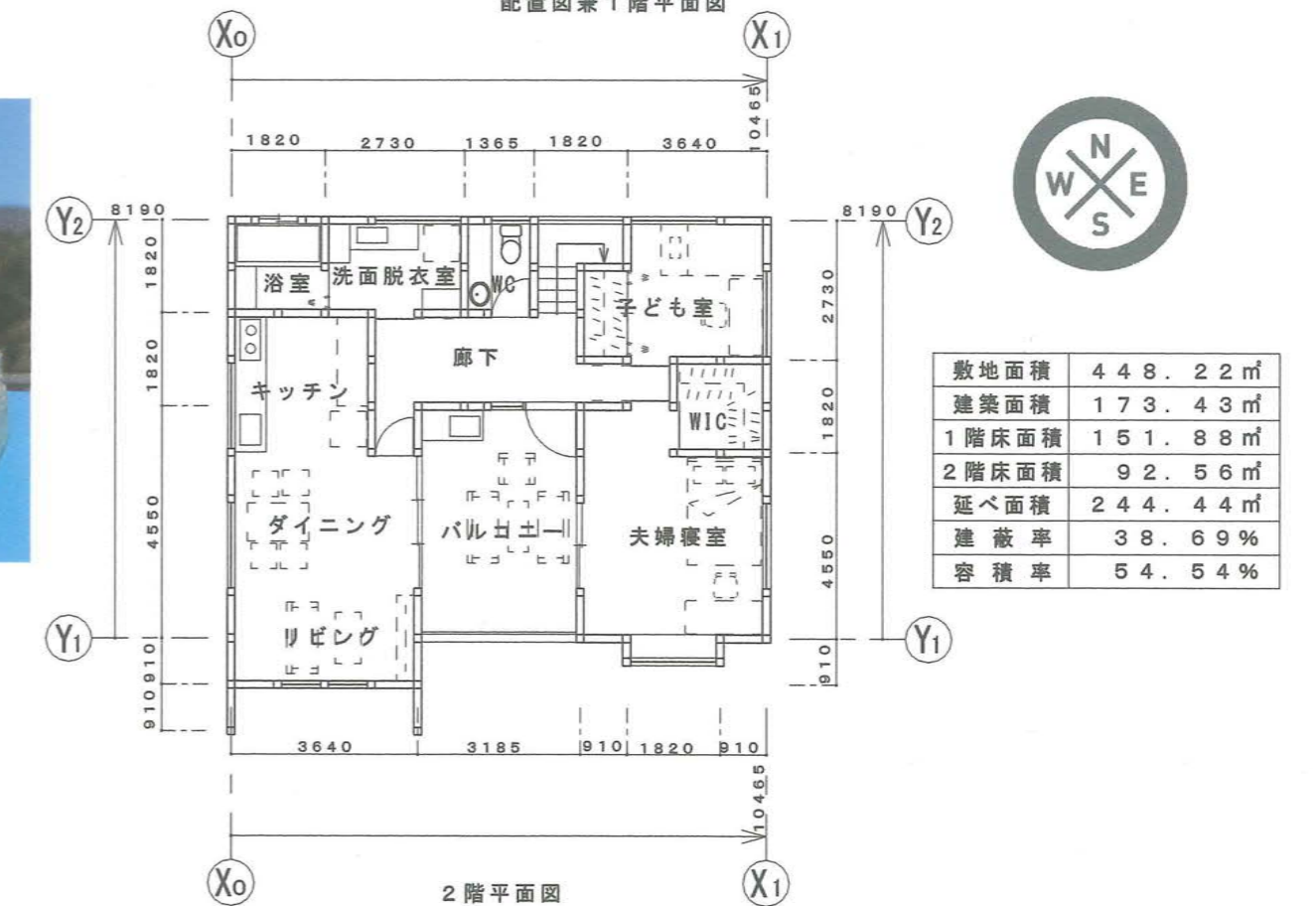
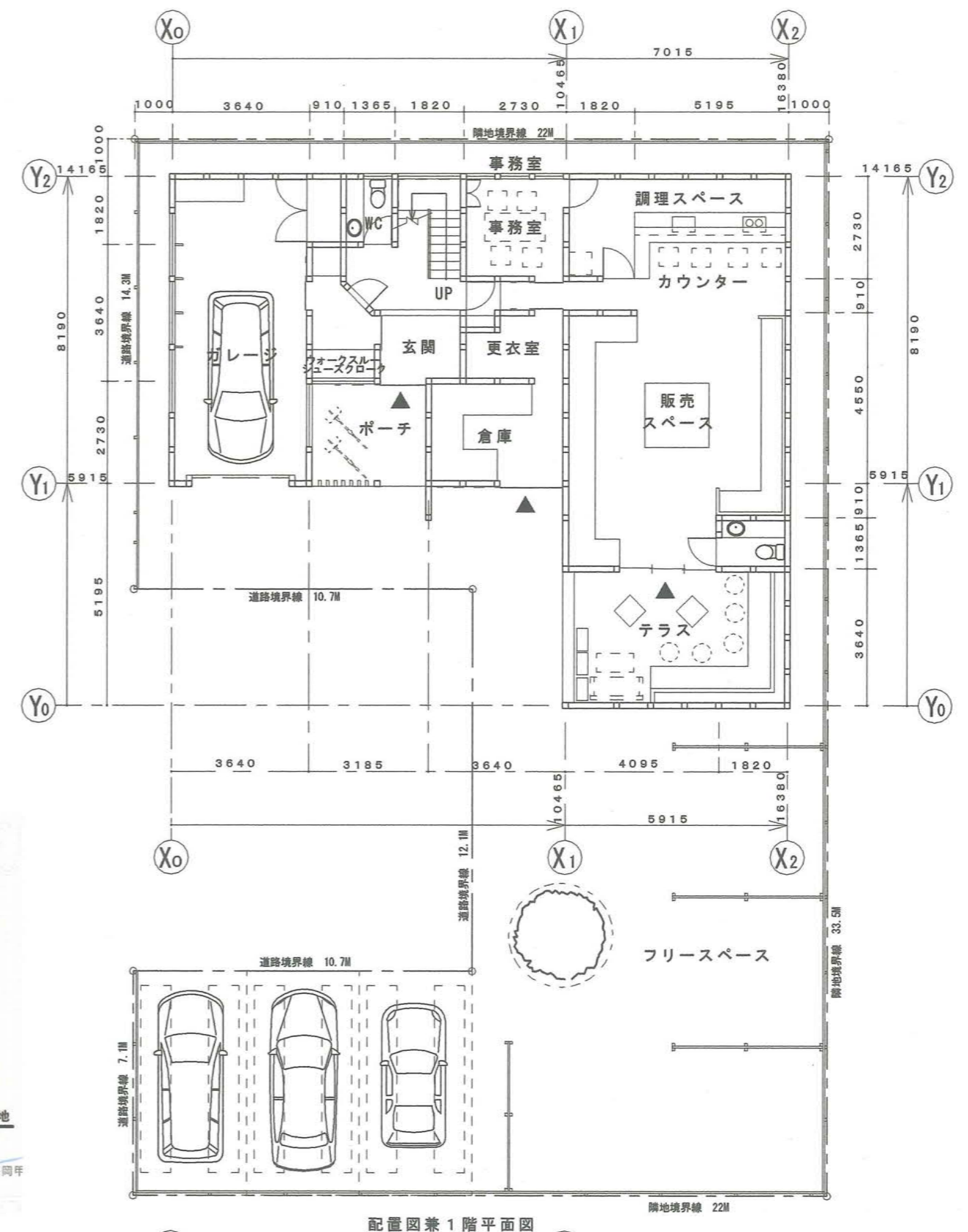
外のテラスでは、アウトドア用品の試用が出来たり焚火台もあるので、テラスに訪れた人が和気藹々と楽しめるスペースになっている。

住居部分にも『アウトドア』のための工夫がされている。ガレージは通常より広く車以外にキャンプ道具やサーフボード・カヌーを入れることができる。二階のバルコニーには、シンクがあり夜空を眺めたり食事を楽しむことができる。

『アウトドア』を通して自然の中で遊ぶ楽しさを、『アウトドア』で繋がった人との出会いを大切にしてほしい。



この場所を選んだ理由は小田川が近くにあり夏場などは歩いてすぐ川に入ることができる。アクセスも良く内子五十崎ICから5分程度で着くことができる。また河川敷には沢山の木々が生えておりどかな雰囲気を楽しむことができる。



### ・外観デザイン

目を引く特徴的な壁は、店舗と住宅部分の境界にもなっている。また、インパクトあるデザインにもなっている



### ・テラスと店舗への入口の関係性

店舗前のテラスでは店内で購入したカフェを飲むこともできる。そこでは客同士が和気あいあいと会話を楽しむことができ、自然と仲間が増える。



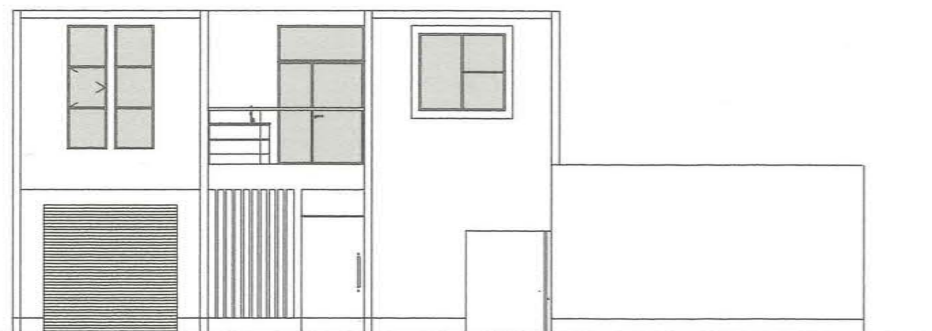
### ・階段

北側にある階段を全面ガラスにすることで自然光が入り開放感のある空間となる。

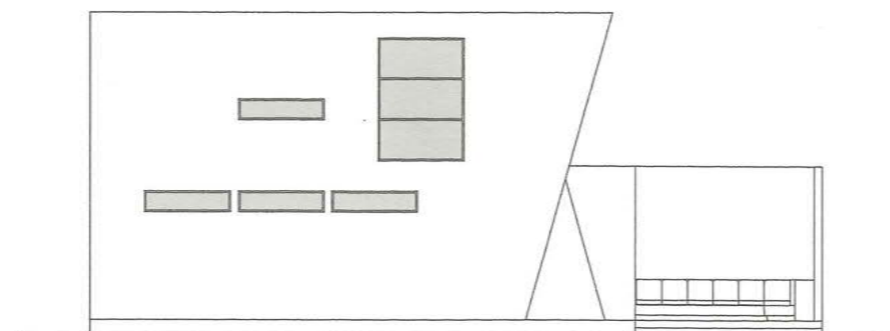


### ・フリースペース

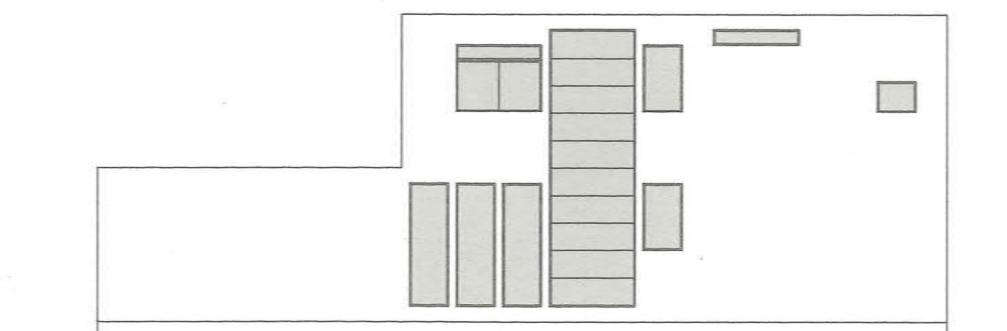
敷地内にテントサイトを設け、テントで宿泊することもできる。店主の敷地内であるため、初心者も安心してキャンプにトライすることができる。



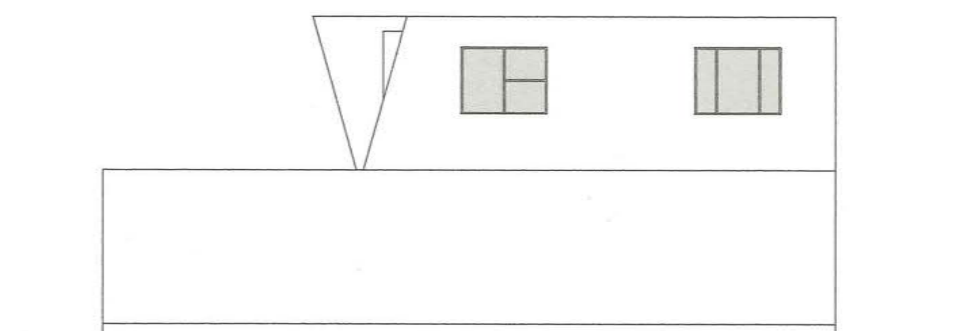
南立面図



東立面図

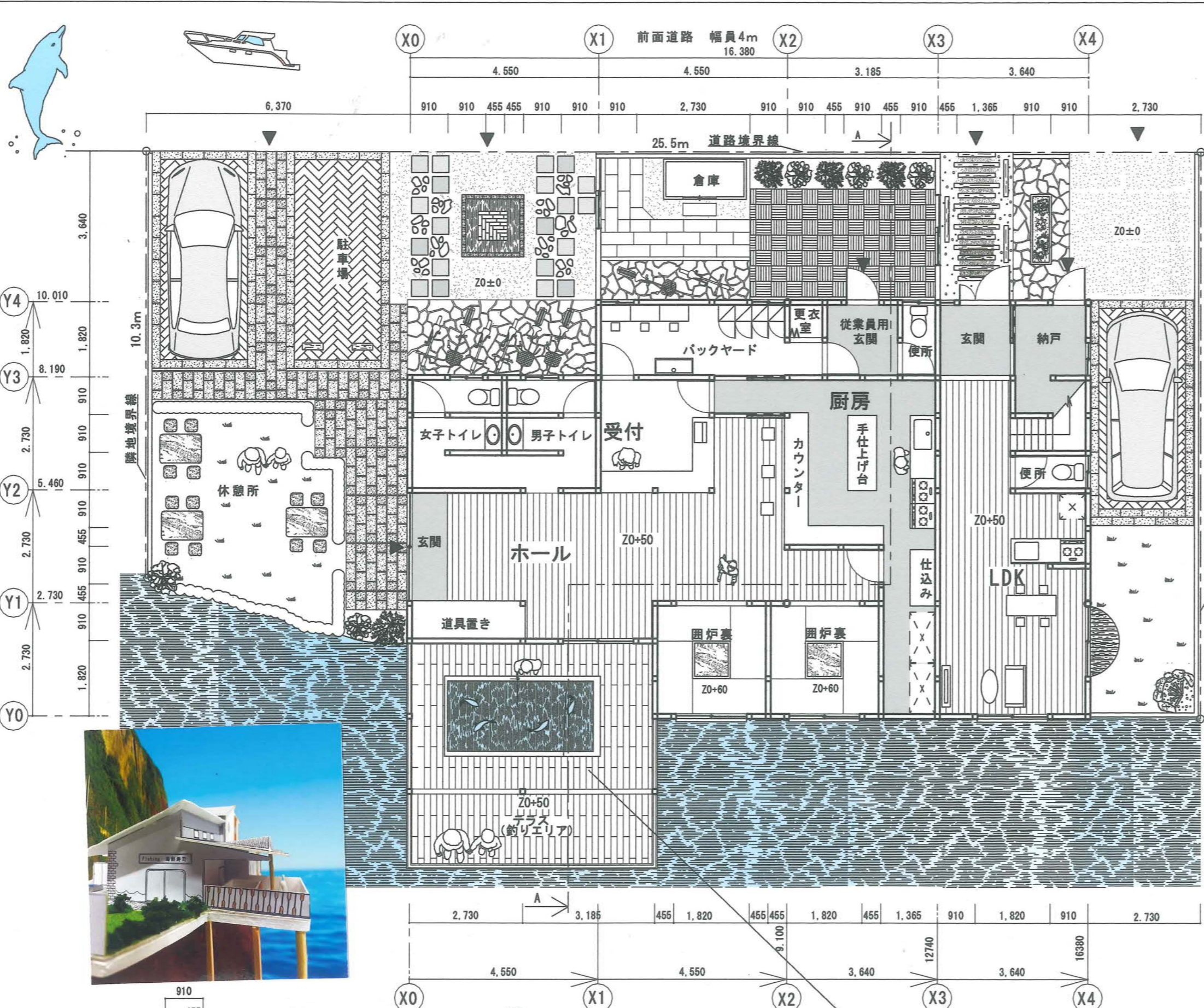


北立面図

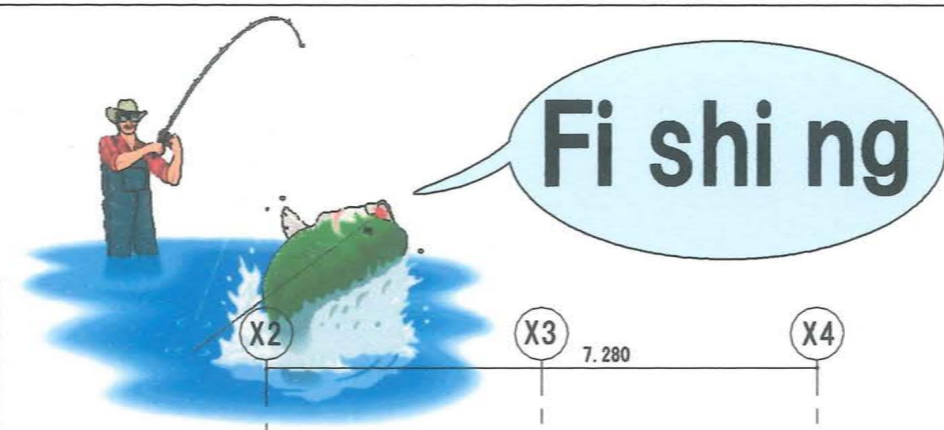


東立面図

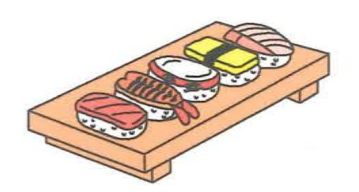




配置図兼1階平面図 1/100

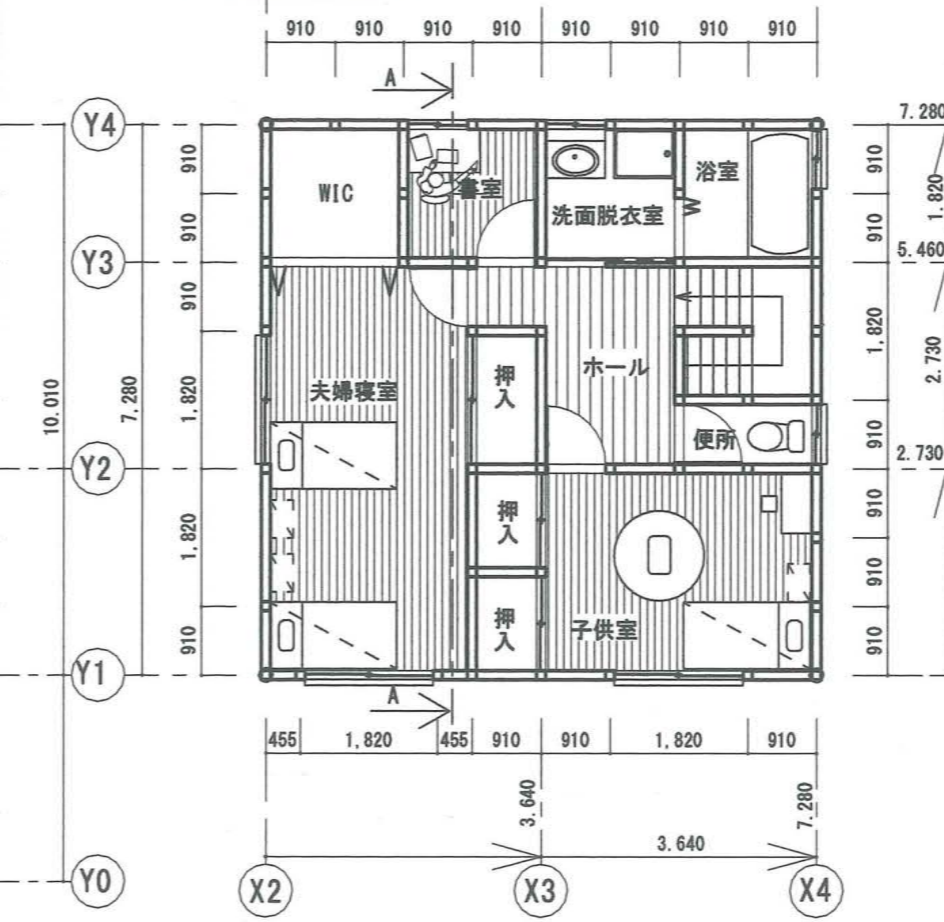


# 海鮮寿司

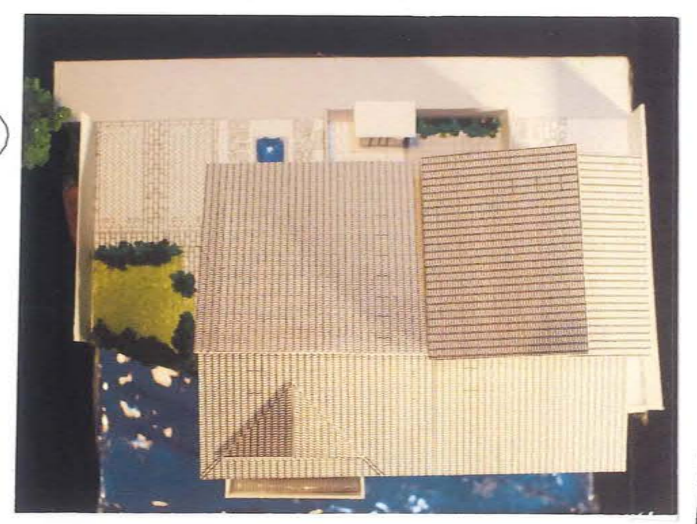


## 設計主旨

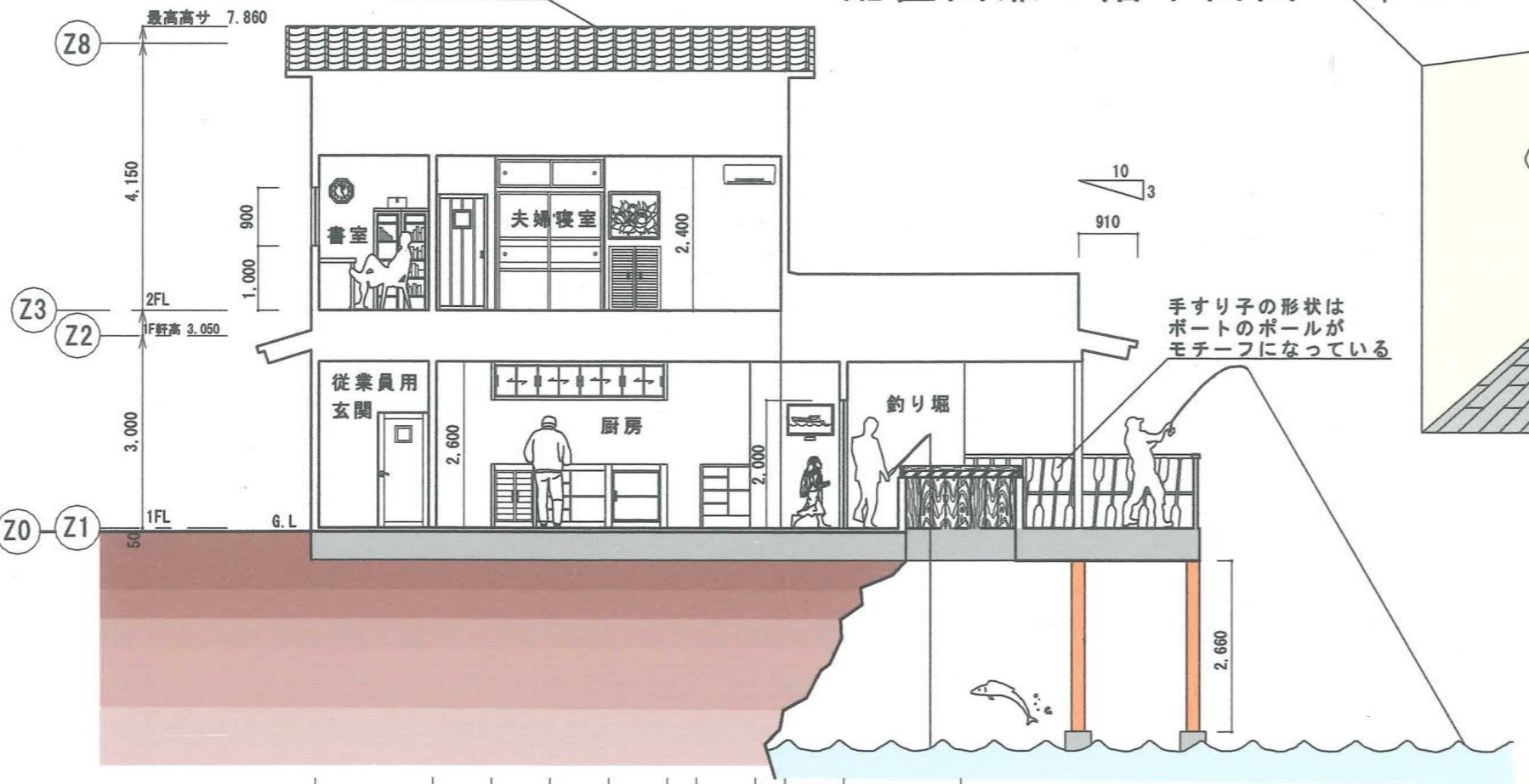
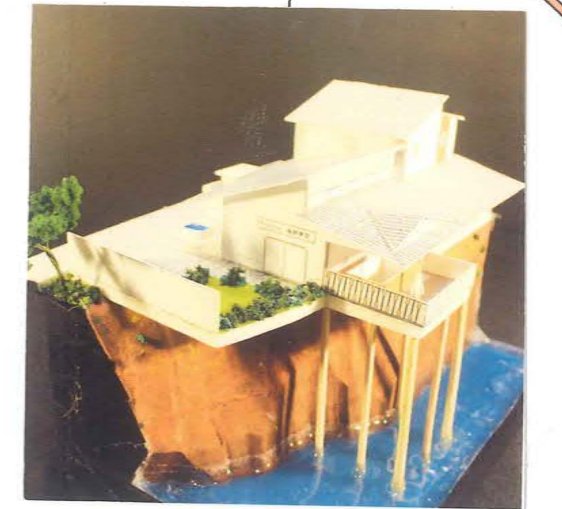
本設計の対象地域は愛媛県松山市にある北条スポーツセンターの道路わきにある海に面した崖とする。この敷地は東側にあるスポーツセンターと向かい側に広がる静かな海がある。この敷地は二面性をもち、この二面性を繋ぐ地域住民と観光客の両方の居場所となる飲食兼釣り店舗を提案する。また、今までにない敷地空間を取り入れることにより新たな空間を生み出す事ができる。建物の一部が崖からせり出しており、せり出した空間で釣りを楽しむことができる。半野外空間を設置することにより天候に左右されることなく釣りを楽しめる。



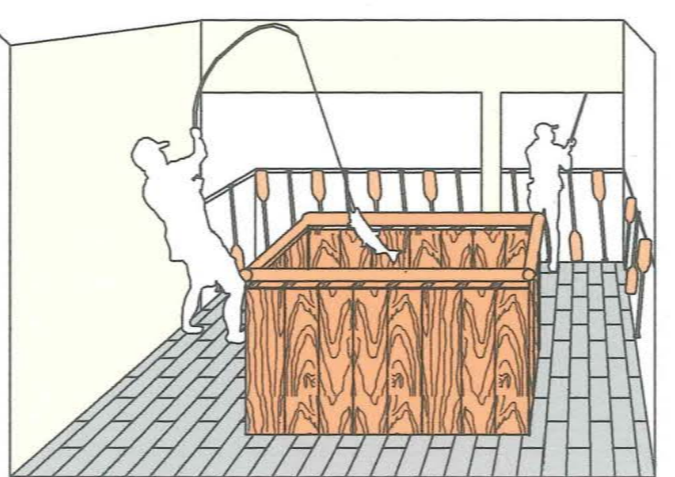
2階平面図 1/100



周辺地図

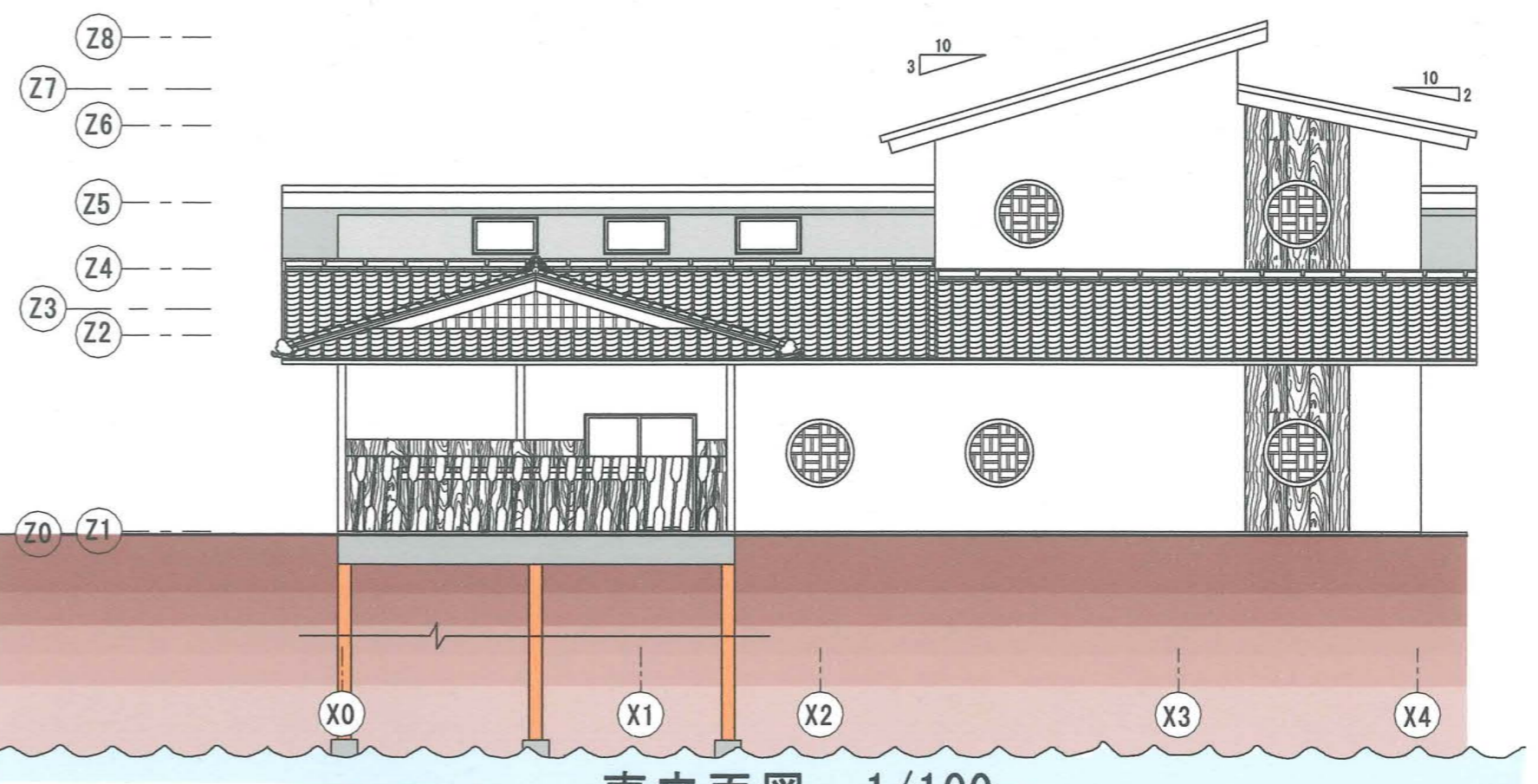


A-A 断面図 1/100



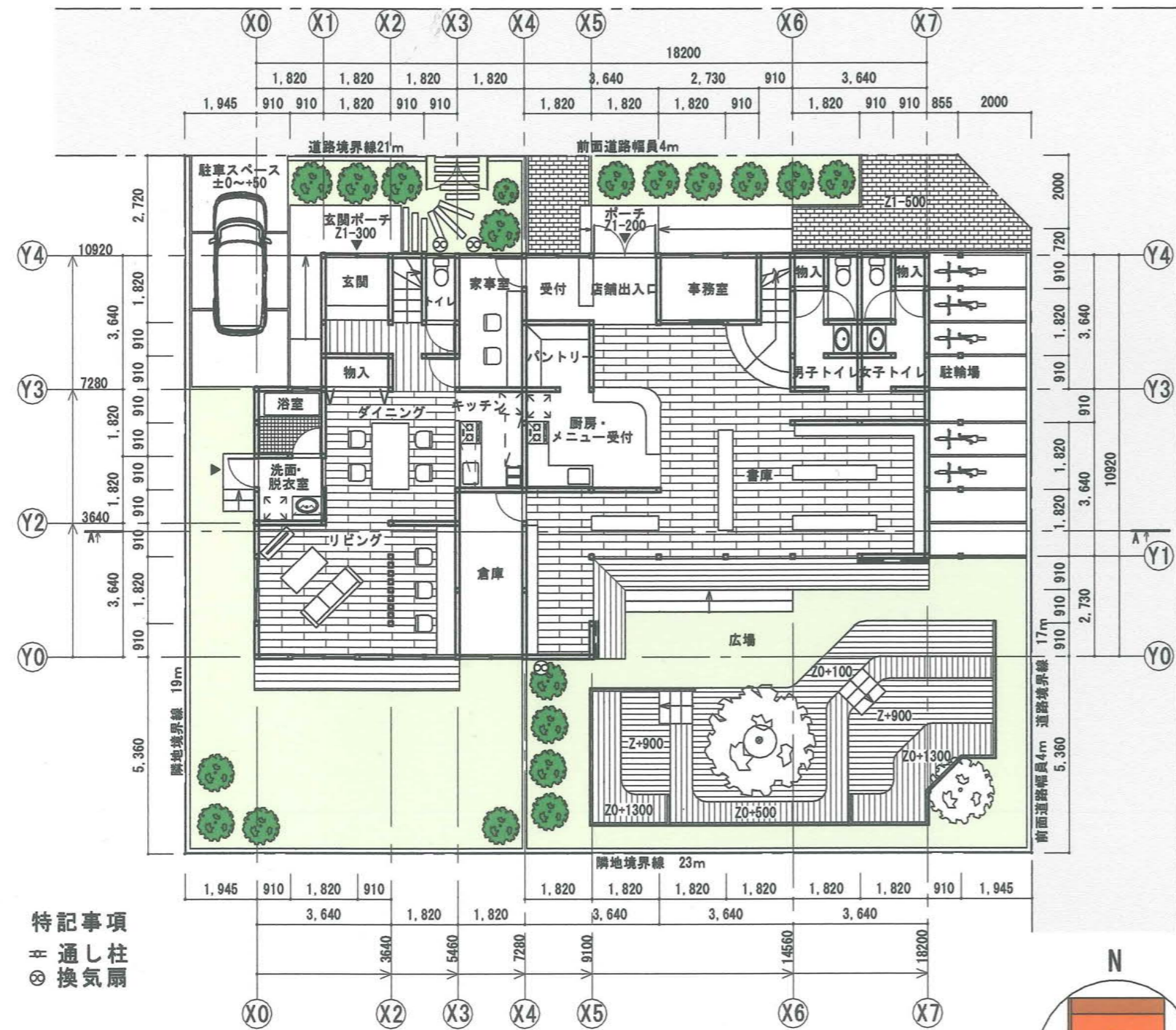
室内パース面積表

敷地面積	326.887㎡
1階床面積	173.624㎡
2階床面積	51.266㎡
延べ床面積	224.89㎡
建築面積	173.624㎡
建ぺい率	62.797%
容積率	68.797%



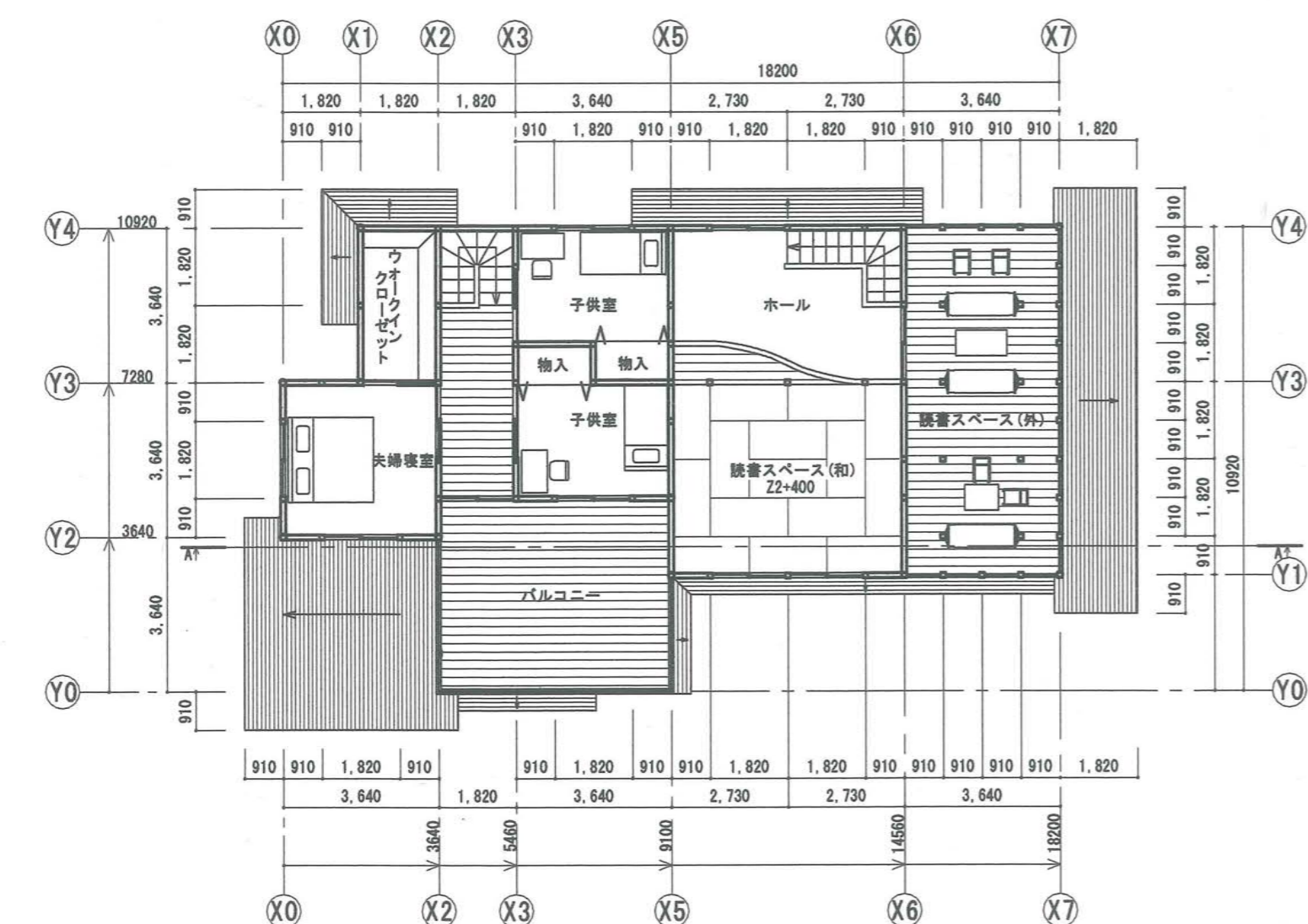
南立面図 1/100

# Hobby Warehouse～新しい趣味の発掘～



配置図兼一階平面図 1:150

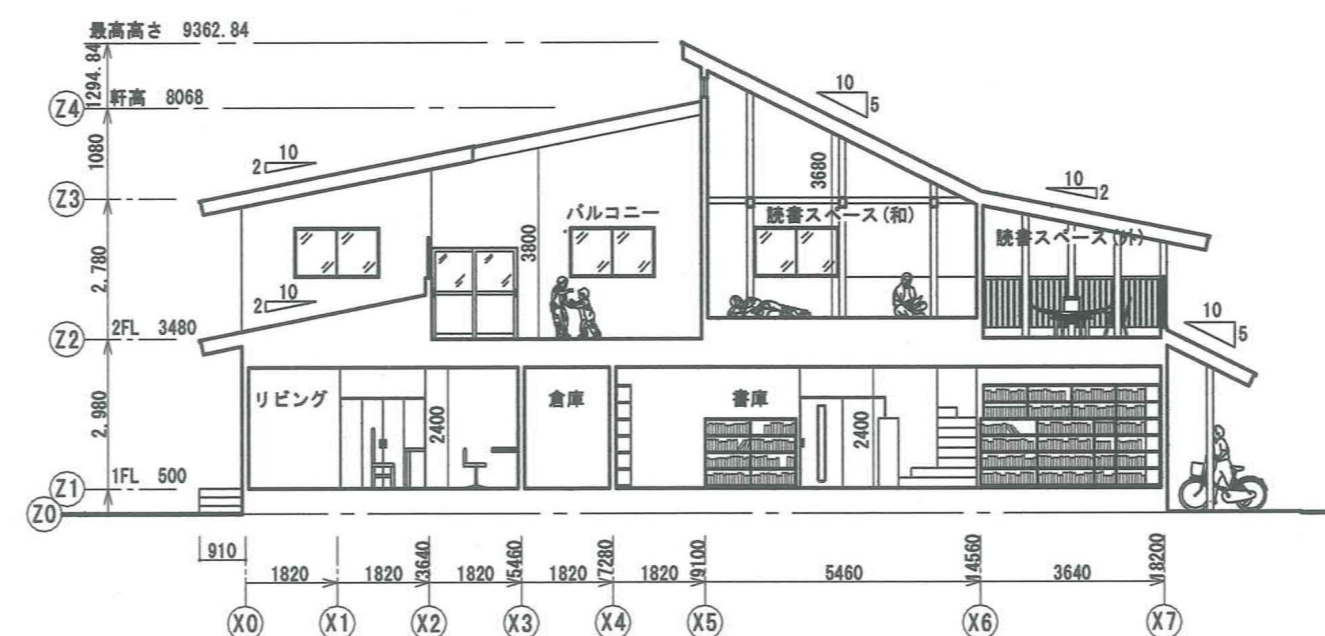
特記事項  
H 通し柱  
⊗ 換気扇



二階平面図 1:150

## コンセプト

「Hobby Warehouse～新しい趣味の発掘～」は題名の通り、新しい趣味を見つけようために自分が好きな場所で好きな姿勢になって読書を楽しんでもらうことをコンセプトとしている。現代において、情報収集するにはスマホがあれば充分である。だが、簡単に情報を得ることができ、知識としての実りが少ない。それに比べ、本や雑誌は自らが手間を掛けるぶん、印象に残り知識として実りが大きいと感じる。また、スマホが原因で視力の低下や睡眠の質の低下など、身体や健康面での影響も大きいためスマホ離れが必要と考えたからだ。そのため多忙な毎日やスマホのことを忘れ、本を気軽に取り居心地の良い空間で、新たな趣味の発掘ができるブックカフェの店舗付き住宅を提案する。



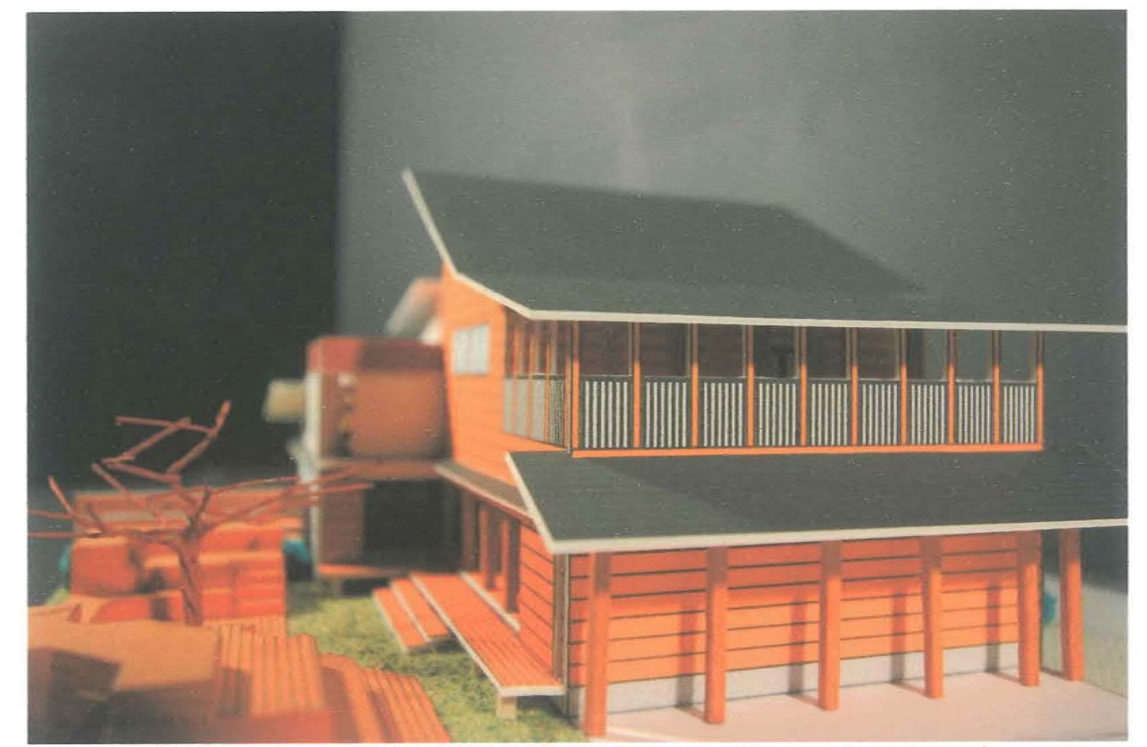
A-A断面図 1:150



南立面図 1:150



一階は出入りが楽になるように窓を完全に取り外して建物と庭が一体化できるようになっている。



二階部分はそのまま床に座って読書ができる量でできた和の空間と椅子やハンモックを利用してアウトドアのような印象をあたえる空間になっている。



周辺地図

敷地面積	435㎡
建築面積	175.49㎡
一階床面積	163.02㎡
二階床面積	156.63㎡
延べ床面積	319.65㎡
建ぺい率	40.34%
容積率	73.48%

面積表

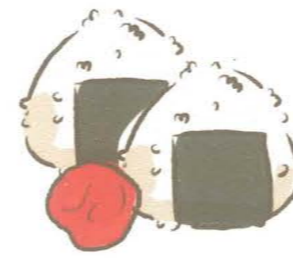


少し変わった雰囲気でお読書を楽しんでもらうために、庭を広場のようにして日の光が直接当たる外で誰かと気軽に話しながら読書ができる空間となっている。



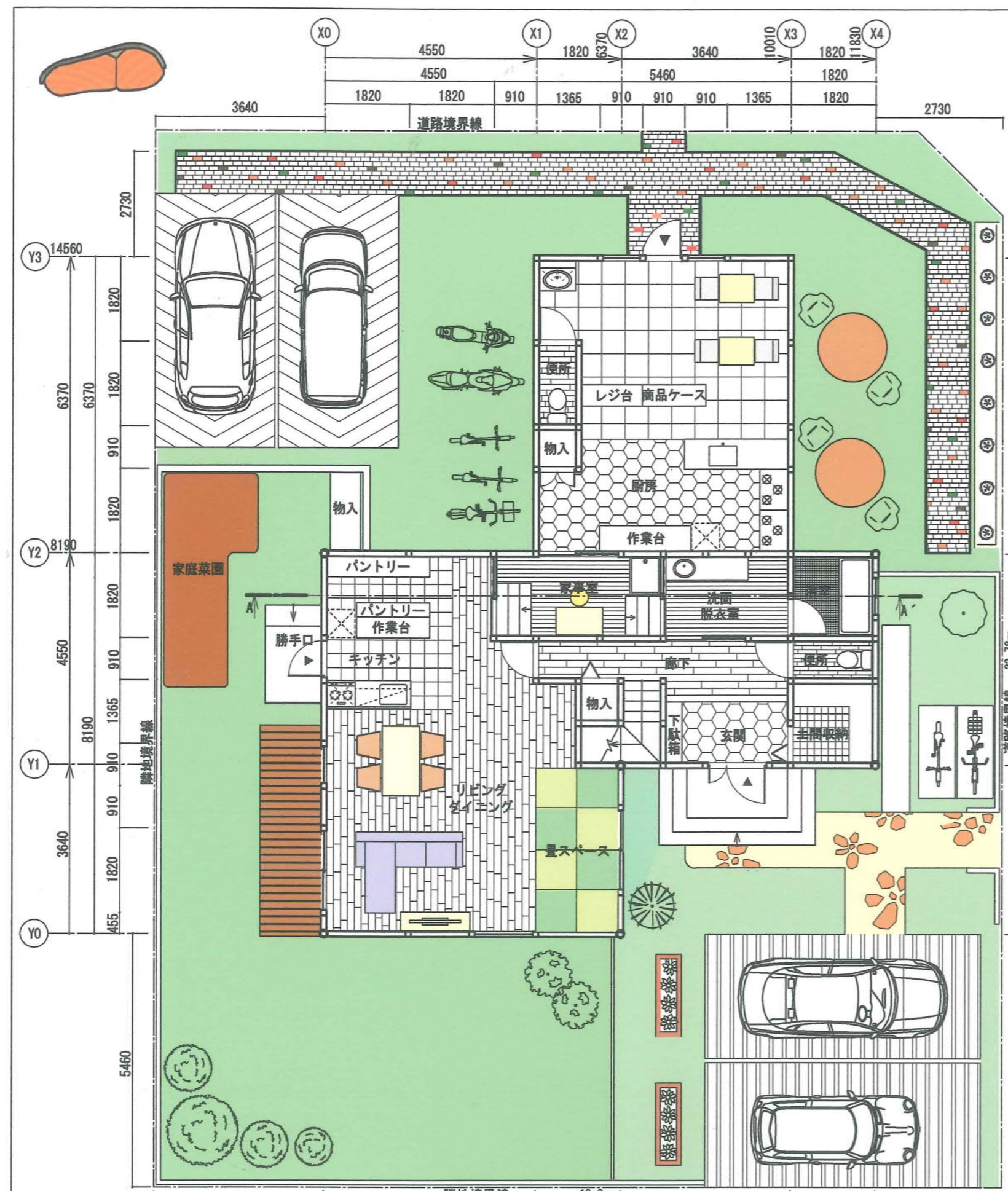
～地元の食材を届けたい～

# おにぎり屋凛々

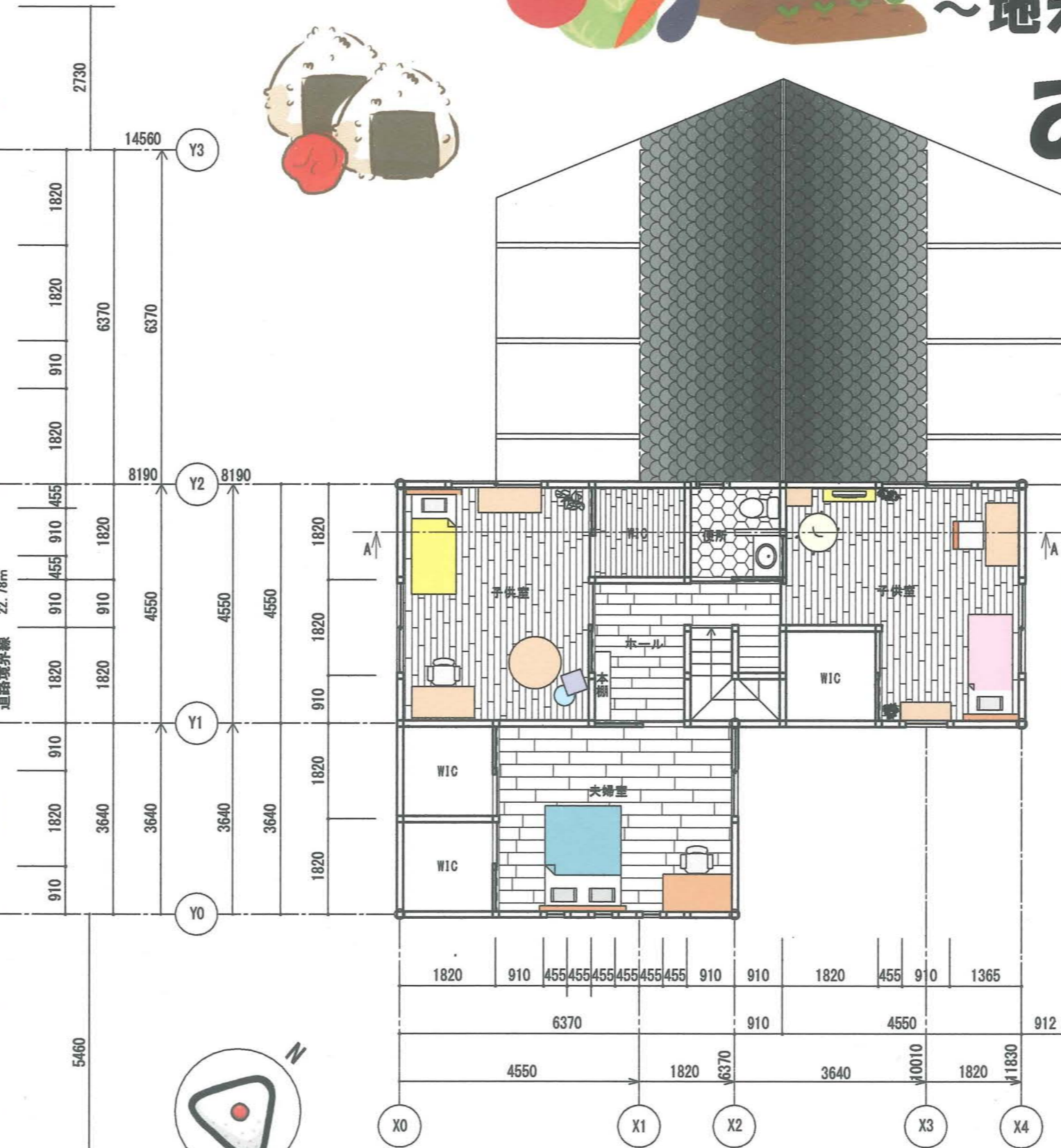


面積表

敷地面積	412.34㎡
1階床面積	111.79㎡
2階床面積	770.13㎡
延床面積	188.81㎡
建築面積	193.77㎡
建ぺい率	27.11%
容積率	46.99%



配置図兼1階平面図 S=1/100

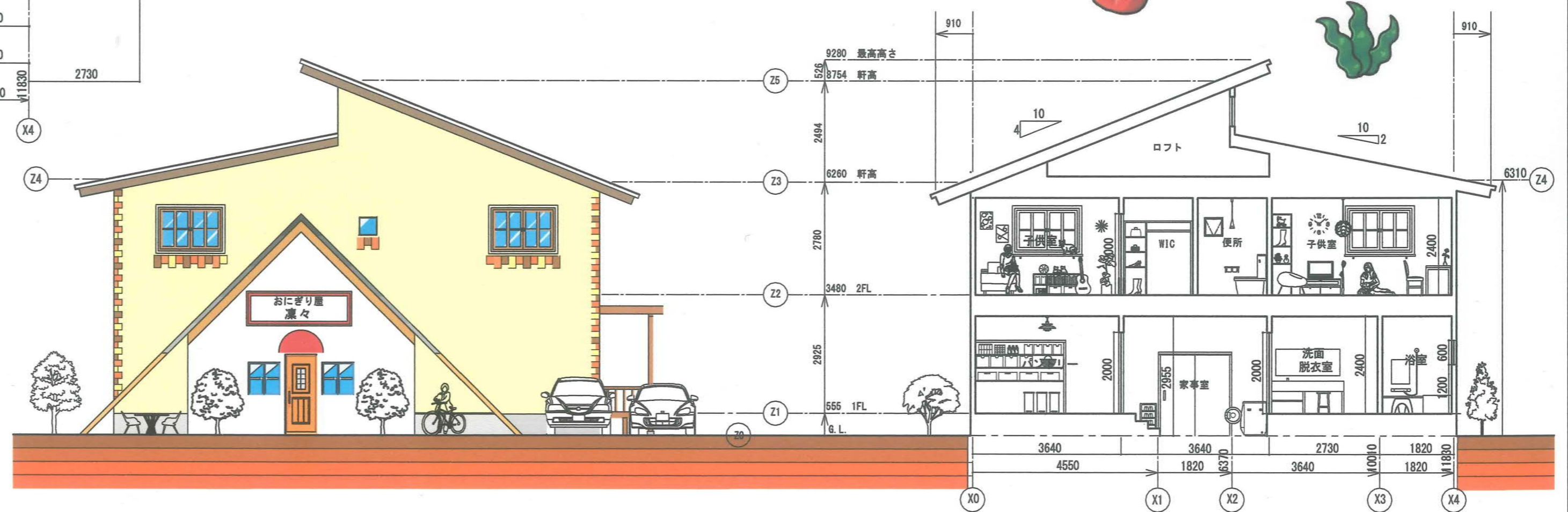


2階平面図 S=1/100



設計趣旨

しおさい公園の前に建つ三角形のおにぎり屋さんです。公園や競技場を利用する方々や、近所の方々が気軽に立ち寄ることができます。北側道路にはサイクリングロードも接続されているため休日には多くのサイクリストの休憩所としても利用されます。テラスでは瀬戸内海の潮風を感じながら落ち着いた一時を過ごすことができます。伊予市には多くの田畑があり地元で採れた米を土鍋で炊いたふっくらおにぎりを提供します。具材には家庭菜園で収穫した野菜や地元の食材を使用し、伊予市の豊かな食材や自然を堪能してもらうことを目的としています。店舗側のアプローチはおにぎりをモチーフにしました。米の白いレンガに、鮭や高菜、卵や明太子などをイメージしたレンガがちりばめられており海苔の黒いレンガで囲っています。まるでおにぎりのようなかわいらしい見た目は写真映えすること間違いなしです。



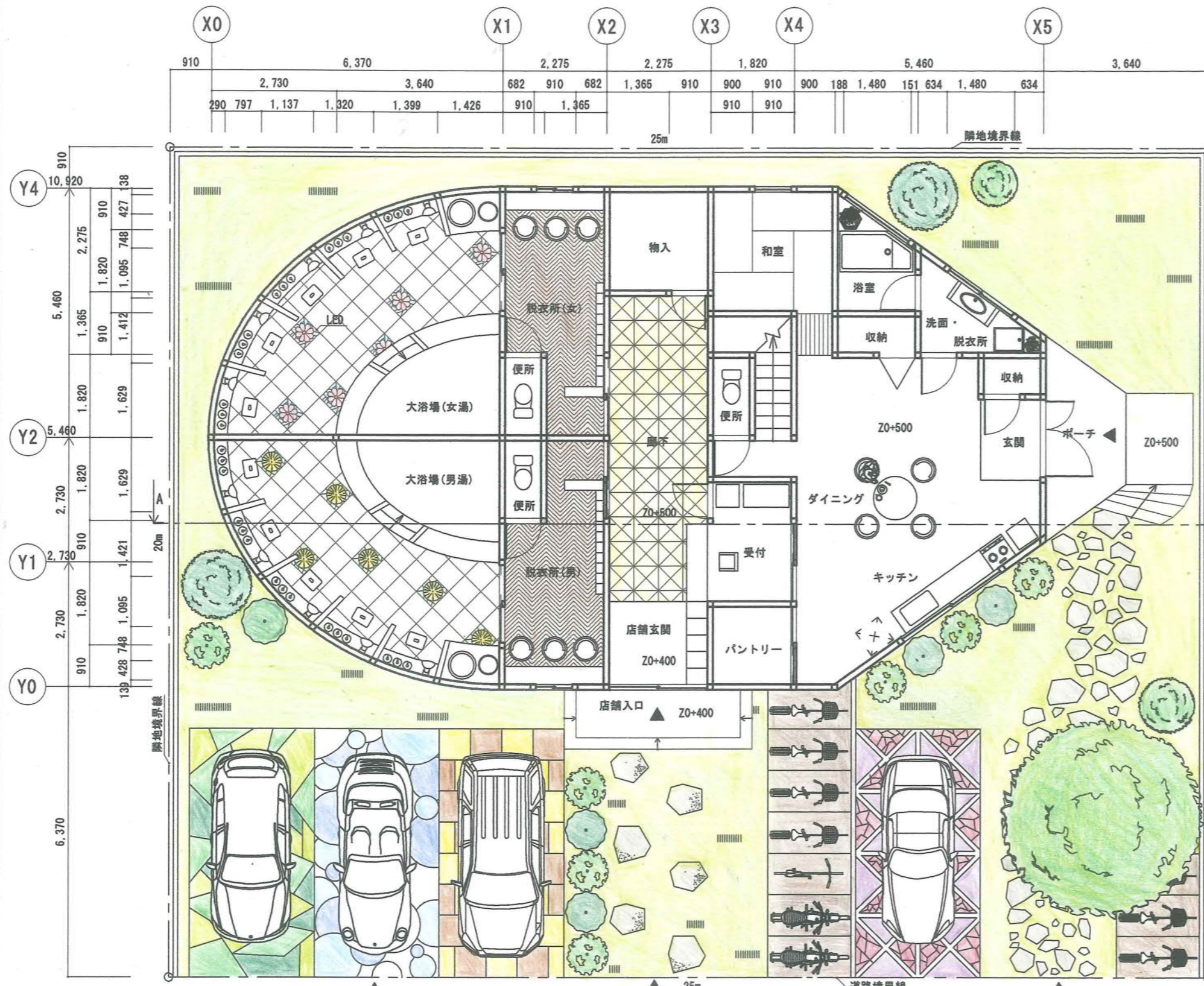
北立面図 S=1/100

A-A' 断面図 S=1/100

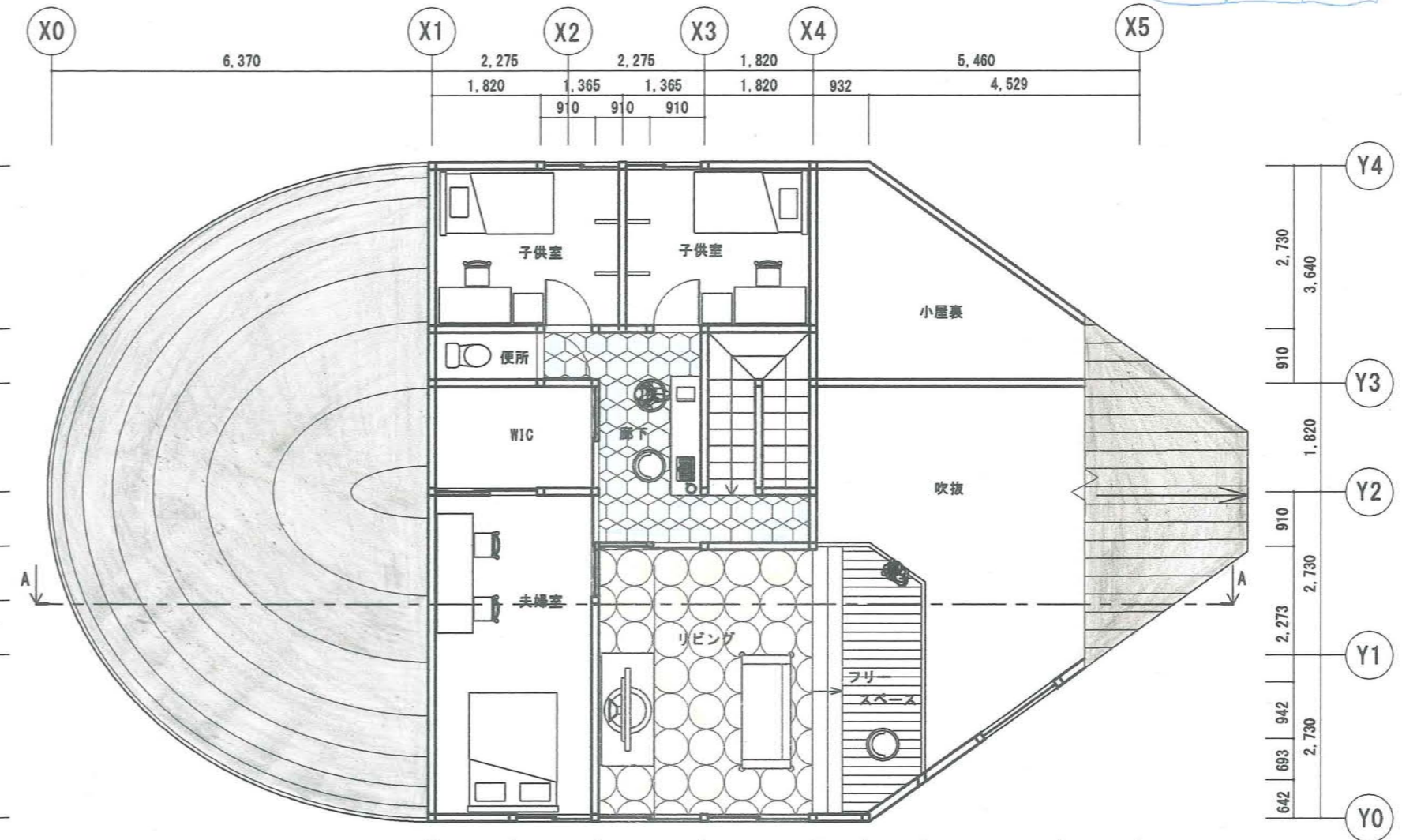
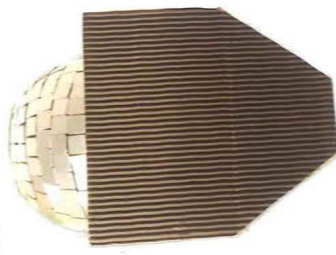




# プラネタリウム銭湯



配置図兼1階平面図 S=1/100

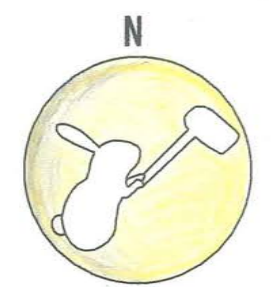


2階平面図 S=1/100

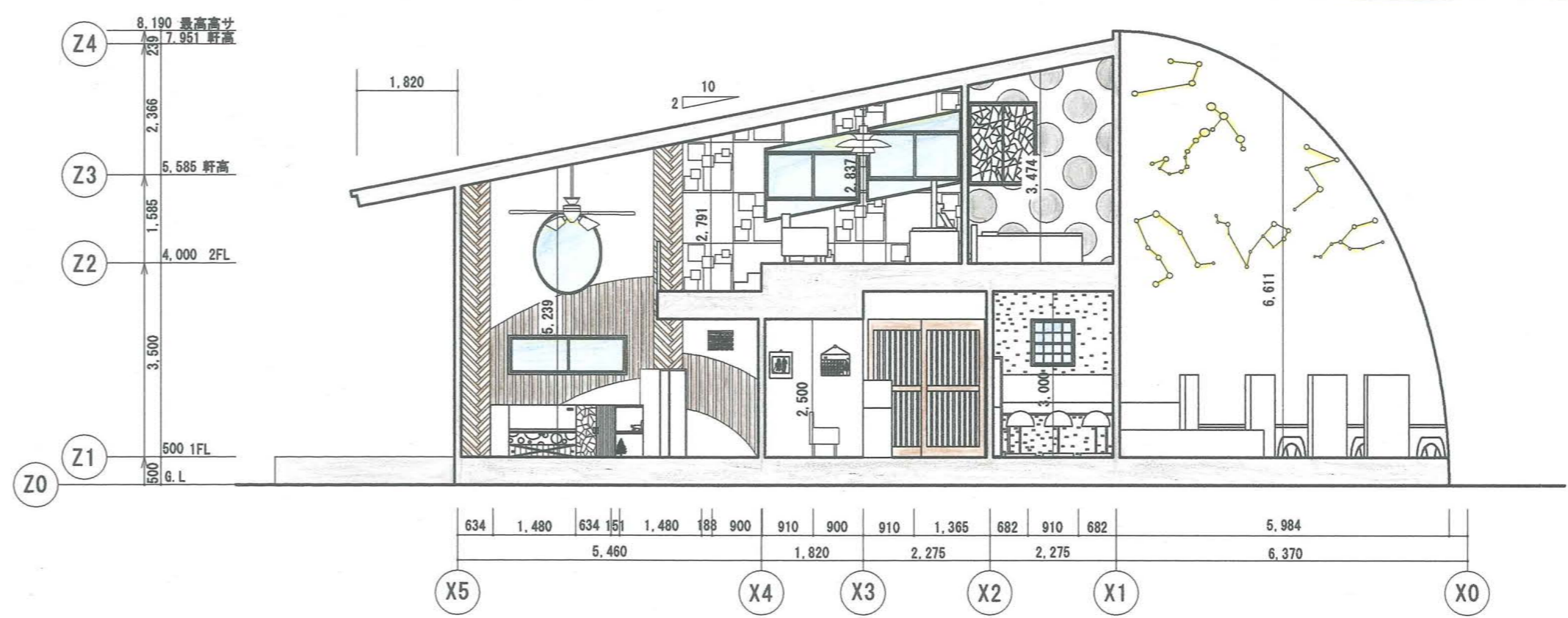
面積表	
敷地面積	414.05㎡
1階床面積	168.015㎡
2階床面積	69.56㎡
延べ床面積	237.565㎡
建築面積	168.015㎡
建ぺい率	40.58%
容積率	57.38%

## 設計趣旨

今回は、銭湯とプラネタリウムを融合させた店舗付き住宅を設計しました。この家では、父（46歳）と、母（42歳）そして中学2年生の姉と、弟の4人で住んでおり、銭湯も家族で経営しています。また、この家を設計する上で私が目指したことは、「年齢関係なく利用できる店舗」です。この家のドーム型となっている温泉部分の外壁には日光がある方向に動くソーラーパネルを設置しており、再生可能エネルギーを利用しています。また温泉内部には、天体観測好きの姉の意見で、どんな天候でも、綺麗な星やオーロラが見れるように、プロジェクターを使用して、プラネタリウムを再現しています。そして、銭湯と聞いたら、お年寄りのイメージが強いですが、この住宅は小さい子から、どんな人でももう1度利用したいと思ってくれるような、暖かい場所にしたくて、設計場所を小学校の近くにしています。また、歩道の休憩所としても利用でき、沢山の人がまったりと過ごさせて地域を暖かくするような住宅の設計をしました。



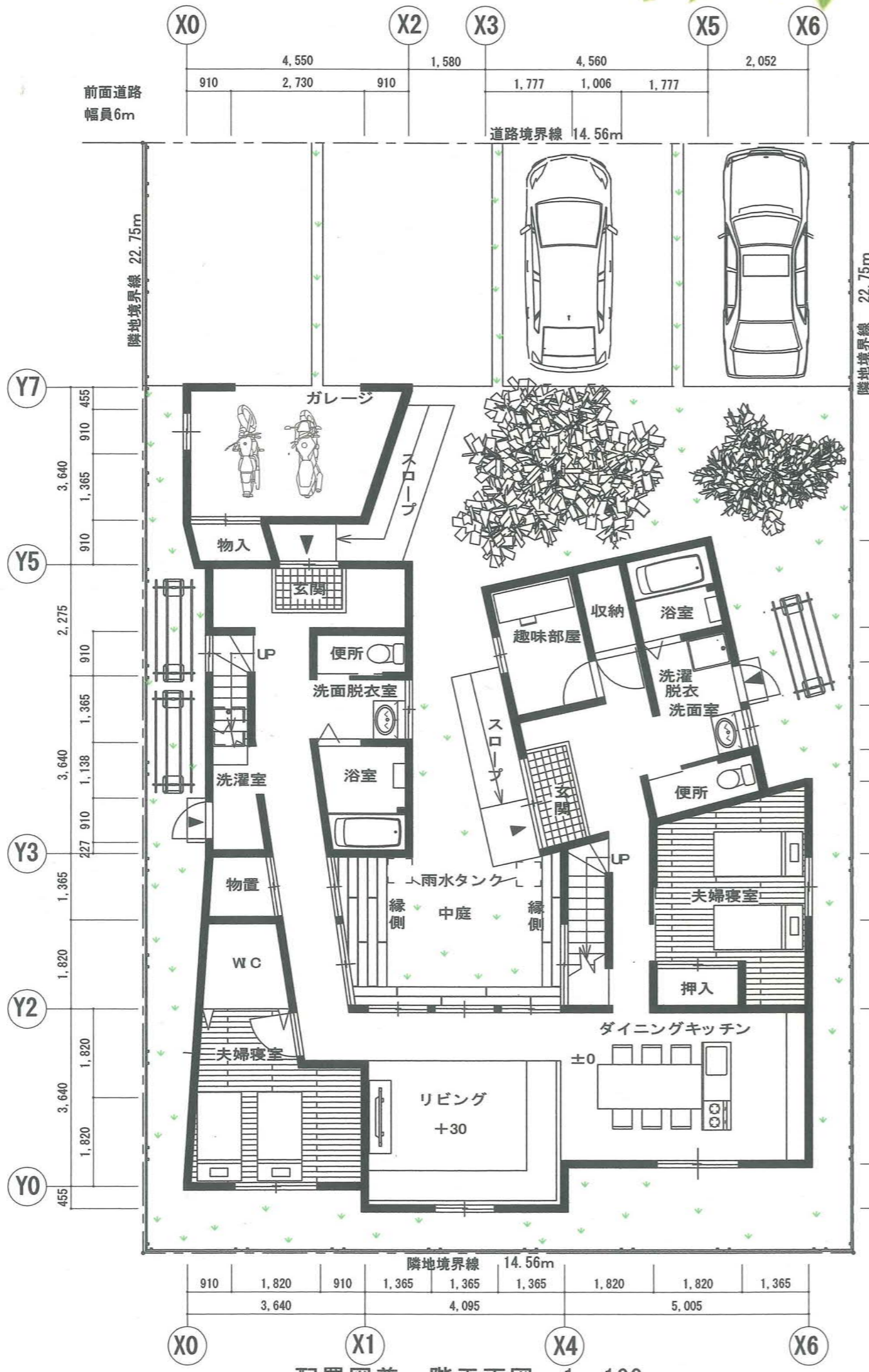
南立面図 S=1/100



A-A断面図 S=1/100

# LABYRINTH

～世帯間交流の絶えない家～

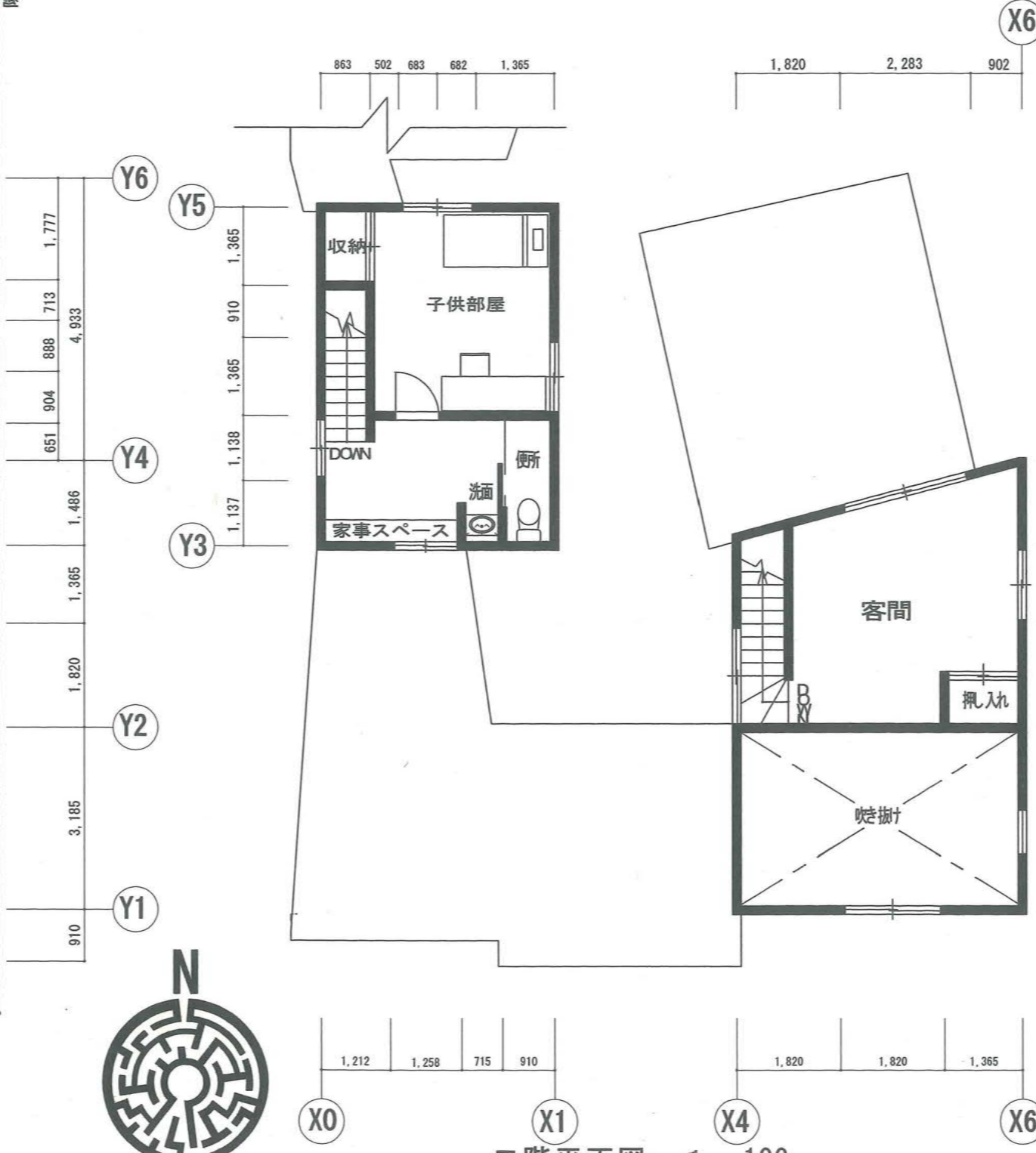


配置図兼一階平面図 1:100



**設計主旨**  
 いくつかの箱をつなげて一つの家にしてみるの面白さではないかというアイデアからこの二世帯住宅を設計しました。様々な角度の箱をつなげてみたり、高低差の違う箱をつなげたりすることで斬新なデザインに仕上げました。  
 家の名前のLABYRINTHとは迷路という意味があり平面図を迷路のように作ったのでこの名前になりました。  
 また、これからの時代、環境を守ることが大切になってきます。そのため、緑を植えてみたり、太陽光パネルや雨水タンク、天窗採光による自然エネルギーの活用が可能なよう設計しました。高齢者は人との交流をしないと6年後の死亡率が2.2倍になってしまうという研究結果を東京都健康長寿医療センターが出しています。  
 なので、家の中央には中庭を設け休日にバーベキューをしたりして二世帯が交流することのできる憩いの場を設けました。これにより、二世帯とも安心して暮らせると思っています。今後のことを考え二世帯どちらの玄関にもスロープを設け、バリアフリーにも対応できるようになっています。ダイニングキッチン、吹き抜けにすることで解放感を感じることができるようになっています。  
 このような二世帯住宅に住んでみませんか。

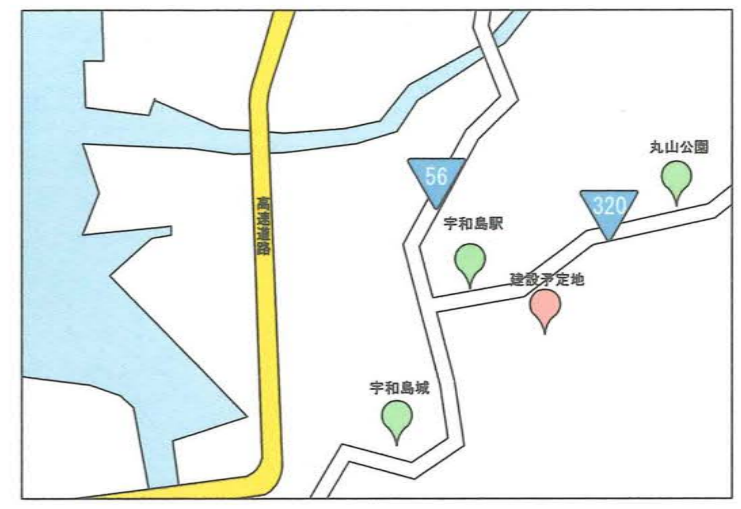
面積表	敷地面積	建ぺい率	一階延べ床面積	二階延べ床面積	延べ床面積
	333.24㎡	70%	128.86㎡	38.76㎡	167.62㎡



二階平面図 1:100

## 家族構成

- 祖父 (67) プラモデル作成
- 祖母 (65) 裁縫
- 父 (37) ツーリング
- 母 (36) DIY
- 子供 (15) ギター



周辺地図



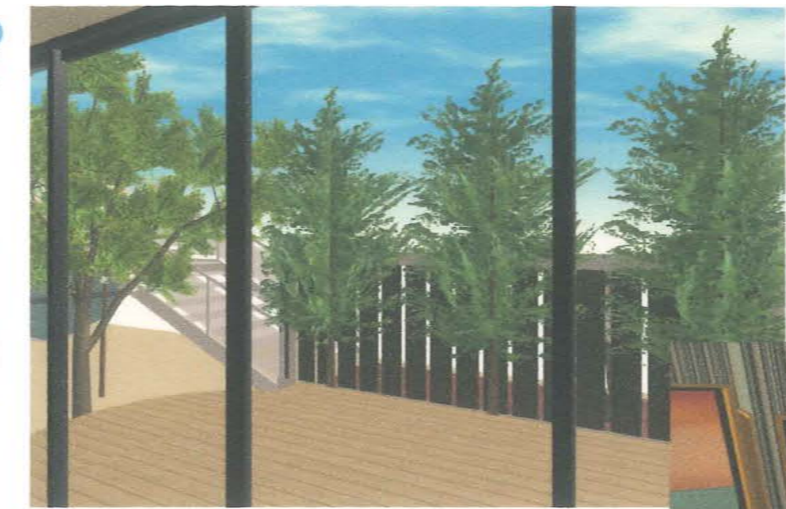
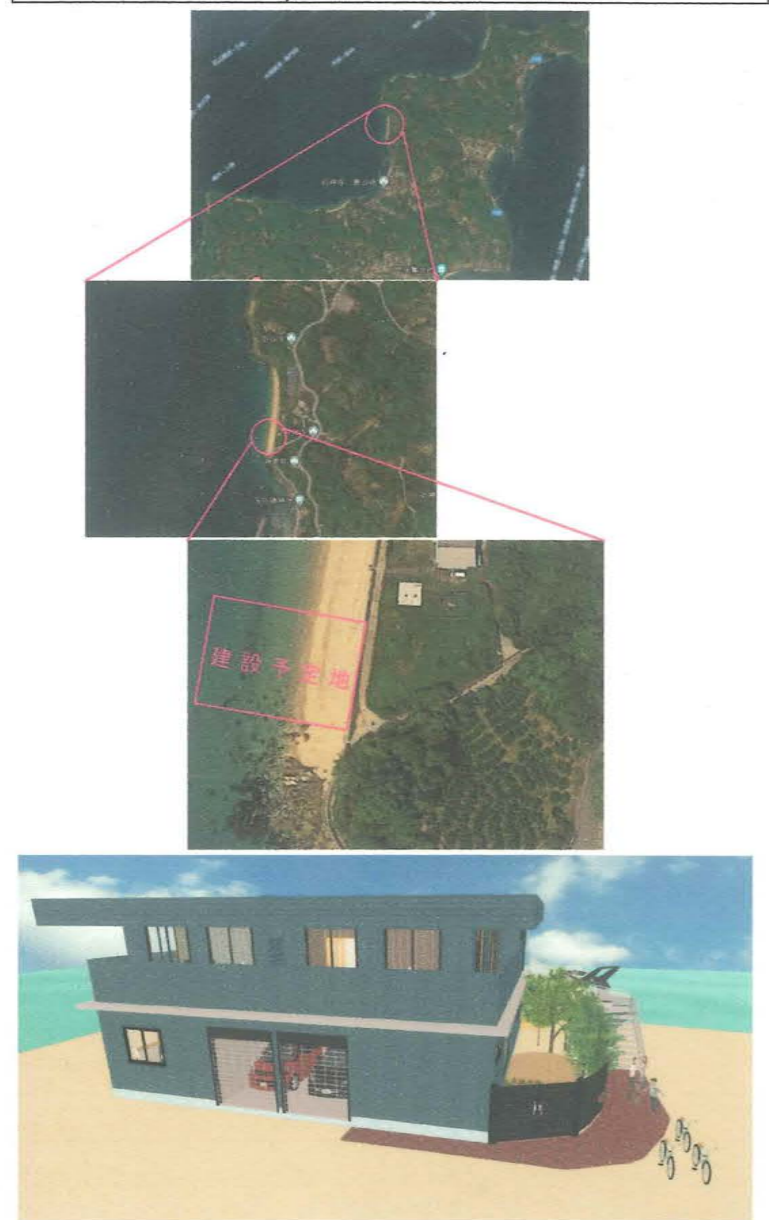
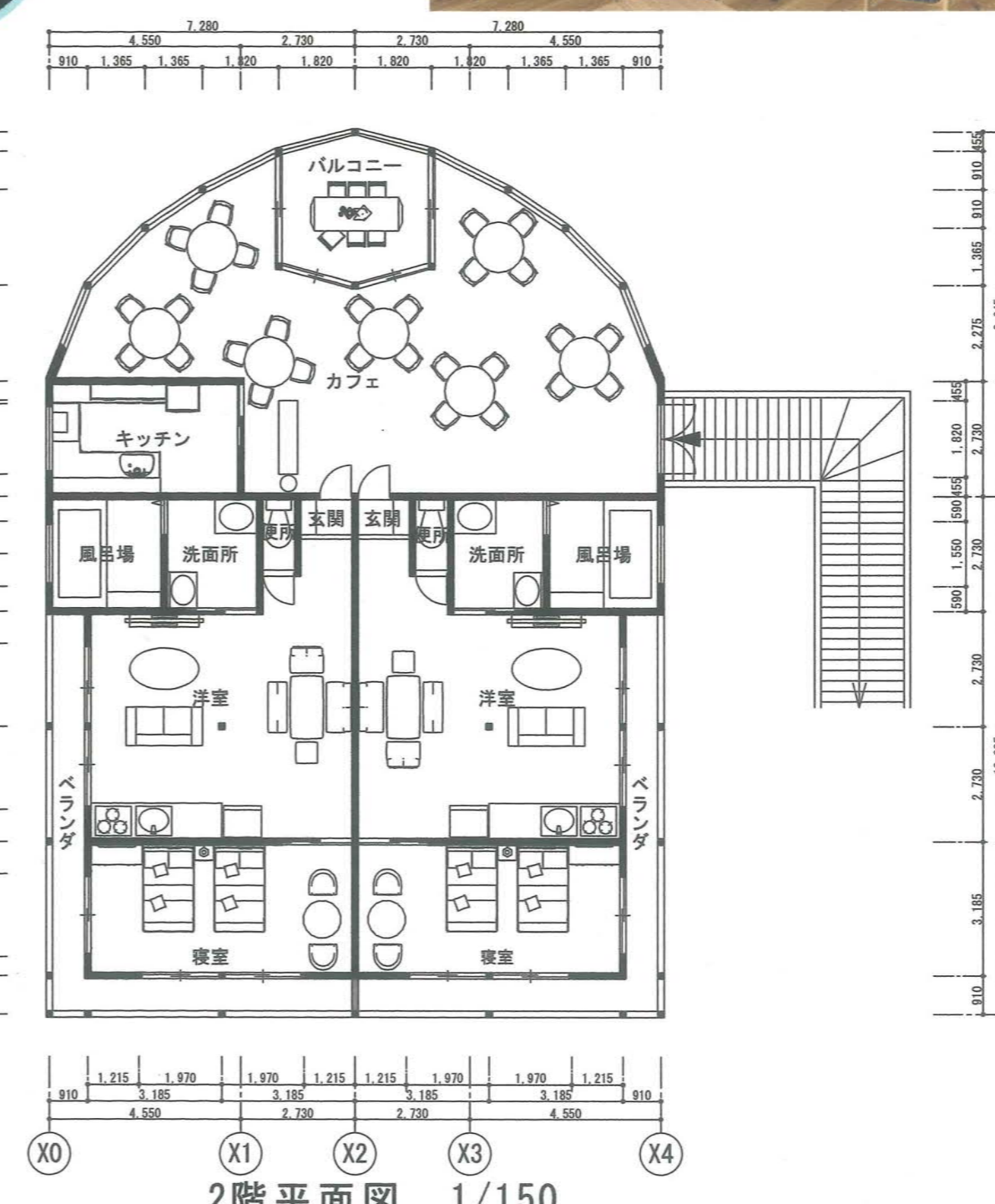
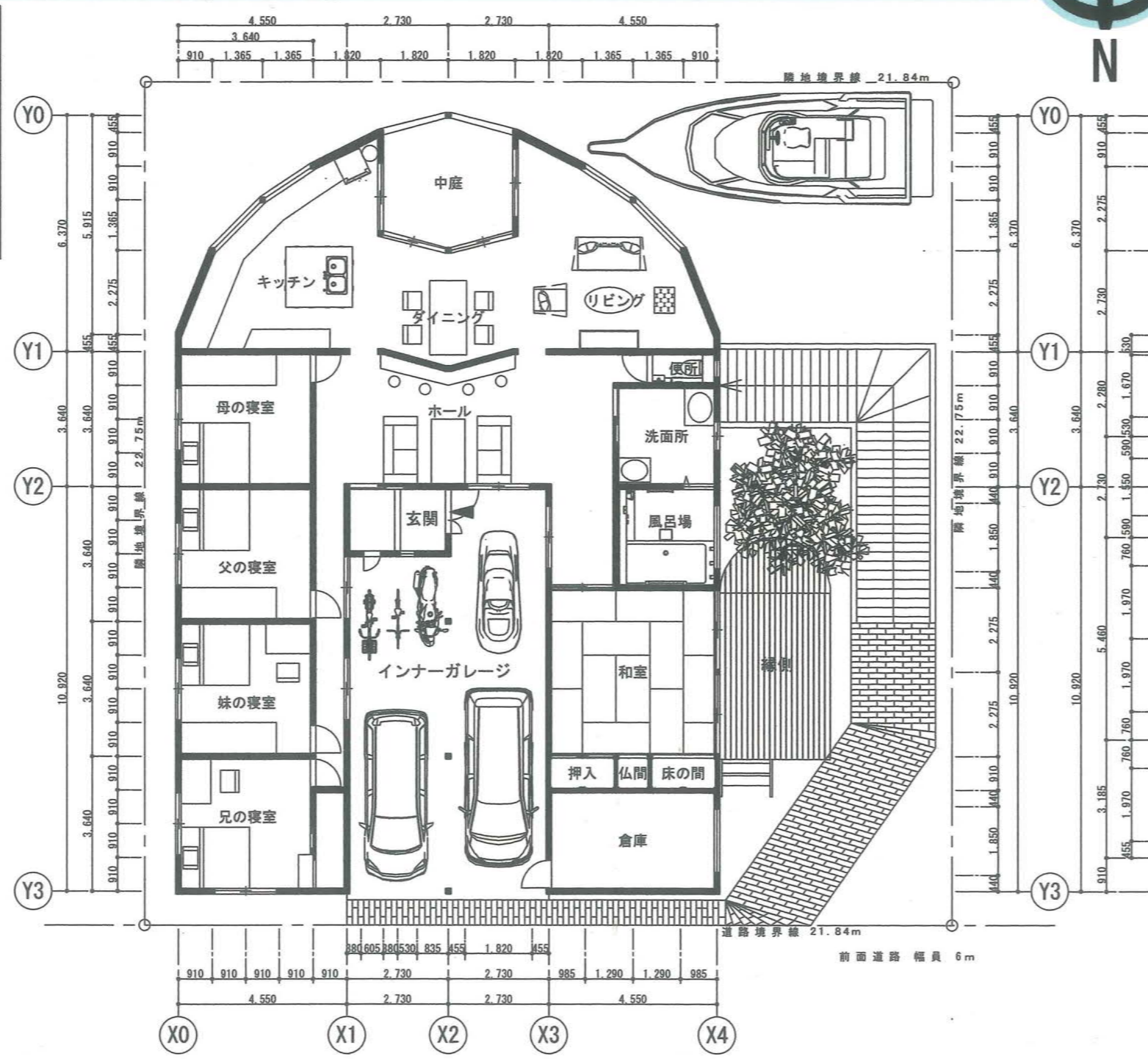
北立面図 1:100

# 宿 & カフェ la mer bleue

## 設計主旨

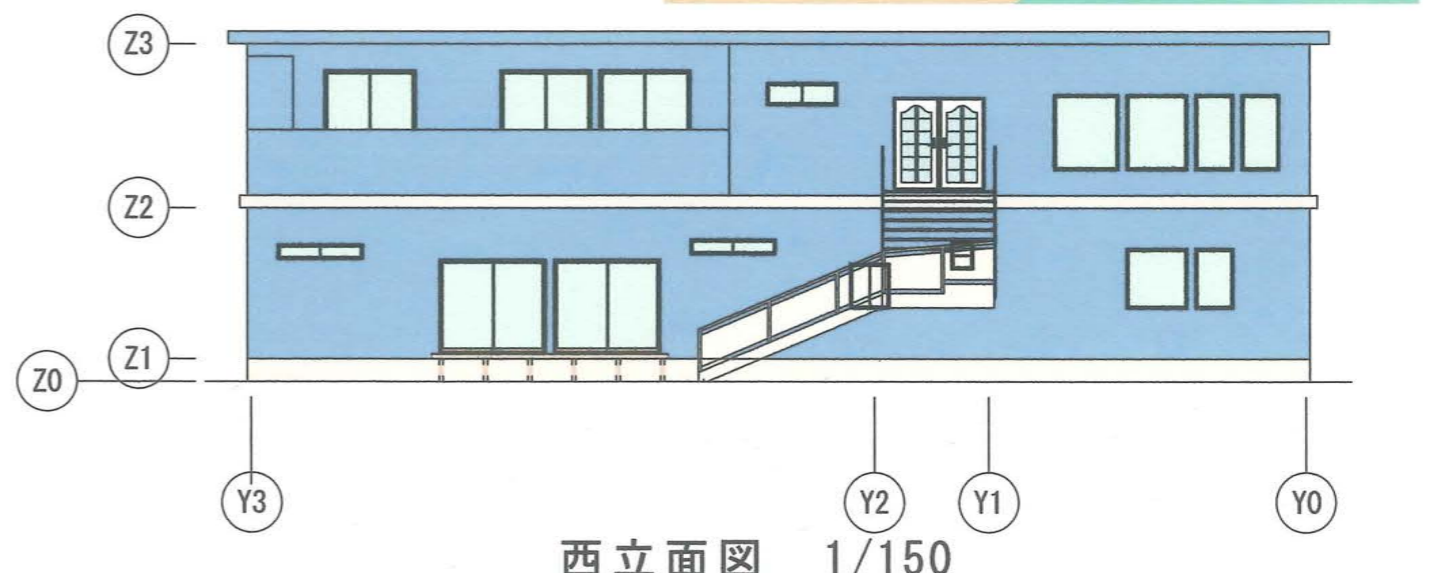
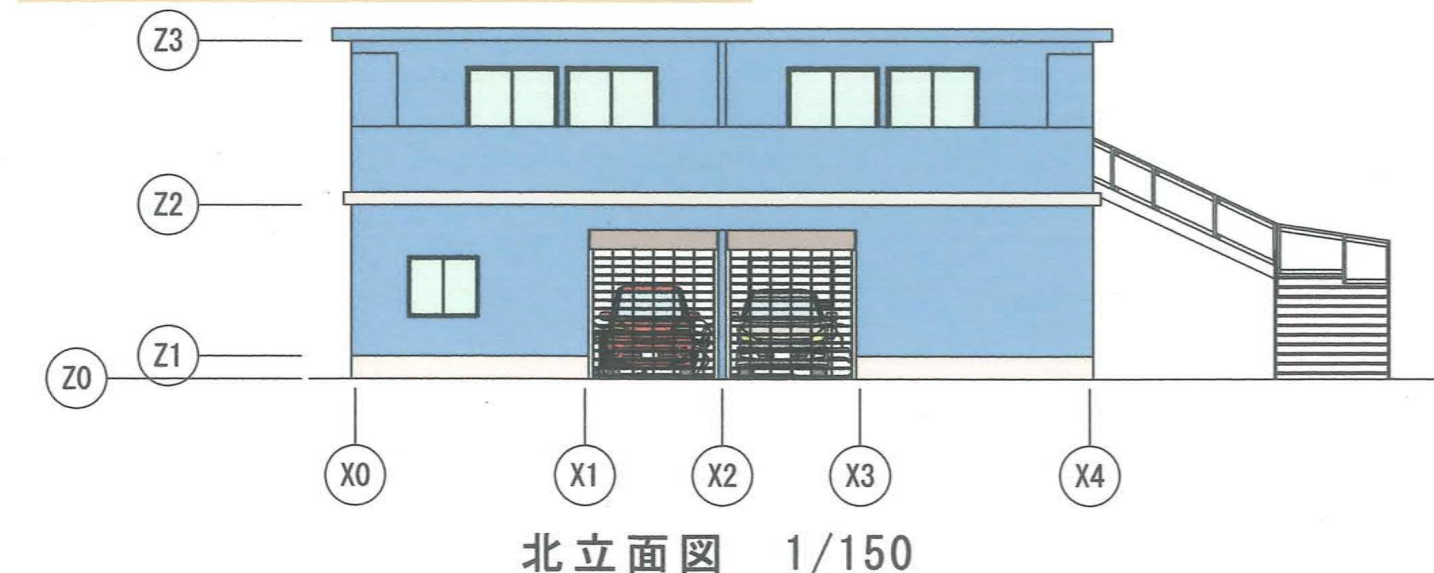
本日は、la mer bleue号をご利用いただき、ありがとうございます。  
 本船は、宿泊所やカフェが少ない島で、不自由なく過ごしてもらい、一日中、島の魅力を味わっていただきたく、設計しました。この形にした理由は、ありがちな形は楽しくないと思い、島を渡るのに必要な船で、見つけやすい形が良いと思ったからです。  
 船の前方には、海を眺めながら、朝釣ってきた新鮮な食材を食べていただけるカフェがございます。カフェに、大きな窓をたくさんつけることにより、広く感じ、海や夕日を眺めることができるように工夫しました。テラス席で潮風を感じながら食事をお楽しみください。  
 中程には、予約制の民宿がございます。民宿では、船の時間を気にすることなく、島でお楽しみいただけます。ぜひ、ペランダで周りの風景を眺めながら、のんびりしてみてください。  
 1階は、家族が暮らしており、一人一人部屋があるため、プライベートを楽しむことができます。インナーガレージを中央に配置することにより、車両甲板を再現しました。安全に参ります。どうぞごゆっくりお過ごしくださいませ。

敷地面積	496.86㎡
建築面積	267.26㎡
一階床面積	267.26㎡
二階床面積	238.28㎡
建ぺい率	53.8%



## 乗組員

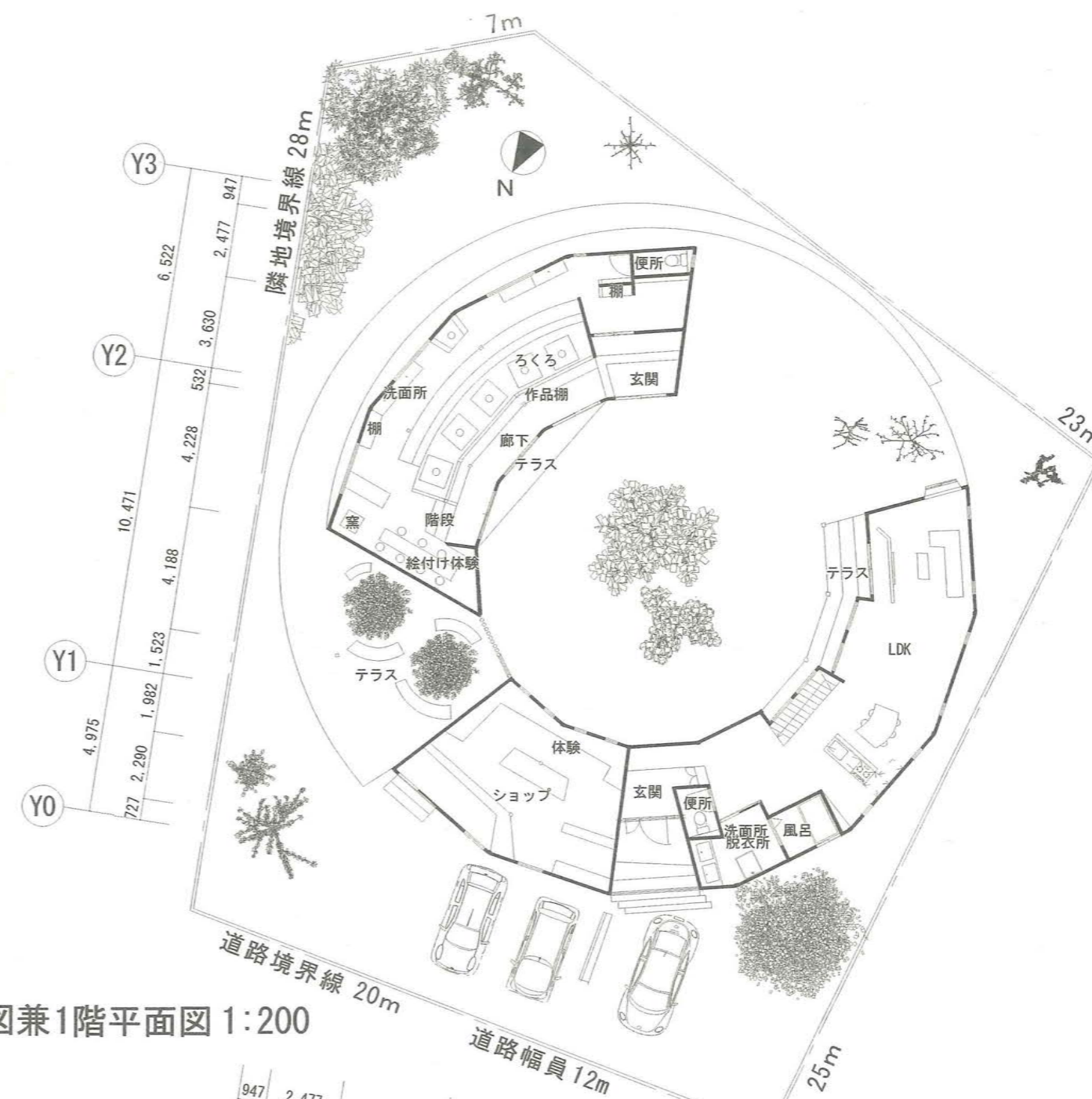
乗組員を紹介いたします。  
 船長、母(42) 趣味は釣りで、皆様に食べていただく食材は朝釣ってきた採りたてになります。  
 副船長、父(43) 趣味は料理で、皆様が食べる料理も父の手作りになります。  
 機関士、兄(18) 成績優秀な高校生、航海士、妹(16) 欠点常習犯高校生、この船のマスコットキャラクターのイヌが、今日一日一緒させていただきます。  
 お困りのことがございましたら、お声掛けください。  
 安全に参ります、どうぞごゆっくりお過ごしくださいませ。



陶芸教室とショップの二階建木造住宅

# ROTATE

～自然の空間と陶芸と～



配置図兼1階平面図 1:200

## -tree list-



2階平面図 1:200

### 家族構成

父 36歳 油絵  
母 35歳 ガーデニング 陶芸教室の先生  
娘 11歳 裁縫  
息子 9歳 陶芸

砥部に住む祖父母の庭には白と藍色に輝くさまざまな砥部焼が飾られてある。私はその場所へ行くのが楽しみだ。  
陶芸教室とショップの二階建て木造住宅は山のそばに建てた。新鮮な風と、のどかな音、温かな光。どこにいてもそんな自然に包まれたい。

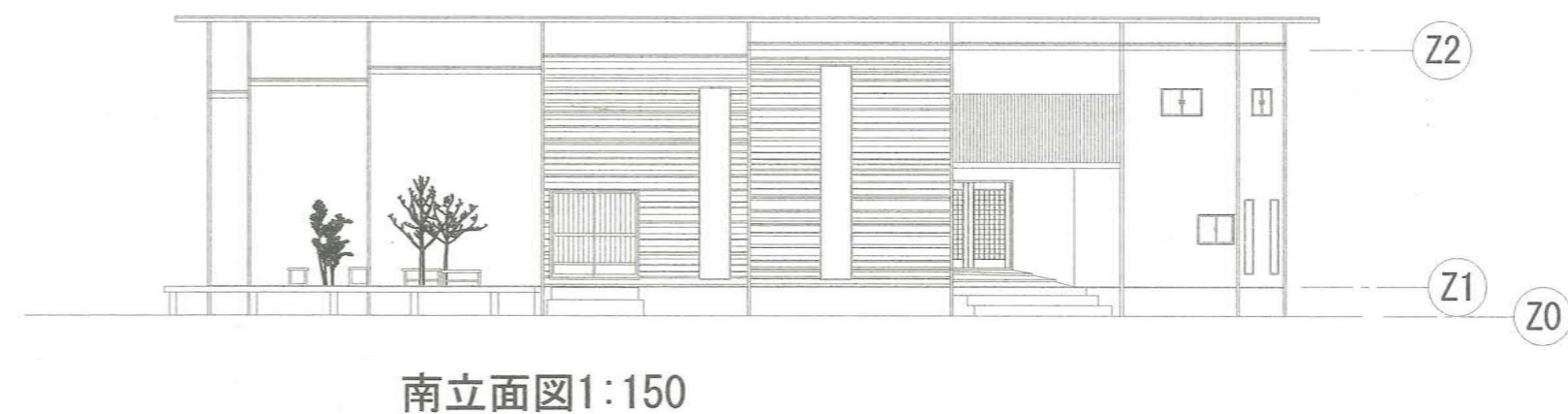
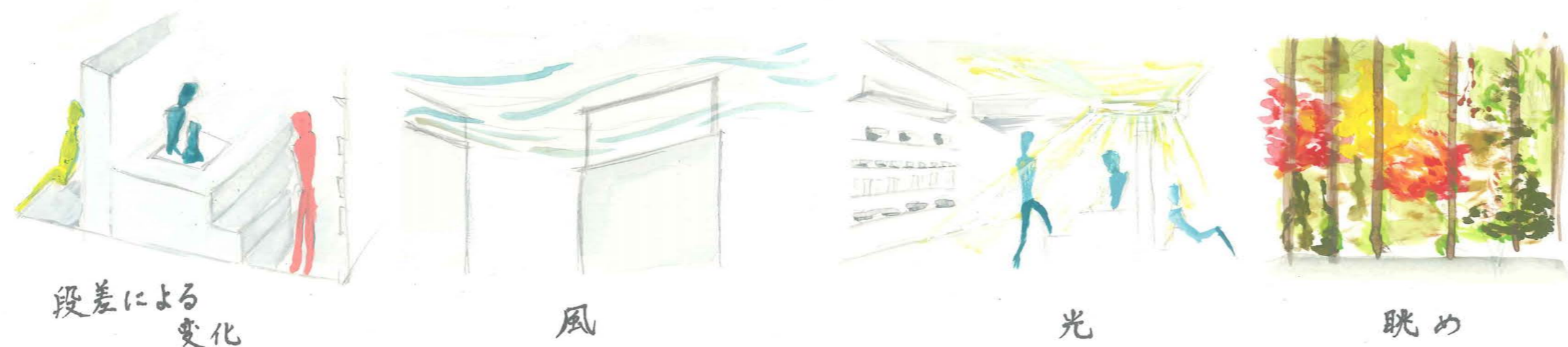
### 自然の空間と陶芸と。

渦巻のような円形の建物。階段状の屋根。木をふんだんに使うことで漏れる光とともに温かな家が出来た。  
多角形ならではの広がる奥行きと期待感。教室は床を3段に分けることで空間を仕切る。壁で区切らないことで開放的かつ変化を楽しむことができる。  
住宅部分では2階にテラスを設け、趣味の時間を楽しめるようにした。そして屋根は二重にしてある。  
これにより、光の強弱、風の流動が生まれさまざまな場所で異なる空間を感じられる。また、階段状の屋根を生かし側窓をつけることで温かな光が差し込む。

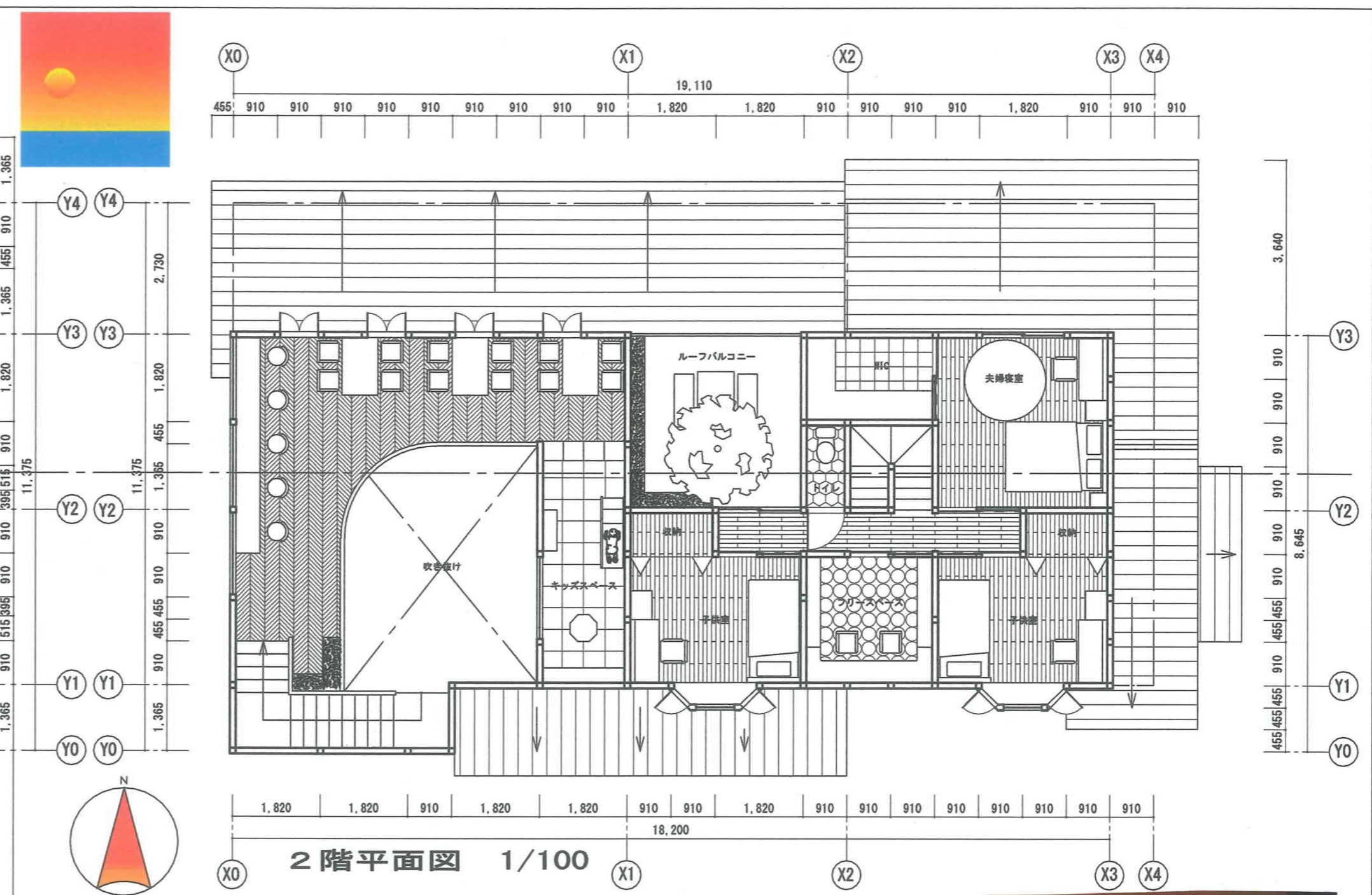
### 「Rotate」

私たちは自転し続けて感ぜられないその回転を、土に触れ、光に刺激を受け、体が風に包まれるようなそんな空間にスリッパをして止めてみたいと思った。

この場所は思いつく限りの願いを、叶えた店舗付き二階建て木造住宅です。



南立面図 1:150



面積表	
敷地面積	476.27㎡
建築面積	166.39㎡
一階床面積	166.39㎡
二階床面積	141.94㎡
延べ面積	308.33㎡
建ぺい率	34.94%
容積率	64.74%

2階平面図 1/100

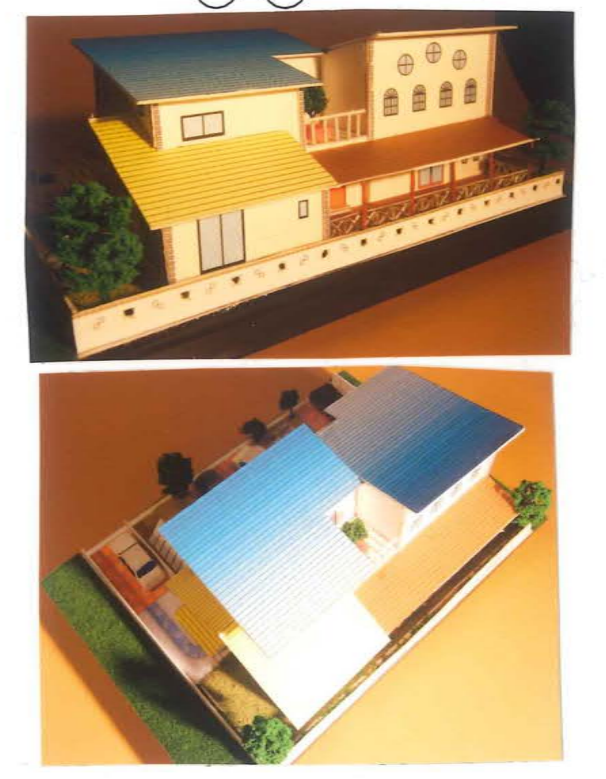
設計主旨

私は「海が見える駅」で有名な「下瀬駅」の近くにカフェを設計しました。この住宅には、パティシエールの妻とバリスタの夫、大学生と高校生の娘の4人家族が住んでいます。

私が設計するときには心掛けていたことは、「どんな方でもほっと一息つけるカフェ」にすることです。そのために、車いすに乗っている方でも入店しやすいように、スロープを設けました。また、小さなお子様と一緒に楽しめるよう、キッズスペースも設けました。トイレは車椅子に乗っている方が使いやすいよう広めにとり、赤ちゃんのおむつ交換もできるようなベビーシートも設けました。店舗部分は吹き抜けにし、圧迫感をなくしました。窓は大きめに取り、海側にはウッドデッキを設け景色を楽しめるようにしました。外壁は白をベースにし屋根も明るく仕上げ、誰でも気軽に入れるようにしました。

住宅部分には、家族みんなの趣味である読書ができるファミレススペースを設けました。また、ルーフトバルコニーも設け、海の景色を楽しみながら家族団らんを楽しむことができます。

下瀬駅は1~2時間に1本しか電車が来ないので、電車を待っている間に少しでもゆっくり休憩できるように、カフェを設計しました。また、私が心掛けていた「どんな方でもほっと一息つけるカフェ」にすることも達成できたと思います。立ち寄ってくださった方々が、また行きたいと思ってくだされば幸いです。



配置図兼1階平面図 1/100

美しい空と海が見えるカフェ  
海夕 ~Miyu~



A-A断面図 1/100

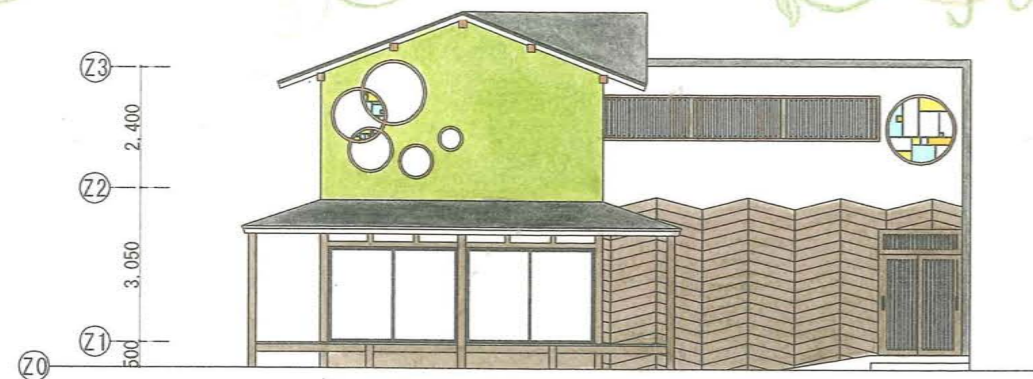


北立面図 1/100

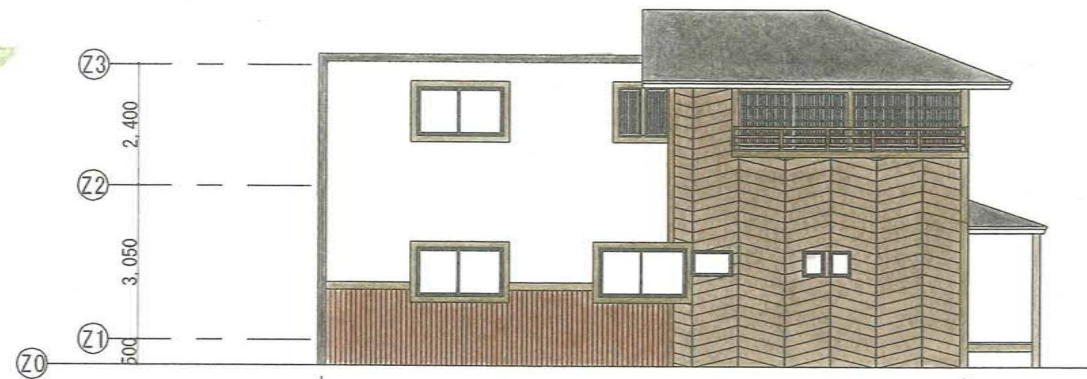


# 縁

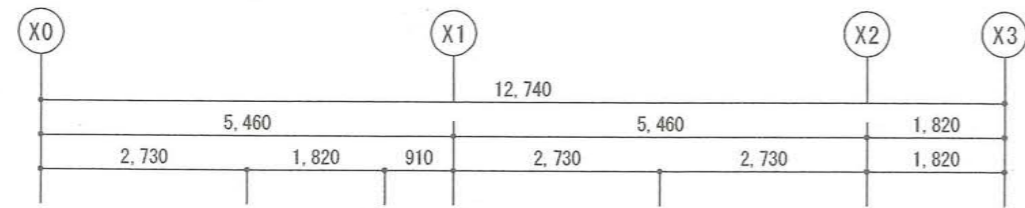
し趣味でつながる二世帯し



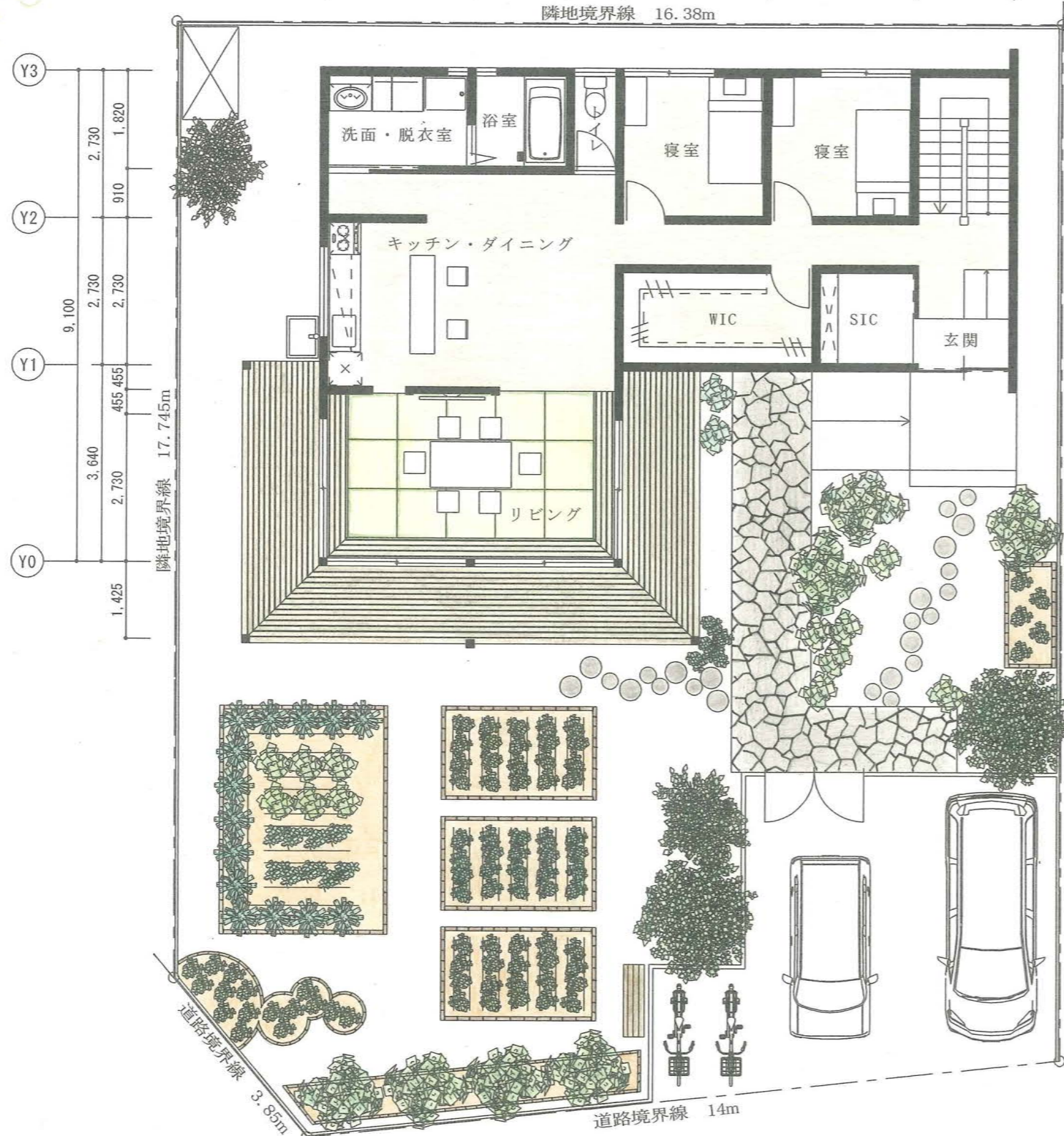
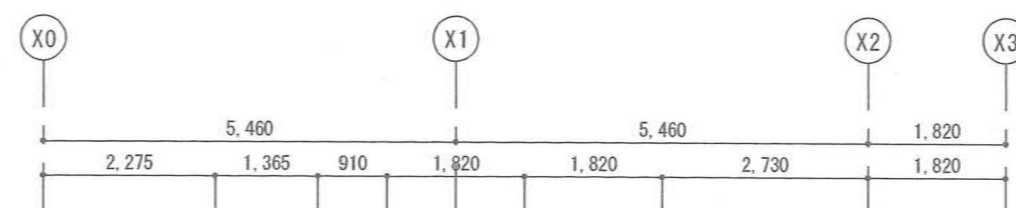
東立面図 S=1/150



西立面図 S=1/150



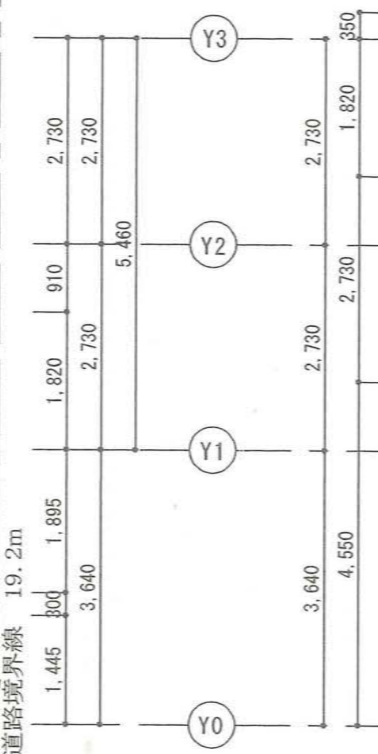
隣地境界線 16.38m



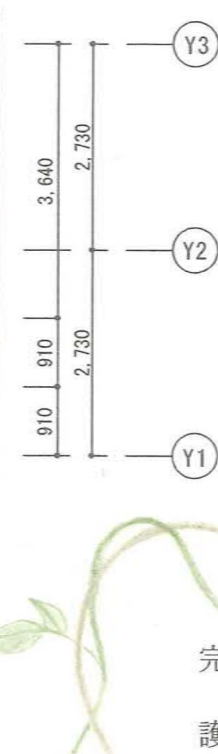
配置図兼一階平面図 S=1/100



二階平面図 S=1/100



道路境界線 19.2m



周辺地図

## 家族構成・趣味

- |         |         |
|---------|---------|
| 祖父 (76) | 家庭菜園    |
| 祖母 (71) | 料理      |
| 父 (32)  | 家庭菜園・読書 |
| 母 (34)  | ガーデニング  |
| 長男 (10) | 野球      |
| 次男 (4)  | 虫取り     |

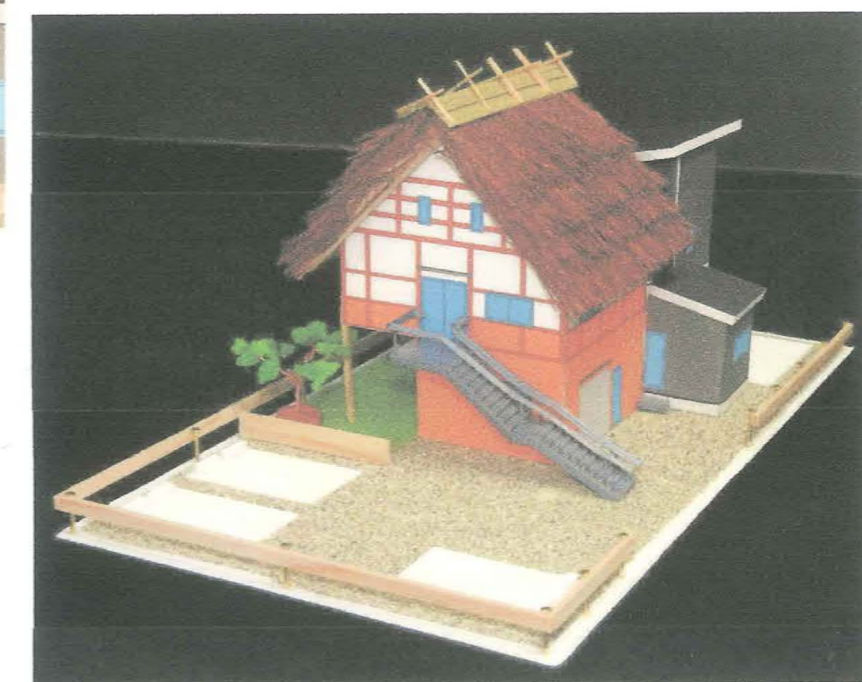
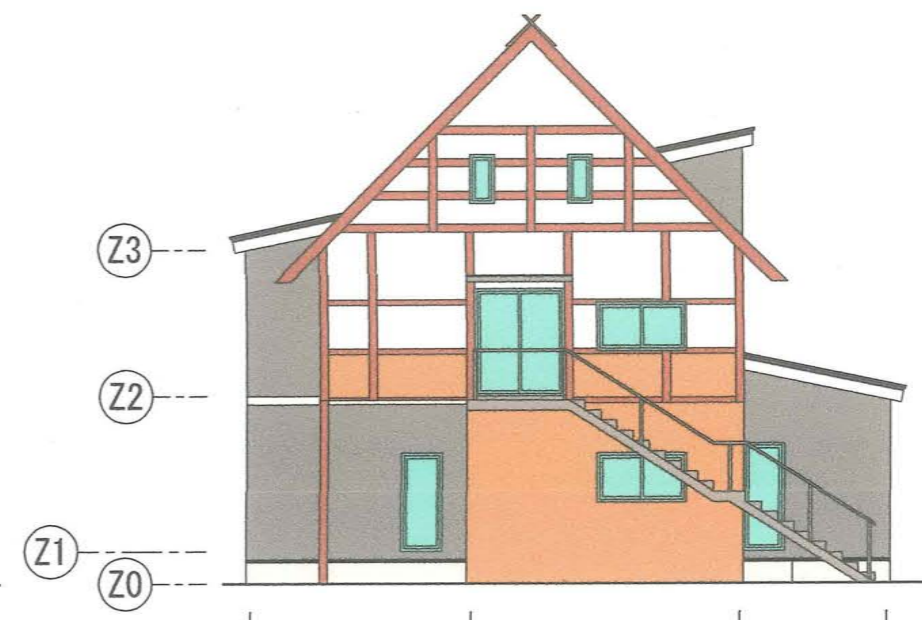
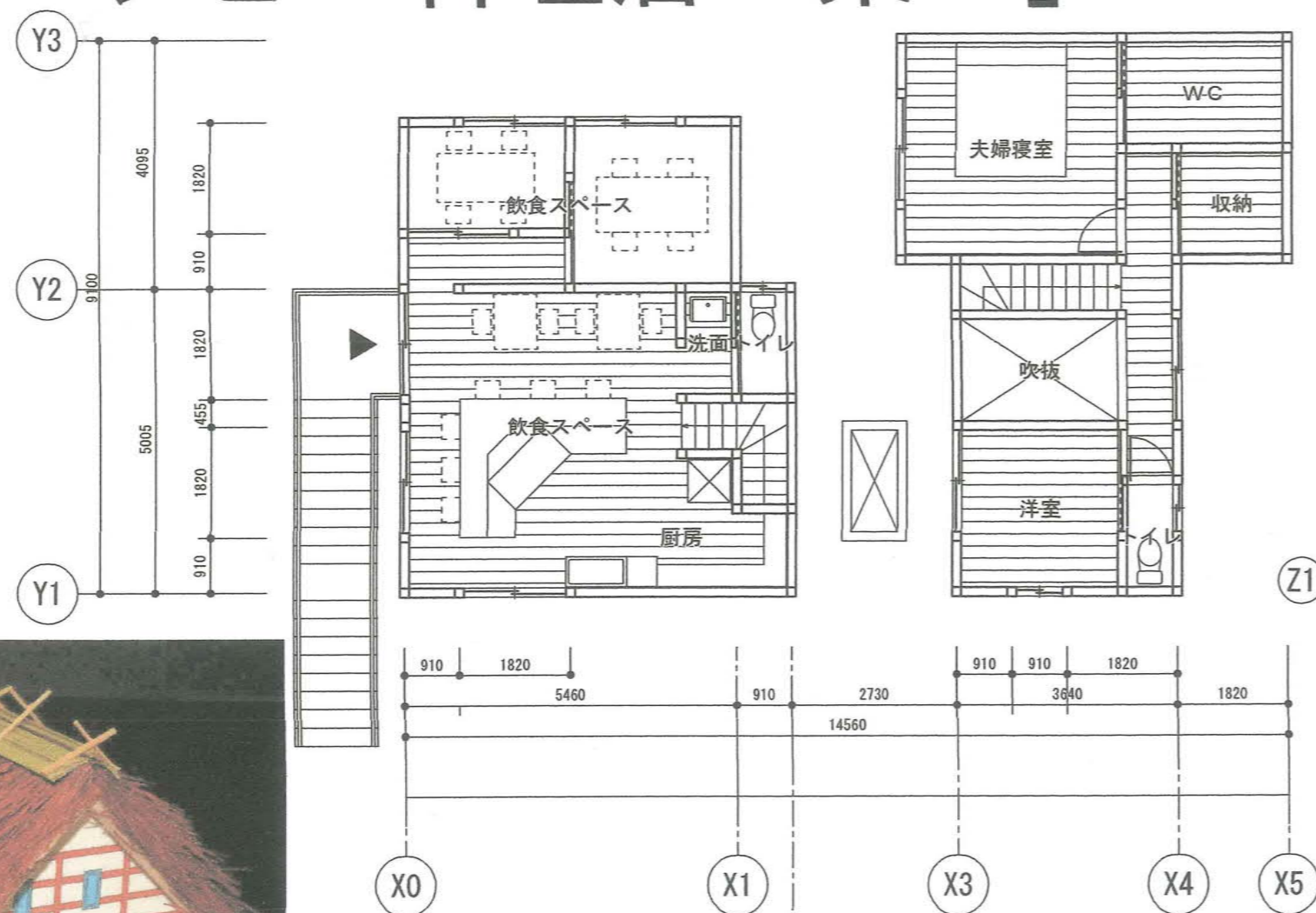
完全分離型の利点を取り入れ、生活空間を分けることでプライバシーの保護を図っています。一階を親世帯の住居兼共有スペースとして、庭で趣味の家庭菜園を家族ぐるみで楽しむこと出来る住宅です。

元々家庭菜園は祖父の趣味でしたが、今は父母も一緒になって楽しんでいます。開放的なリビングからは農作業の様子や子供たちが遊んでいる様子を見ることができ、母はいつもほほえましくそれを見守っています。祖母は庭で獲れた野菜を料理することが趣味で、母と一緒に料理をすることもしばしば。普段から二世帯そろっての食事が多いですが、それに加えて濡れ縁の下に机を出してバーベキューを開催する日もあるようです。自然囲まれた空間は子育てにも最適で子供たちものびのびと活発に育っています。

本作品は、広い空間でも分立されることなく、身近に家族の温かみを感じられるように設計しました。家庭菜園から派生した料理や食事などの交流の時間が、この家族の絆をさらに深いものにしていくでしょう。



# ジビエ料理店「楽一」



軽トラックで乗り入れ  
できるようシャッター  
を配置した

新居浜市の害獣駆除数は、  
年々増加傾向にあります。  
主な被害として猪の農作物  
被害があり被害額は  
約810万円、1.88haとな  
っています。

## 設計主旨

新居浜市に建つ『ジビエ料理店「楽一」』は、別子銅山の麓の一角にある。店舗は和をイメージするデザインで、茅葺き屋根とし、別子銅山のふもとの風景に溶け込むような外観にした。

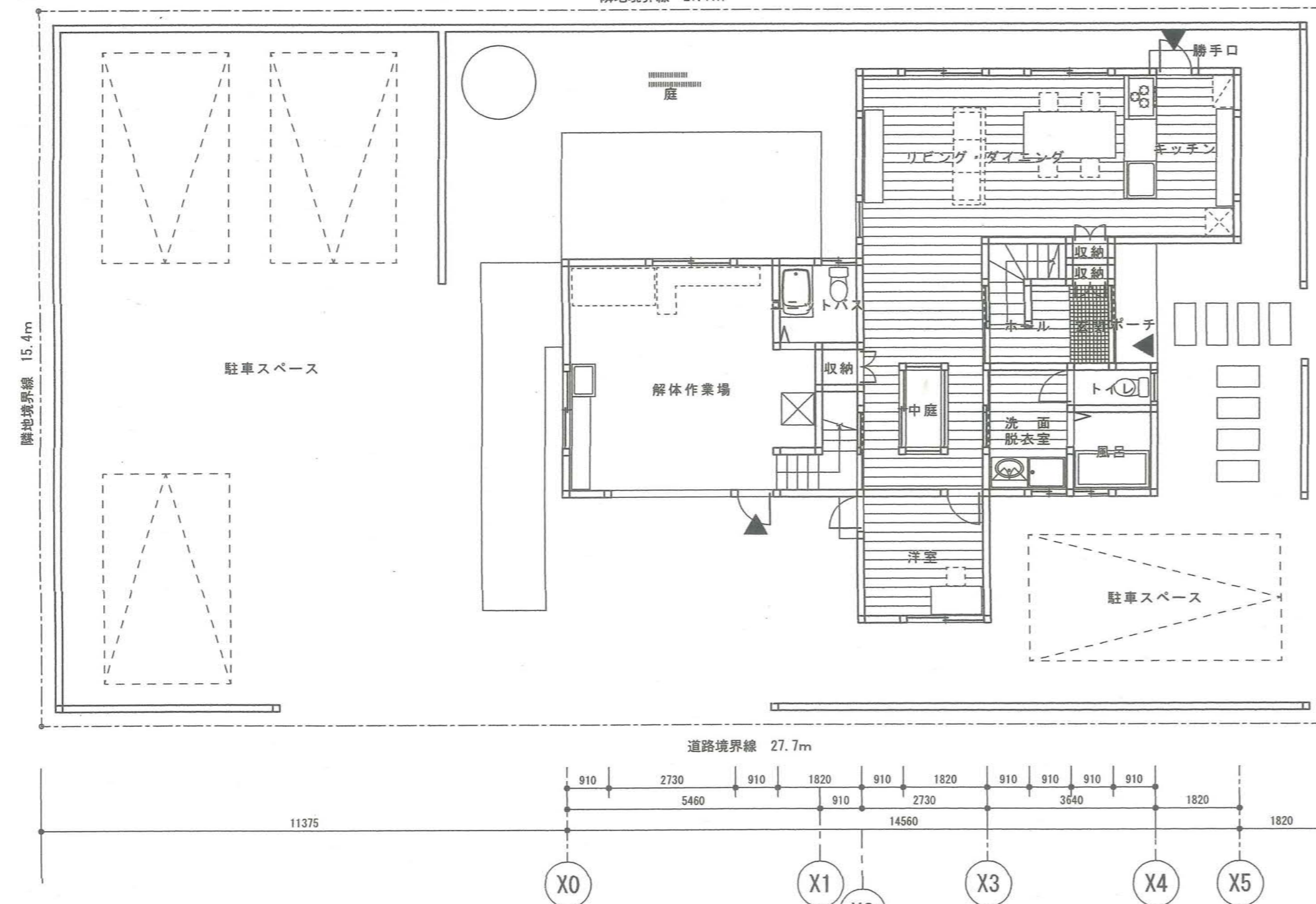
店内一階は、狩猟の父が農で獲った動物を解体し食用の肉にするための解体作業場があり、父が農を支度するスペース、汚れた体を洗えるユニットバスを配置した。

店舗二階は飲食スペースと調理スペースを設けており、店舗中央には炉端焼きで使用する焼き場を配置した。その周りにカウンター席を設け、調理風景を眺めながら食事を楽しめるよう工夫した。また、グループでも飲食できる個室を二部屋設けており、人数に応じて小規模の宴会ができるように工夫している。

住宅一階は解体作業場から行き来できるように設計しており、住宅からも、解体作業場からも行き来しやすい位置に父の部屋を配置した。

住宅二階には夫婦寝室を配置し、子供ができた時のことを考え洋室を一部屋設けた。玄関、ホールを吹抜けにすることにより二階から光を取り入れる工夫をした。

『ジビエ料理店「楽一」』は、父が行う狩猟で動物を捕獲することで害獣駆除、地域貢献ができ、捕獲した動物をジビエ料理で振舞うことでジビエ料理の発展にも貢献できるだろう。



配置図兼1階平面図 1:100